111

授業科目名	Active English I				
担当教員名	工藤 律子・麻畠 徳子・樫本 英之				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、オンデマンド型遠隔授業で実施します。基礎レベルの英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）に関する総合的な能力を身につけることを目的とします。基礎レベルとは、限られた語彙を用いて自分の身近な話題についてコミュニケーションをとることができるレベルを指します。各授業では、Reallyenglishというオンライン学習用教材を用いて、タブレットによるe-Learningを実施します。また、学習内容についての理解度を測るための英文聴解・読解テストも行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	英会話能力、英語読解・聴解能力、英作文能力	自信を持って英語でコミュニケーションをとることができる。足りない語彙力は、言い方を変えることによって補うことができる。英語で与えられた情報について、おおむね大意を理解することが出来る。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		各Lessonの学習課題を通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。同様に、聴解対象の説明も理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業貢献度	30 %	： 与えられた授業内課題に取り組む姿勢について、熱意、正確性、独創性を基準に判断し、評価の30%とします。
課題達成度	40 %	： Reallyenglishのオンライン学習課題について、その取り組みの進捗と提出内容から課題達成度を測り、評価の40%とします。
毎回の小テスト	20 %	： 第７回、第１４回の授業にて、既習範囲に基づいた小テストを実施し、その結果の平均点を換算して評価の20%とします。
定期試験	10 %	： 試験期間中に既習単元に基づいた実力テストを実施し、その結果を換算して評価の10%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

Reallyenglish,「Practical English Starter」コース,「Practical English 7」コース

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**ガイダンス、Lesson 1. How many emails do you write? (Listeningレッスン)** ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・タブレットの操作方法、オンライン学習の進め方を学びます。 ・日常生活についての聴解問題に取り組みます。	第1回で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】I'm a doctor	2時間
第２回	**Lesson 2. At the mall (Readingレッスン)** ・日常生活に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 2のコンテンツに基づいて読解練習をします。 ・英語能力レベルチェックテストを実施します。	第2回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】Let's meet at the mall	2時間
第３回	**Lesson 3. There's a nice jacket in the store (Grammarレッスン)** ・ショッピングに関する語彙を拡充します。 ・Lesson 3のコンテンツに基づいて文法学習をします。	第3回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】I like shopping	2時間
第４回	**Lesson 4. What do you have for breakfast? (Readingレッスン)** ・日常の食生活に関する語彙を更に拡充します。 ・Lesson 4のコンテンツに基づいて読解練習をします。	第４回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】When do you go to the gym?	2時間
第５回	**Lesson 5. What do you usually eat? (Listeningレッスン)** ・食生活に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 5のコンテンツに基づいて聴解練習をします。	第５回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】Let's order takeout	2時間
第６回	**Lesson 6. How do you get to work? (Listeningレッスン)** ・通勤手段に関する語彙を更に拡充します。 ・Lesson 6のコンテンツに基づいて聴解練習をします。	第1～6回 で学習した単語・表現を復習し、Review Quizに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】Public transportation	2時間
第７回	**【小括】Lesson 1～6 振り返り、単語テスト、Can-doチェック** ・Lesson1～6の学習範囲を振り返ります。 ・学習の理解度を測るReview Quizと単語テストを実施します。 ・これまでの学習成果を自己評価するCan-doチェックをします。	自分の学習成果を振り返り、今後の学習目標を定めます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第８回	**Lesson 7. I couldn't speak French when I was a child (Grammarレッスン)** ・可能性を表現する助動詞を拡充します。 ・Lesson 7のコンテンツに基づいて文法学習をします。	第８回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】It was very hot and sunny	2時間
第９回	**Lesson 8.This is the office (Listeningレッスン)** ・職場に関する語彙を更に拡充します。 ・Lesson 8のコンテンツに基づいて聴解練習をします。	第９回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】How many people work here?	2時間
第10回	**Lesson 9. This is my phone (Readingレッスン)** ・所有品に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 9のコンテンツに基づいて読解練習をします。	第10回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】I liked my old phone	2時間
第11回	**Lesson 10. I go sightseeing in the city (Readingレッスン)**	第11回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】I didn't play basketball	2時間

	・観光に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 10のコンテンツに基づいて聴解練習をします。		
第12回	**Lesson 11. Where are you going to go on vacation?（Grammarレッスン）** ・予定を表現する語彙を拡充します。 ・Lesson 11のコンテンツに基づいて文法学習をします。	第12回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】I play soccer every week	2時間
第13回	**Lesson 12.We went camping last year（Listeningレッスン）** ・余暇に関する語彙を更に拡充します。 ・Lesson 12のコンテンツに基づいて聴解練習をします。	第13回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】What did you do on the weekend?	2時間
第14回	**【総括】これまでの学習内容のまとめ、単語テスト** ・Lesson1～12の学習内容を振り返ります。 ・語彙力の伸張を測る単語テストを実施します。	第1~14回で学習した単語・表現を復習し、最終試験に備えます。【授業外課題レッスン名】My birthday's in June	2時間

111

授業科目名	Active English Ⅱ				
担当教員名	工藤 律子・麻畠 徳子・樫本 英之				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目はオンデマンド型遠隔授業で実施します。標準レベルの英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）に関する総合的な能力を身につけることを目的とします。標準レベルとは、英文法の知識に基づいて自分の身近な話題について正確に表現できるレベルを指します。各授業では、Reallyenglishというオンライン学習用教材を用いて、タブレットによるe-Learningを実施します。また、学習内容についての理解度を測るための英文法の確認や英文聴解・読解テストも行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	英文法力、英語読解・聴解能力、英作文能力	英文法を正しく運用し、正確に自己表現することが出来る。英語で与えられた情報について、細部の情報を理解することが出来る。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		各Lesson課題を通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。同様に、聴解対象の説明も理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業貢献度	30 %	： 与えられた授業内課題に取り組む姿勢について、熱意、正確性性、独創性を基準に判断し、評価の30%とします。
課題達成度	30 %	： Reallyenglishのオンライン学習課題について、その取り組みの進捗と提出内容から課題達成度を測り、評価の30%とします。
毎回の小テスト	20 %	： 第７回、第１４回に実施する既習範囲に基づいた小テストについて、その結果の平均点を換算して評価の20%とします。
定期試験	10 %	： 試験期間中に既習単元に基づいた実力テストを実施し、その結果を換算して評価の10%とします。
スピーキングテスト	10 %	： 第2回、第3回の授業内で、課題スピーチの暗唱課題に取り組み、課題に取り組む姿勢について、熱意、正確さ、流暢さを基準に判断し、評価の10%とします。課題提出は音声ファイルでの提出となります。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

Reallyenglish,「Practical English 7」コース

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**ガイダンス、Lesson 1. A typical day （Listening レッスン）** ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・課題スピーチの解説、暗唱練習を実施します。 ・Lesson 1のコンテンツに基づいて、日常生活についての聴解問題に取り組みます。	課題スピーチの音源を繰り返し聞いて暗唱テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第２回	**Lesson 2. Everyday Activities （Grammarレッスン）** ・日常生活に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 2のコンテンツに基づいて、日常生活についての文法問題に取り組みます。 ・課題スピーチの暗唱練習を実施します。	第2回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第３回	**Lesson 3. A Bad Day (Readingレッスン)** ・社交生活に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 3のコンテンツについて、日常生活についての読解問題に取り組みます。 ・課題スピーチの暗唱練習を実施します。	第3回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第４回	**Lesson 4. At the Supermarket (Listeningレッスン)** ・日常生活に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 4のコンテンツに基づいて聴解練習をします。 ・課題スピーチの暗唱試験を実施します。	第４回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第５回	**Lesson 5. Everyday Questions (Grammarレッスン)** ・ショッピングに関する語彙を拡充します。 ・Lesson 5のコンテンツに基づいて文法練習をします。	第５回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第６回	**Lesson 6. Good Food (Readingレッスン)** ・問いかけ文に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 6のコンテンツに基づいて5W2Hの疑問文について文法知識を整理します。	第2～6回 で学習した単語・表現を復習し、Review Quizに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第７回	**【小括】Lesson 1～5 振り返り、単語テスト** ・Lesson1～5の学習範囲を振り返り、Review Quizと単語テストを実施します。 ・日常生活に関する語彙を更に拡充します。	第７回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第８回	**Lesson 7. Where things are (Grammarレッスン)** ・日常生活に関する語彙を更に拡充します。 ・Lesson 7のコンテンツに基づいて前置詞について文法知識を整理します。	第８回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第９回	**Lesson8. The weekly shopping trip (Listeningレッスン)** ・ショッピングに関する語彙を更に拡充します。 ・Lesson 8のコンテンツに基づいて聴解練習をします。	第９回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第10回	**Lesson 9. Getting around (Readingレッスン)** ・移動手段に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 9のコンテンツに基づいて読解練習をします。	第10回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第11回	**Lesson 10. Making excuses (Grammarレッスン)** ・謝罪に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 10のコンテンツに基づいて接続詞について文法知識を整理します。	第11回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間

第12回	**Lesson 11. Using transportation (Listeningレッスン)** ・交通手段に関する語彙を更に拡充します。 ・Lesson 12のコンテンツに基づいて聴解練習をします。	第12回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第13回	**Lesson 12. Hotel reservations (Listening レッスン)** ・旅行に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 12のコンテンツに基づいて過去時制について文法知識を整理します。	第13回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第14回	**【総括】Lesson 1~13の学習内容まとめ、単語テスト** ・これまでの学習内容を振り返り、自分が伸ばせた能力について自己採点します。 ・語彙数の伸張を測る単語テストを実施します。	第1~14回で学習した単語・表現を復習し、最終試験に備えます。	2時間

112

授業科目名	Active English Ⅲ				
担当教員名	工藤 律子				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習（遠隔）				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼・小・中・高において、グラマー指導やコミュニケーションで必要な英語の指導を２０年行ってきた。また、カリキュラムの作成も担当し、１２年間一貫の教育にも携わった。（全１４回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、応用レベルの英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）に関する総合的な能力を身につけることを目的とします。応用レベルとは、アクティブのⅠやⅡで学んだ基本的なことを活かして、積極的な英語話者を養成します。各授業では、Reallyenglishというオンライン学習用教材を用いて、タブレットによるe-Learningを実施します。各授業では、単元ごとにフォーカスされた語彙も反復学習で習得します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	英会話能力、英語読解・聴解能力、英作文能力	自分の考えを伝えるだけでなく、その意見に対して理由を添えることができる。英語で与えられた情報に対し、簡単な英語で要約することができる。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、ジェスチャーなどの非言語を用いながら、英語でのやりとりができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題達成度	40 %	： Reallyenglishのオンライン学習課題について、その取り組みの進捗と提出内容から課題達成度を測り、評価の40%とします。
小テスト	30 %	： 授業の冒頭に実施する既習範囲に基づいた小テストについて、その結果の平均点を換算して評価の30%とします。
定期試験	20 %	： 試験期間中に既習単元に基づいた実力テストを実施し、その結果を換算して評価の20%とします。
リビュークイズ	10 %	： 7回目と14回目にリビュークイズを実施し、その結果を換算して評価の10%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

Reallyenglish,「Practical English 7」コース

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回２時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後・授業前

場所： 授業の場所

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**目標を設定しよう・Tell me about you** 現在の英語力を認識し、到達したいレベルを設定し、しっかりと計画を立てよう。初対面の人に対する質問をしよう。扱う文法事項（以下Gと表記）:時制	L1オンライン教材・語彙・表現・グラマーの復習	2時間
第2回	**A bad day・TOEIC　テストにチャレンジしよう** 社交と対人関係のテーマを通して、良い関係を構築するための会話を学ぶ。リーディングを通して情報を読み取る。英語能力レベルチェックテストを実施する。TOEICテストの結果を見て、振り返りを行う。	Ｌ２オンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第3回	**Enjoying yourself** 余暇と娯楽・心から楽しめるものを英語で表現し、ペアで質疑応答を行う。リーディングを通して情報を読み取る。	Ｌ３オンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第4回	**Expressions about personal possessions** 誰のものかを表す表現を学び、クイズをペアで考え出し合う。G:所有格。	L4オンライン教材・語彙・表現・グラマーの復習	2時間
第5回	**Cooking and food** 料理の素材を学び、レシピを英語で発表する。G:不定冠詞・There を用いた表現	Ｌ５オンライン教材・語彙・表現・グラマーの復習	2時間
第6回	**Good food** おいしい（栄養ある）食事について考える。・リーディングを通して情報を読み取る。	L6オンライン教材・語彙表現の復習	2時間
第7回	**リビュークイズ１・Arrange meeting** 会議（クラブ等のミーティングを含む）の日程調整について考え、実際にクラスでの仮想会議の日程調整を行う。・リーディングを通して情報を読み取る。 リビュークイズの結果を見て、振り返りを行う。	Ｌ７オンライン教材・語彙・表現・グラマーの復習	2時間
第8回	**Where I work** 自分の職場（就職したい会社を想定）についてペアでやり取りを行う。G:不定冠詞・名詞句	Ｌ８オンライン教材・語彙・表現・グラマーの復習	2時間
第9回	**Twins** ２つのものを比べる表現を学び、違いについて表現する。G:比較・形容詞・副詞	Ｌ９オンライン教材・語彙・表現・グラマーの復習	2時間
第10回	**A good place to live** 自分にとって住み心地の良い町についてスピーチする。住み心地の良い町の条件に付いて議論する。G:最上級・形容詞・副詞	Ｌ１０オンライン教材・語彙・表現・グラマーの復習	2時間
第11回	**Where is it?** 道案内の表現を学び、ペアワークでショートスキットを行う。G：場所・位置にまつわる前置詞	Ｌ１１オンライン教材・語彙・表現・グラマーの復習	2時間
第12回	**Good feelings** ビジネスにおける成功をテーマに、好ましい感情の伝え方を学ぶ。・リーディングを通して情報を読み取る。	Ｌ１２オンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第13回	**Good friends** 社交と対人関係をテーマに、家族と友人との関係について考える。・リーディングを通して情報を読み取る。	L13オンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第14回	**リビュークイズ２・A smart criminal** 社会と政治をテーマに、ルール（学校・身の回り・家庭・社会）について考える。・リーディングを通して情報を読み取る。 リビュークイズの結果を見て、振り返りを行う。	L14オンライン教材・語彙・表現の復習	2時間

112

授業科目名	Active English Ⅳ				
担当教員名	工藤 律子				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習（遠隔）				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼・小・中・高において、グラマー指導やコミュニケーションで必要な英語の指導を２０年行ってきました。また、カリキュラムの作成や１２年間一貫教育の内容にも携わってきました。（全１４回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、発展レベルの英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）に関する総合的な能力を身につけることを目的とします。発展レベルとは、英語でのやりとりを行うだけでなく、英語でのスピーチやプレゼンテーションができるレベルを指します。各授業では、Reallyenglishというオンライン学習用教材を用いて、タブレットによるe-Learningを実施します。また、学習内容についての理解度を測るため、授業内では英会話練習や英文聴解・読解も行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	英会話力、英語読解・聴解能力、英作文能力	様々な媒体の英語の情報を理解し、理解したことを相手に伝える（話す・書く）ことができる。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		教員と学生相互にインターネットを介してコミュニケーションとオーラルコミュニケーションの両方により主体的に英語を使用する意思疎通の活動を行う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題達成度	40 %	： Reallyenglishのオンライン学習課題について、その取り組みの進捗と提出内容から課題達成度を測り、評価の40%とします。
小テスト	30 %	： 授業の冒頭に実施する既習範囲に基づいた小テストについて、その結果の平均点を換算して評価の30%とします。
定期試験	20 %	： 試験期間中に既習単元に基づいた実力テストを実施し、その結果を換算して評価の20%とします。
リビュークイズ	10 %	： 1回目と7回目の授業で、それまでに学習した内容についてのクイズを行い、評価の10%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

Reallyenglish,「Practical English 7」コース

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回２時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前・授業後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： オフィスアワーの日時は初回授業時に連絡します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**目標を設定しよう/ Ways to spend your free time・TOEICテストにチャレンジしよう** 現在の英語力を認識し、到達したいレベルを設定し、しっかりと計画を立てよう。 自由時間をどのように過ごしているかをペアワークで行う。TOEICテストの結果を見て、振り返りを行う。扱う文法事項（以下Gと表記）:動詞・動名詞	L1のオンライン教材・語彙・表現・グラマーの復習	2時間
第2回	**Directing someone around town** 道案内の表現を学び、ショートスキットを行う。	Ｌ２のオンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第3回	**Healthy habits** 日常生活を振り返り、健康的な日常をするには何をすればよいかを考え、ペアでアドバイスを行う。G:単純現在・頻度を表す副詞	Ｌ３のオンライン教材・語彙・表現・グラマーの復習	2時間
第4回	**Eating at a restaurant** レストランを予約し、注文するまでの一連の流れをペアワークで行い発表する。	Ｌ４のオンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第5回	**At the airport** 空港で見かけるサインが表すことを理解し、出国手続きや入国手続きのやりとりをペアで行う。・リーディングを通して情報を読み取る。	Ｌ５のオンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第6回	**Enjoying the weekend** 週末の予定を発表し、疑問詞を用いて質疑応答を行う。	Ｌ６のオンライン教材・語彙・表現・の復習	2時間
第7回	**リビュークイズ１・Planning to go out** 週末や長期休暇や放課後などの予定を書きだし、発表を行う。発表に対し、質疑応答を行う。 リビュークイズの結果を見て、振り返りを行う。	Ｌ７のオンライン教材・語彙・表現・グラマーの復習	2時間
第8回	**A disastrous holiday** 過去の休日を振り返り、一番印象深い出来事について発表する。G:過去時制	Ｌ８のオンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第9回	**Directing someone around the office** 建物（会社・ショッピングセンターなど）の中の道案内を学び、ペアでショートスキットを行う。	Ｌ９のオンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第10回	**Getting to your hotel** ホテルまでの行き方についてペアでショートスキットを行う。	Ｌ１０のオンライン教材・語彙・表現・グラマーの復習	2時間
第11回	**Layout an office** オフィスのレイアウトを学び、最適な自分の部屋のレイアウトを考え発表する。G:場所・位置を表す前置詞	Ｌ１１オンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第12回	**Ordering a meal in a restaurant** レストランでの注文の仕方を学び、実際にある店を基にペアでショートスキットを行う。	Ｌ１２オンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第13回	**Looks and appearance** 人の描写の表現を学び、互いにクイズを出し合う。・リーディングを通して情報を読み取る。	Ｌ１３オンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第14回	**リビュークイズ２・Parts of the body** 身体の部位を学び、医療現場や学校で自分の健康状態を伝える。 リビュークイズの結果を見て、振り返りを行う。	Ｌ１４のオンライン教材・語彙・表現の復習	2時間

111

授業科目名	**海外語学演習（韓国語）**				
担当教員名	金 素辰				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期・後期集中	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業は、海外語学留学・短期交換留学のため韓国の大学に向かう学生を対象に、留学生活をスムーズに開始し、現地に適応して有意義な留学生活を過ごすことができるように、事前に様々な情報や言語、文化などを学ぶ授業です。韓国について、言語・文化・マナー・歴史・地形や気候など多様な観点から学び、現地での留学生活が円滑かつ充実にできるように進めていきます。また留学生活での不安がなくなるように、受講生個々の意見を聞きながら積極的にサポートしていきます。なお本科目は、現地での語学留学(19日)と事前(4回)・事後(1回)授業を含めて単位を修得するものです。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	言語をはじめ、異文化理解のための知識を養い、判断力・思考力を高めていく。	円滑な留学のための基礎知識を身につけ、海外語学研修を完遂することができる。
汎用的な力		
1. DP6.行動・実践		留学生活を通して得た言語や異文化理解の知識を持って自ら積極的に行動し、実践力を深めることができる。
2. DP7.完遂		主体性をもって自身の目標を立て、現地の文化体験、韓国語の学習体験等を実行し、海外語学研修を完遂することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
1. 事前授業における参加状況	30 %	： 事前授業への取り組み状況、ワーク(韓国語や留学生活・異文化の理解に関する課題や発表など)への参加度と完成度を基準に評価する。
2. 留学生活における学習状況	40 %	： 留学生活においての参加度・学習度や完遂可否を現地大学および学生の研修報告シートにより評価する。
3. 事後授業における到達状況	30 %	： 留学生活に関するレポート課題とプレゼンテーションを、表現の正確性、データの適切性、伝達力、PPTの完成度などにより評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『韓国語と韓国文化(初級)1、2』韓国国立国語院(夏雨出版社、2020)
『韓国-ことばと文化』延恩株(論創社、2021)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修時間が必要となる（事前授業・事後授業・語学研修・授業外学修の合計時間）。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

備考・注意事項：　授業の前後またはメールで対応します。
Ｅメール：haianksj@naver.com
学籍番号と氏名は必ず入れること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**【海外留学についての学習】** 1.海外留学の目的、意義などについて考える。 2.個人ごとに韓国留学についての動機、意味などについて話しながら目的を明確にしていく。	1.留学についての学習内容をまとめ、チェックリストを作成する。2.各自の留学の目的・意義を再度整理する。	4時間
第2回	**【韓国語の学習・韓国語での自己紹介】** 1.簡単な韓国語での質疑応答により、語学力を確認する。 2.プリントに沿って、単語や文型・簡単な会話例文を暗誦できるよう練習する。 3.自己紹介文を作成し、暗記する。	1.学んだ韓国語の復習と自己紹介文の暗記をする。2.課題のプリントを完成する。	4時間
第3回	**【韓国についての全般的な理解】** 1.前回の単語や文型、課題を確認する。 2.韓国についての全般的な知識(地形・環境・気候・行政区域など)を学習する。	1.韓国についての内容を復習する。2.課題レポートを完成する。	4時間
第4回	**【韓国の文化・交通・留学中の注意点についての学習】** 1.韓国の生活習慣や文化の特徴、ソウルの交通や名所について学び、また留学中の注意点などについても理解する。 2.授業内容や課題レポートを参考にし、日本との共通点、異なる点などを積極的に話し合いながら、異文化への理解を深める。	1.今まで学んだ韓国や留学に関する知識をまとめ、現地の留学に備える。2.自己紹介を完璧に練習する。	4時間
第5回	**【韓国語留学(19日間)】** 留学先の大学における語学研修。	現地授業での課題や復習をする。	4時間
第6回	**【語学留学で習得した成果のまとめ】** 1.語学留学を終え、留学生活で学んだこと、得たこと、体験したことなどについてプレゼンテーションする。異文化理解の観点から自身の認識や行動の変化などについてもまとめる。 2.学生同士でお互いの様々な体験や感じたことなどについて話し合いながら留学の意義や目的について評価してみる。	語学研修全体に対する感想(発表内容)をまとめ、レポートを作成する。	4時間

111

授業科目名	**韓国語Ⅰ**				
担当教員名	金 素辰				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

本授業は韓国語を全く知らない学習者が基礎からしっかり学び、韓国の生活や文化を理解しながら基本的な日常会話ができることを目標としています。文字である「ハングル」や発音の修得からはじめ、基本文型や文法を学びながら「スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング」の領域をバランスよく学習していきます。特に映像など様々な資料を用いて、初心者が韓国語を身近に感じ、より楽しく身につけることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	韓国語に関する知識(文字・語彙・文法・文型)	韓国語の文字・語彙・文法・文型などの知識を修得すると同時に、言語と文化的背景への理解ができる。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	韓国語の表現技能(話す・聞く・読む・書く)	韓国語の表現技能(話す・聞く・読む・書く)を学び、実践的な場で適切なコミュニケーションができる。

汎用的な力	
1. DP7.完遂	学習した単語や構文を指定した条件に適切に応用しながら課題を完成させることができる。
2. DP8.意思疎通	韓国語を通じて異文化を理解し、違いと多様性を認め合い、互いを尊重するコミュニケーション能力が修得できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
・その他(以下に概要を記述)

文字の学習の段階では毎回振り返りシートを使用し、学生相互で習得度を確認していく。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
1. 定期試験(筆記)	30 %	： 前期の学習内容(韓国語に関する知識である文字・語彙・文型・文法など)の理解度・修得度を基準に評価します。
2. 授業内小テスト	30 %	： 確認の小テストを3回行い、学習内容の理解度・修得度を基準に評価します。
3. 授業内ワーク		： 授業でアクティブラーニング活動(単元の内容を中心とした書きや問答、読み、発表、ペアワークの会話、ゲーム型学習など)を行います。その結果の理解度・参加度・応用度などを基準に評価します。

20　%

4.課題物　:　学習内容の定着のための課題を出します。提出の可否と内容の完成度を基準に評価します。

20　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
西江(sogang)大学韓国語教育院	・New 西江韓国語(Sogang Korean)1A[日本語版]	・西江(sogang)大学国際文化教育院出版部	・2022　年

参考文献等

・『標準韓国語文法辞典』韓国国立国語院、アルク出版社、2012
・『どんどん身につく韓国語 語彙(単語)マスター編(日本語版)』オ・スンウン、多楽院、2014
・『韓国語と韓国文化(基礎)』韓国国立国語院、夏雨出版社、2020
・『New 西江韓国語(Sogang Korean)1A Workbook』西江(sogang)大学韓国語教育院、西江(sogang)大学国際文化教育院出版部、2022

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は入門の段階であるだけに、文字を丁寧に書くこと、発音を正確にすること、対話練習に積極的に参加することに心がけてください。又本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間以上の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

備考・注意事項：　授業の前後またはメールで対応します。
Eメール：haianksj@naver.com
学籍番号と氏名は必ず入れること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**【韓国語(ハングル)の紹介】、【ハングル第1課】(1)「母音1」と「挨拶表現」** ①韓国語(ハングル)の紹介ーハングルの起源や構造を理解していく。 ②基本母音６個と単語を学ぶ。 ③挨拶表現－初めて会った時の挨拶や日常会話の中の基本的な挨拶について学ぶ。	1.復習:「母音1」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『挨拶表現』を読みながら覚える。2.予習:次回の「子音1」(P16-17)を発音しながら書いてみる。	1時間
第2回	**【ハングル第1課】(2)「子音1」と「自己紹介の表現」** ①子音４個と単語を学ぶ。母音と子音の組み合わせを学ぶ。 ②自己紹介表現－初対面での挨拶や自己紹介でよく使われる文型を学び、実際に使えるように練習していく。	1.復習:「子音1」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『自己紹介表現』を読みながら覚える。2.予習:次回の「母音2」(P18)を発音しながら書いてみる。	1時間
第3回	**【ハングル第2課】(1)「母音2」と「疑問表現1」** ①二重母音5個と単語を学ぶ。 ②事物について聞く「何ですか」の韓国語文型を学び、実際に使えるように練習していく。 ③名前のハングル表記について学び、自分と友達の名前をハングルで書き、読めるようにする。	1.復習:「母音2」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『疑問表現1』を読みながら覚える。2.予習:次回の「子音2・パッチム1」(P18-19)を発音しながら書いてみる。	1時間
第4回	**【ハングル第2課】(2)「子音2・パッチム1」と「疑問表現2」** ①子音5個・パッチム4個と単語を学ぶ。 ②場所について聞く「どこですか」の韓国語文型を学び、実際の場面で使えるように練習していく。	1.復習:「子音2・パッチム1」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『疑問表現2』を読みながら覚える。2.予習:次回の「母音3」(P20)を発音しながら書いてみる。	1時間
第5回	**【ハングル第3課】(1)「母音3」と「存在表現1」** ①二重母音5個と単語を学ぶ。 ②存在の有無を表す表現として「ーがいますか・いませんか」「ーがありますか・ありませんか」の韓国語文型を学び、実際の場面で使えるように練習していく。	1.復習:「母音3」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『存在表現1』を読みながら覚える。2.予習:次回の「子音3・パッチム2」(P20-21)を発音しながら書いてみる。	1時間
第6回	**【ハングル第3課】(2)「子音3・パッチム2」と「存在表現2」** ①子音(激音)5個・パッチム5個と単語を学ぶ。 ②存在する場所や位置を聞く「どこにいますか・ありますか」などの韓国語文型を学び、実際の場面で使えるように練習していく。	1.復習:「子音3・パッチム2」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『存在表現2』を読みながら覚える。2.予習:次回の「母音4」(P22)を発音しながら書いてみる。	1時間
第7回	**【ハングル第4課】(1)「母音4」と「漢数詞(電話番号)」**	1.復習:「母音4」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『漢数詞』を読みながら覚える。2.予習:次回の「子音4」(P22-23)を発音しながら書いてみる。	1時間

	①二重母音5個と単語を学ぶ。 ②漢数詞の韓国語表記や読みを覚え、韓国語で電話番号が言えるように練習していく。		
第8回	**【ハングル第4課】(2)「子音4・パッチム3」と「固有数詞(単位)」** ①子音(濃音)5個・パッチム10個と単語を学ぶ。 ②固有数詞の韓国語表記や読みを覚え、韓国語でものが数えるように練習していく。	1.復習:「子音4・パッチム3」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『固有数詞』を読みながら覚える。	1時間
第9回	**【ハングルの総復習】、【韓国語と日本語の比較】** ①母音21個、子音19個、総40個で構成されているハングル文字を全体的に復習し、完全に身につけるようにする。 ②韓国語と日本語の共通点や差を比較しながらまとめ、今後文型や文法を学んでいく上でのベースを構築しておく。	1.復習:ハングルが完全に自分のものになるように繰り返して覚える(プリント)。2.予習:次回の単語や会話を読んでくる(P26-27)。	1時間
第10回	**【準備1課】『お会いできてうれしいです』** ①[文法]－基本語尾「－です」、疑問詞「何、どの」、主題助詞「-は」に当る韓国語を学ぶ。 ②[会話1]－初対面の場で相手の名前と国籍を尋ねたり、自分の名前と国籍を答えたりする場面での会話を練習する。 [会話2]－初対面の場で相手の職業を尋ねたり、自分の職業を答えたりする場面での会話を練習する。	1.復習:自己紹介の文型(p25-27)、語彙(国名・職業名、p29)を読み書きしながら覚える。2.予習:次回の単語や会話を読んでくる(P34-35)。	1時間
第11回	**【準備2課】 『これは何ですか』** ①[文法]－指示代名詞「これ/それ/あれ」、疑問詞「誰」、所有格助詞「－の」に当る韓国語について学ぶ。 ②[会話1]－ものの名前を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。 [会話2]－ものの所有者について尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。	1.復習:疑問表現(p31-35)、語彙(事物、p37)を読み書きしながら覚える。2.予習:次回の単語や会話を読んでくる(P42-43)。	1時間
第12回	**【準備３課】 『コーヒーください』** ①[文法]－存在を表す「あります・ありません」文型、固有数詞「ひとつ、ふたつ...」、単位名詞「名、個、瓶、冊など」について学ぶ。 ②[会話1]－物の有無を聞いて注文する場面での会話を練習する。 [会話2]－物の有無やその数量を聞いて注文する場面での会話を練習する。	1.復習:存在表現(p40-43)、語彙(固有数詞、飲料p45)を読み書きしながら覚える。2.予習:次回の単語や会話を読んでくる(P50-51)。	1時間
第13回	**【準備４課】 『どこにありますか』** ①[文法]－主格助詞「－が」、[場所＋にあります・います]文型、場所につく助詞[－に]、疑問詞「どこ」について学ぶ。 ②[会話1]－人がいる場所を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。 [会話2]－ある場所の位置を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。	1.復習:存在する場所を言う表現(p49-51)、語彙(場所名p53)を読み書きしながら覚える。準備1～4までの文型をまとめる(プリント)。	1時間
第14回	**【韓国文化とのふれあい】、【前期内容のまとめ】** ①前期に学習した語彙、文法、文型などを確認する。 ②韓国の文化とのふれあいを通じて異文化を理解し、分かち合う楽しさを味わいながら、互いを尊重するグローバル的なマインドの重要性について考えてみる。	1.復習:前期に学習した語彙、文法、文型などをまとめて整理する(プリント)。	1時間

111

授業科目名	**韓国語Ⅱ**				
担当教員名	金 素辰				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

本授業は「ハングル」や基本文法を学んだ学習者を対象に基本文型や文法をレベルアップし、日常的な韓国語コミュニケーション能力を向上することを目標としています。「スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング」をバランスよく学習しつつ、実際に接する場面を重点的に取り上げ、自然で生きた韓国語を楽しく身につけていくことを目指します。又学習者の活動を増やし、知っている言語ではなく実際に使える言語に発展させていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	韓国語に関する知識(語彙・文法・文型)	韓国語に関する知識である語彙・文法・文型を修得し、基本的な日常会話ができる。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	韓国語の表現技能(話す・聞く・読む・書く)	韓国語の表現技能(話す・聞く・読む・書く)を身につけ、実践的な場で適切なコミュニケーションができる。
汎用的な力		
1. DP7.完遂		学習した単語や構文などを指定した条件に適切に応用しながら課題を完成させることができる。
2. DP8.意思疎通		韓国語を通じて異文化を理解し、違いと多様性を認め合い、互いを尊重するコミュニケーション能力が修得できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
1. 定期試験(筆記)	30 %	： 後期の学習内容(韓国語に関する知識である語彙・文型・文法など)の理解度・修得度を基準に評価します。
2. 授業内小テスト	30 %	： 確認のテストを3回行い、学習内容の理解度・修得度を基準に評価します。
3. 授業内ワーク	20 %	： 授業でアクティブラーニング活動(単元の内容を中心とした書きや問答、読み、発表、ペアワークの会話、ゲーム型学習など)を行います。その結果の理解度・参加度・応用度などを基準に評価します。
4. 課題物	20 %	： 学習内容の定着のための課題を出します。提出の可否と内容の完成度を基準に評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
西江(sogang)大学韓国語教育院	・New 西江韓国語(Sogang Korean)1A[日本語版]	・西江大学国際文化教育院出版部	・2022　年

参考文献等

・『標準韓国語文法辞典』韓国国立国語院、アルク出版社、2012
・『どんどん身につく韓国語 語彙(単語)マスター編(日本語版)』オ・スンウン、多楽院、2014
・『韓国語と韓国文化(初級1)』韓国国立国語院、夏雨出版社、2020
・『New 西江韓国語(Sogang Korean)1A Workbook』西江(sogang)大学韓国語教育院、西江(sogang)大学国際文化教育院出版部、2022

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は入門の段階であるだけに、文字を丁寧に書くこと、発音を正確にすること、対話練習に積極的に参加することに心がけてください。又本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間以上の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業の前後またはメールで対応します。
Ｅメール：haianksj@naver.com
学籍番号と氏名は必ず入れること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**【第1課 『電話番号が何番ですか』】(1)「文法」と「会話1・2」** ①[文法]－漢数詞、電話番号の読み書き方、日付(年月日)、疑問詞「何番、いつ、いくら」に当る韓国語について学ぶ。 ②[会話1]－電話番号を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。 [会話2]－誕生日を尋ねたり答えたり、祝ったりする場面での会話を練習する。	1.復習：文型や本文(p56-59)、語彙(漢数詞p69)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P62-63)。	1時間
第2回	**【第1課『電話番号が何番ですか』】(2)「会話3」と「リーディング(読解)」** ①[会話3]－ものの値段を聞いて買い物する場面での会話を練習する。 ②[リーディング]－「家の電話番号が705-7189です」：電話番号を含んだ自己紹介文を読み、内容を理解する。	1.復習：文型や本文(p62-63),語彙(読解関連p69)をを読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P67-69)。	1時間
第3回	**【第1課『電話番号が何番ですか』】(3)「リスニング(聴解)」,「第1課のまとめ」** ①[リスニング]－「5月26日が私の誕生日です」：電話をし、電話番号や誕生日を尋ねる会話を聞いて内容を理解する。 ②第1課の文法や文型をまとめて整理する。	1.復習：文型や本文(スクリプト)、語彙(聴解関連p69)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P76-77)。	1時間
第4回	**【第2課『どこに行きますか』】(1)「文法1・2」と「会話1・2」** ①[文法1、2]－固有数詞：時間「時、分」,疑問詞「何時」,「場所+に行く」に当る韓国語について学ぶ。 ②[会話1]－午前・午後の日程を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。 [会話2]－「場所+に行く」の文型を用いて行先を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。	1.復習：文型や本文(p72-73、76-77)、語彙(時間関連p87)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P74-75、78)。	1時間
第5回	**【第2課『どこに行きますか』】(2)「文法3・4」と「会話3」,「リーディング(読解)」** ①[文法3, 4]－現在平叙形語尾「－ます形1」,「時間+に」に当る韓国語について学ぶ。 ②[会話3]－一日の日程を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。 ③[リーディング]－「ソウルは朝7時です」：「時間+に～する」が含まれた日程文を読み、内容を理解する。	1.復習：文型や本文(p81)、語彙(読解関連p87)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P85-86)。	1時間
第6回	**【第2課『どこに行きますか』】(3) 「リスニング(聴解)」,「第2課のまとめ」** ①[リスニング]－「1時に時間がありますか」：電話で約束を決める会話を聞いて内容を理解する。 ②第2課の文法や文型をまとめて整理する。	1.復習：文型や本文(スクリプト)、語彙(聴解関連p87)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P94-95)。	1時間
第7回	**【第3課『劇場で映画を見ます』】(1) 「文法1・2」と「会話1・2」** ①[文法1, 2]－目的格助詞「－を」,現在平叙形語尾「－ます形2」,「何しますか」に当る韓国語について学ぶ。 ②[会話1]－「週末に何しますか」：週末の計画(予定)を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習していく。 [会話2]－「映画を見ます」：一日の計画(予定)を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習していく。	1.復習：文型や本文(p90-91、94-95)、語彙(動詞p92)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P93、96)。	1時間
第8回	**【第3課『劇場で映画を見ます』】(2)「文法3」と「会話3」**	1.復習：文型や本文(p93、96)、語彙(行動、曜日p105)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P99-100)。	1時間

	①[文法3]－行動が行われる場所を表す助詞「－で」,「場所+－ます形」,「曜日」に当る韓国語について学ぶ。 ②[会話3]－「体育館で運動します」:曜日別の計画(予定)を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。		
第9回	**【第3課『劇場で映画を見ます』】(3)「リーディング(読解)」** ①[リーディング]－「学校でテコンドを習います」:「場所+で～する」が含まれた曜日別の日程文を読み、内容を理解する。 ②[作文]－曜日別の計画(予定)を書く。	1.復習：文型や本文(p99)、語彙(読解関連p105)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P103-104)。	1時間
第10回	**【第3課『劇場で映画を見ます』】(4)「リスニング(聴解)」,「第3課のまとめ」** ①[リスニング]－「私も映画が好きです」：映画を見に行く約束を決める会話を聞いて内容を理解する。 ②第3課の文法や文型をまとめて整理する。	1.復習：文型や本文(スクリプト)、語彙(聴解関連p105)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P112-113)。	1時間
第11回	**【第4課『昨日学校に行きませんでした』】(1)「文法1・3・4」と「会話1・3」** ①[文法1, 3, 4]－過去平叙形語尾「－ました」,時間関連用語,助詞「－も」に当る韓国語について学ぶ。 ②[会話1]－「3日前に買いました」:過去形を用いて、買い物をしたことを話す場面での会話を練習する。 [会話3]－「料理もしました」:過去形を用いて、昨日したことについて話す場面での会話を練習する。	1.復習：文型や本文(p108、110-112、114)、語彙(時間関連、行動p123)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P117-118)。	1時間
第12回	**【第4課『昨日学校に行きませんでした』】(2)「文法2」と「会話2」,「リーディング(読解)」** ①[文法2]－動詞や形容詞の否定形「－しない、－くない」について学ぶ。 ②[会話2]－「学校に行きませんでした」：否定過去形を用いてできなかったことやその理由を話す場面での会話を練習する。 ③[リーディング]－「パーティーが11時に終わりました」:パーティーでの行動や状況が書かれている文を読み、内容を理解する。	1.復習：文型や本文(p113、117)、語彙(読解関連p105)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P121-122)。	1時間
第13回	**【第4課『学校に行きませんでした』】(3)「リスニング(聴解)」** ①[リスニング]－「なぜ約束の場所に来ませんでしたか」：約束したのに会えなかった状況で、その理由を尋ねたり答えたりする会話を聞いて内容を理解する。 ②第4課の文法や文型をまとめて整理する。	1.復習：文型や本文(スクリプト)、語彙(聴解関連p105)を読み書きしながら覚える。第1～4課までの文型をまとめる(プリント)。	1時間
第14回	**【韓国文化とのふれあい】,【後期内容のまとめ】** ①後期に学習した語彙、文法、文型などを確認する。 ②韓国の文化とのふれあいを通じて異文化を理解し、分かち合う楽しさを味わいながら、互いを尊重するグローバル的なマインドの重要性について考えてみる。	後期に学習した語彙、文法、文型などをまとめて整理する(プリント)	1時間

111

授業科目名	**中国語Ⅰ**				
担当教員名	和泉 ひとみ				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

初めて中国語を学ぶ学生を対象として、基礎的な中国語の運用能力の養成を目的とします。今学期は中国語の音声、初歩的な文法を習得することに重点をおき、簡単な文章が読め、日常生活に必要な最低限の表現を覚えることを目標にします。テキストには練習問題がたくさん設けてありますので、それをこなせば簡単な中国語ができるようになります。授業は文法の解説、例文の日本語訳、練習問題を使った作文の練習、本文の解釈、音声の練習という順に行い、単元が終わるごとに必ず小テストを実施します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	中国語の発音記号のルールを知る。会話に必要な文法のルールを知る。	中国語の発音記号が正確に読め、日常的に使うあいさつ表現や、動詞や形容詞を使った簡単な表現が言えたり書けたりする。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		中国語で自己紹介ができる。中国語で簡単な意思表示ができる。中国語圏の人に場所や時間、交通手段などを教えてあげられる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	50 %	： 中国語の発音記号が覚えられているか、基本的な文法を理解し日本語に訳したり中国語で書いたりできるか、よく使う単語や表現が覚えられているか、簡単な中国語を聴いて中国語で書いたり、日本語に訳したりできるか。
小テスト	20 %	： 学習した単元の単語や表現が覚えられているか。
課題	30 %	： テキストに載っている例文を日本語に訳せるか、練習問題ができているか。本文の発音練習をして正確に言えるようになったか。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
本間史・孟広学	・ 中国語ポイント４２	・ 白水社	・ 2023 年

参考文献等

ISBN 9784560069080

東京外国語大学　中国語モジュール　http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/

weblio中国語辞典　https://cjjc.weblio.jp

コトバンク　小学館　中日辞典　https://kotobank.jp/dictionary/cj03

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業中に行う課題や小テストは全て学期末の成績の一部となるので、休まずに出席して下さい。
言語を覚えるのに才能は関係ありません。時間をかけて勉強すれば必ずだれでも習得できますので、自分の将来の武器にできるよう頑張りましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所： メール

備考・注意事項： メールアドレス：izumi-h@g.osaka-seikei.ac.jp

課題や小テストの用紙に質問事項を書いてもらってもかまいません。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**中国語のアプローチ（中国概要）** 中国語を学ぶに当たって、その特徴や知っておいてほしいことについて話します。 さらに、中国の略字「簡体字」や発音記号などについて紹介します。	授業内容を復習する	1時間
第2回	**発音篇Ⅰ　母音と声調を組み合わせ練習** 声調：日本と違って漢字の一字一字には「抑揚頓挫」（音の高低)があります。文章で読むと自然にイントネーションが作られて、まるでメロディーのように美しく感じられます。 母音：７つの単母音、それが組み合わさった２重、３重母音について話します。３７個の母音を正しく発音してから声調にのせて発音練習。	発音動画の作成	1時間
第3回	**発音篇Ⅱ　子音と声調の組み合わせ** 子音：２１個の子音に声調をつけて発音練習。「子音＋母音」の発音練習。中国語の発音に関するルールも紹介。ルールに基づいて正しい発音を練習します。	発音動画の作成	1時間
第4回	**発音篇Ⅲ　さまざまな発音ルールや発音の変化を練習＆日常のあいさつ** 中国語の発音には３７個の母音（単独に使える）と２１個の子音があります。 子音は単独では使いません。子音は必ず母音と一緒に組み合わさって単語を形成します。	発音動画の作成	1時間
第5回	**復習テスト＆声調の組み合わせ、日常のあいさつ** 復習テスト実施後、P.11とP.13の単語、日常あいさつ用語を練習。言葉を覚える最初の一歩は単語です。単語を覚えることにつれて発音練習も楽しくなります。	発音動画の作成	1時間
第6回	**第１課　「私は学生です」** 動詞「是」の特徴や使い方、文型を使って置き換え練習します。 会話文を練習⇒２人ペアを組んでロールプレイ練習。 チャレンジの練習を講師といっしょに練習します。	日本語訳、発音動画の作成	1時間
第7回	**第２課　動詞述語文　「ごはんを食べる、あなたは何をのみますか？」** 第２課のポイントを逐一解説、練習します。 １．ご飯を食べる､コーヒーを飲む…動詞述語文 ２．あれは辞書ではありません…指示代名詞文 ３．これは誰の本ですか…疑問詞文 ４．これは父のメガネです…所有を表す｢的｣を解説＆練習。	日本語訳、発音動画の作成	1時間
第8回	**第２課　スキット「あなたは何がすきですか」** 動詞文の特徴や使い方を復習しながら、文型を使って置き換え練習していきます。 会話文を練習してから２人ペアを組んでロールプレイトレーニングをします。	日本語訳、発音動画の作成	1時間
第9回	**中間試験（１）筆記＆ 第３課　形容詞述語文「今日は忙しいですか」** 中間試験（１）筆記テストを行います。 形容詞述語文の特徴と他のポイントを解説し、練習します。	日本語訳、発音動画の作成	1時間
第10回	**第３課スキット「今日は忙しいですか」&自己紹介** 第３課スキット（本文）を解説、練習、ロールプレイトレーニングをします。 自己紹介の練習	日本語訳、発音動画の作成	1時間
第11回	**自己紹介の練習& 第４課「あなたはどこに住んでいる？」**	日本語訳、発音動画の作成	1時間

	前週につづき、自己紹介を練習し、次回の中間試験（２）の時に発表してもらいます。 すでに習ったところを見直し、ロールプレイトレーニングをします。 第４課のポイントを解説＆置き換え練習してから、スキットの本文に進みます。		
第12回	**中間試験（２）＆自己紹介の発表** 中間試験（２）筆記試験＆自己紹介発表 第１課～第４課のおさらい	練習問題	1時間
第13回	**第５課　数の数え方および物の数え方＆疑問詞「この辞書はいくらですか？」** 第５課のポイントを解説、練習してからスキットの本文に進みます。 本文を２人ペアを組んでロールプレイトレーニングをします。	日本語訳、発音動画の作成	1時間
第14回	**第６課のポイント ＆ 総復習** 第６課のポイントを解説、練習してから第１課～第５課のスキットを読む練習。 会話によく使うさまざまな決まり文句が教科書に出ていますので、しっかりと覚えましょう。	総復習	1時間

111

授業科目名	**中国語Ⅱ**				
担当教員名	和泉 ひとみ				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

前期までの中国語（１）を習得済みであること。
「相手を知ることこそ、共存共栄ができる」のが目標とします。
１３億の人口をもつ中国と中国以外の中国語圏の人々とのコミュニケーションを通じて、互いに手をとり共存共栄が実現できます。
この授業の最初の４回は、以前習った中国語の発音や発音に関する様々なルールを確認しながら練習し、第１課から第４課は復習の範囲とし、第５課より進み、日常会話のレベルアップを目指します。
また、実践できるために、授業内での暗記発表や文章を作る発表する機会を増やしていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	語学力を高めていくこと	語学力を高める、専門的知識を習得することにより、さらに視野を広げることができる。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		積極性および創造力を養う よりよい社会性とコミュニケーション力をもつことができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ、また、課題提出がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度	30 %	： 授業態度：教師の指示に従い、積極的に活動をする。グループ、ペアで協力しながら活動するなどの項目において、５段階で評価する。
授業内テストおよび課題の提出	35 %	： 授業内テスト：毎回授業のあとに行う１０問の小テスト。 課題提出：指示された範囲の教科書内のスキットを書き写す。
中間試験(２回)および期末試験	35 %	： 中間試験：復習するための筆記試験（100点満点）＋自己紹介の発表 期末試験：指定した範囲の筆記試験（100点満点）＋各課本文の読み

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

本間史 ・ 孟広学　　・ 中国語ポイント42　　・ 白水社　　・ 2023　年

参考文献等

ISBN 9784560069080

履修上の注意・備考・メッセージ

本授業は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で案内します

場所：　メール初回授業で案内します

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**発音の復習＆練習** 授業前に授業範囲を必ず予習してきてください。 発音ルールを確認しながら声調と組み合わせて積極的に声を出して練習する。 授業範囲：P.8〜P.13 授業内テスト（筆記）を行います。	学習した内容を復習し、単語部分（P.11&P.13）を暗記し、次回に発表する	2時間
第2回	**第１課〜第２課の復習** 全員P.11とP.13を口頭で発表します。 第１課〜第２課の文法ポイントを復習し、学生1人１人ポイントの文型に文章を作ってみる。 そして本文を読んだあと、ペアを組んでロールプレイします。 授業内テストを行います。（出てきた単語の漢字、発音記号と意味を書く）	第１〜２課のスキットを熟読 ＆ 第３課を予習	4時間
第3回	**第３課の復習** 第１課と第２課のスキットを全員暗唱発表 第３課の文法ポイントを復習し、学生１人１人ポイントの文型に文章を作ってみる。 そして本文を読んだあと、ペアを組んでロールプレイします。 授業内テストを行います。（第２回授業と同じ方式）	第３課スキットを熟読＆ 第４課を予習	4時間
第4回	**第４課の復習** 第３課のスキットを全員発表 第４課の文法ポイントを復習し、学生１人１人ポイントの文型を文章作ってみる。 そして本文を読んだあと、ペアを組んでロールプレイします。 プリントを配布「自己紹介」を練習し暗記する。 ＊第４回からルーズリブで教科書の内容を書き写します（書き方は授業中に指示する）。	次週に課題提出　第４課（P.26.27.28.29） &第４課スキット暗記する	4時間
第5回	**自己紹介の発表＆おさらい** 「自己紹介」の発表 第４課のスキット発表。 授業内テストを行います。 ＊来週は復習筆記テスト（リスニングも含む）をします。 範囲：今まで授業した部分。	授業した内容を復習する	4時間
第6回	**第５課　「この辞書はいくらですか？」** 第５課の文法ポイントを復習したあと、学生１人１人ポイントの文型に文章を作ってみる。 そしてスキットを解説、練習したあとペアを組んでロールプレイします。 授業内テストを行います。	次週に課題提出第5 課（P.30.31の２ページ） &第５課スキット熟読する	4時間
第7回	**第６課** 第５課の本文を全員発表。 第６課　ポイント解説してからいっしょに練習を考えます。 授業内テストを行います。	授業内容を復習する ＆第６課のスキットを予習	4時間
第8回	**第６課　スキット「あなたの誕生日はいつ？」** 第６課のスキットを解説、練習のあとはペアを組んでロールプレイします。 「数の応用」で遊ぼう！　学生全員参加しますーーー 　たとえば、A:あなたの誕生日はいつ？/ B:答える。/ C:聞き取る。 また、今日は何月何日、何曜日？　あなたの電話番号の最後４桁は何番ですか？、、、 授業内テストを行う	次週課題提出第６課のチャレンジと本文（P.36.37）	4時間
第9回	**第７課**	次回の中間試験のために勉強する。（範囲は需授業中に指示する）	4時間

	第７課ポイントを解説、練習、チャレンジの練習問題をいっしょに考えましょう。 スキットに進みます。 授業内テストを行います。		
第10回	**中間試験（１） ＆ 第７課のスキット** 中間試験（１）筆記試験（リスニングを含む） 第７課スキットを解説、練習したあと、ペアを組んでロールプレイします。 次週課題を提出する。	次週提出第７課のチャレンジ＆本文（P.40、41)を書く&スキットを熟読する。	4時間
第11回	**第８課** 第７課のスキット（本文）を１人１人読みます。 第８課のポイントを解説、練習、チャレンジの練習をいっしょに考えましょう。 リスニングの練習（１）最初は単語から。 授業内テストを行います。	第８課のスキット予習する	4時間
第12回	**第８課　スキット「あなたの発音はすごくいい！」** 第８課のスキットを解説、練習のあと、ペアを組んでロールプレイします。 短かい文章のリスニング練習	次週提出第８課のチャレンジ、本文を書く（P.44.45)＆第8課本文熟読する	4時間
第13回	**第６課～第８課おさらい** 第８課のスキットを１人１人読む発表。 第６課～第８課まで各課のポイントと本文を読む練習する。 短かい文章をリスニングを練習する。	授業した内容を復習する＆次週は第５課～第８課の文章を読む発表	4時間
第14回	**総復習＆本文の読む発表** 本文を読む発表（第５課～第８課） 総復習 期末試験（筆記）について	次回の期末発表のための総復習をする。期末試験（筆記）にそなえて勉強する。	4時間

111

授業科目名	**基礎日本語Ⅰ**				
担当教員名	浅野 法子				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

日本語の発音（拍、アクセント、母音の無声化）を中心に学習する。また、演習形式も取り入れて日本語能力試験N1合格を目指す。N1合格に必要なのは聴解力と読解力だが、本学では聴解力が合格ラインに達していない受験者は少ないので本講義では読解力の養成に重点をおく。また、読解力の獲得で重要なのは、思考力、「一般知識」、文字・語彙・文法の知識の獲得だが、本講義では思考力（筆者の意図や主張を丁寧に正確に把握し、筋道を立てて選択肢を吟味する力）の獲得を重視する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	身近な話題について書かれた平易な文章を読んで、その主旨を理解することができる。	日本語能力試験N1において80点を獲得することを目指す。
汎用的な力		
1. DP6.行動・実践		自己の学習過程を第三者的な視点から客観的に評価し、それに基づいて次の課題を積極的に自らに課し、主体的かつ自律的に学習を深めていくことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「ー」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テストの自己採点	25 %	： 正確に採点できているか、誰が見ても分かりやすく採点してあるか、間違いが直してあるか等の観点から5回×5点／回＝25点満点で評価する。
自習ノート	25 %	： 毎週4ページ以上学習しているか、辞書や参考書を活用しているか、自己の目標や興味に合わせ自主的に課題を設定し取り組んでいるか等の観点から5点／回×5回＝25点満点で評価する。
毎回の授業への取り組み状況	40 %	： ワークシートを用いながら各回授業への積極的参加や授業態度を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。
試験（レポート）	10 %	： 14回の授業で学んだことを独自の視点から整理・要約した上で、そのうち最も興味を持ったテーマを一つ設定して調べ、整理・要約し、考察し、結論を導き出す（1600字）。独創性5点＋形式5点＝合計10点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特に指定しません。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業中に誤答の訂正をしてもらうことがあるので、必ず赤ペンを持参すること（蛍光ペン等のマーカーは不可）。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜3限

場所： 浅野研究室（西館5階）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：日本語の力を伸ばす方法とは** みなさんは日本語学校や専門学校でこれまでどのように日本語を勉強してきましたか。今学期はN1を受験しますか。受ける人は何点を目指しますか。受けない人はいつ受けますか。この機会に自分の学習方法を見直し、前期の学習計画を立ててみましょう。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：格助詞（対象）。	2時間
第2回	**親子間の識別能力について書かれた文章を読む** 赤ちゃんには自分の母親を識別する能力があります。母親にも自分の赤ちゃんを識別する能力があります。では父親には……。今回は親子間の識別能力について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：格助詞（状況）。	2時間
第3回	**上達の法則について書かれた文章を読む** スポーツ等の世界では、自分より下のランクの人からも何かを学び取ることができるかどうかが上級者と中級者の境目であるといわれています。いったいなぜでしょうか。今回は上達の法則について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：並列助詞。	2時間
第4回	**新聞購読の国際比較について書かれた文章を読む** 日刊の新聞が日本ほど購読されている国は世界にほとんどありません。いったいなぜでしょうか。今回は新聞購読の国際比較について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：時間を表す表現（アスペクト）。	2時間
第5回	**人間の感覚について書かれた文章を読む** 人間には五感があるといわれています。視覚、味覚、触覚……あとの2つがいえますか。いずれにせよ、それらの五感は大きく2つに分類できるそうです。今回は人間の感覚について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：立場を表す表現（間接的な影響を表す表現）。	2時間
第6回	**新しい世界との出会い方について書かれた文章を読む** 新しい世界と出会うために若者は旅立ちます。みなさんもそうして日本に来たのではないでしょうか。でもどうですか。新しい世界と出会うことができましたか。今回は新しい世界との出会い方について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：自動詞と他動詞。	2時間
第7回	**ロボットについて書かれた文章を読む** 溶接ロボットをテレビで見たことがある人は少なくないと思います。では清掃ロボットは見たことがありますか。今回はロボットについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：可能と難易の表現。	2時間
第8回	**案内状について書かれた文章を読む**	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：比較の表現。	2時間

	みなさんは日本語で書かれた案内状を見たことがありますか。参加資格、申込方法等の情報をそこから素早く読み取ることが出来ますか。今回は案内状について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。		
第9回	**動物の人口論について書かれた文章を読む** シマウマを食べるライオンはシマウマにとって敵です。でもそんなライオンがシマウマの絶滅を防いでいるといったらみなさんは信じてくれますか。今回は動物の人口論について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：話し手の気持ちを表す表現（義務・勧め・許可・禁止など）。	2時間
第10回	**日本語の特殊拍（長音・促音・撥音）について** 英語（えいご）の「い」とエジプトの「エ」の発音が同じだって知ってましたか。また「切って下さい」と「来て下さい」をきちんと区別して発音できますか。「女子」と「上司」の区別はどうでしょう。今回は日本語の特殊拍とその表記について学びます。 日本での（パーティーなどを含めた）会食における会話と、そこでのマナーについて学びます。	長音・促音・撥音がどのように発音・表記されるのか、復習しておこう。	2時間
第11回	**アクセントについて** 「亀を飼う」と「甕を買う」の発音の違い、説明できますか。「切って下さい」と「切手下さい」の違いについてはどうですか。実は「歯が生える」と「葉が生える」の違いも日本語話者ならほとんどの場合聞き分けることができます。今回はアクセントについて学びます。	アクセントの3つの型、アクセント核について、復習しておこう。	2時間
第12回	**母音の無声化について** 口（くち）の「く」と組（くみ）の「く」は発音が異なります。「すみませんです」の最初の「す」と最後の「す」も実は発音が異なります。では、どのようなの条件のときにこうした違いが生じるのか、説明できますか。今回は母音の無声化について学びます。	母音の無声化が起こる条件について、復習しておこう。	2時間
第13回	**熟語における促音化について** 学習の「学」と学校の「学」は発音が異なります。一位の「一」と一致の「一」も発音が異なります。では、どのようなの条件のときにこうした違いが生じるのか、説明できますか。今回は熟語における促音化について学びます。	熟語における促音化の原則について、復習しておこう。	2時間
第14回	**会話：日本語・日本文化への疑問４―「社会」に関して** 各自が日本語・日本の文化について疑問に思ったり、よく分からないことを持ち寄り、口頭発表の形式で自分の意見や考えを述べる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	2時間

111

授業科目名	**基礎日本語Ⅱ**				
担当教員名	浅野 法子				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

日本語の表記（ひらがな、カタカナ、漢字、ローマ字、算用数字、記号）を中心に学習する。また、演習形式も取り入れて日本語能力試験N1合格を目指す。N1合格に必要なのは聴解力と読解力だが、本学では聴解力が合格ラインに達していない受験者は少ないので本講義では読解力の養成に重点をおく。また、読解力の獲得で重要なのは、思考力、「一般知識」、文字・語彙・文法の知識の獲得だが、本講義では思考力（筆者の意図や主張を丁寧に正確に把握し、筋道を立てて選択肢を吟味する力）の獲得を重視する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	身近な話題について書かれた平易な文章を読んで、その主旨を理解することができる。	日本語能力試験N1において90点を獲得することを目指す。
汎用的な力		
1. DP6.行動・実践		自己の学習過程を第三者的な視点から客観的に評価し、それに基づいて次の課題を積極的に自らに課し、主体的かつ自律的に学習を深めていくことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テストの自己採点	25 %	： 正確に採点できているか、誰が見ても分かりやすく採点してあるか、間違いが直してあるか等の観点から5回×5点／回＝25点満点で評価する。
自習ノート	25 %	： 毎週4ページ以上学習しているか、辞書や参考書を活用しているか、自己の目標や興味に合わせ自主的に課題を設定し取り組んでいるか等の観点から5点／回×5回＝25点満点で評価する。
毎回の授業への取り組み状況	40 %	： ワークシートを用いながら各回授業への積極的参加や授業態度を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。
試験（レポート）	10 %	： 14回の授業で学んだことを独自の視点から整理・要約した上で、そのうち最も興味を持ったテーマを一つ設定して調べ、整理・要約し、考察し、結論を導き出す（1600字）。独創性5点＋形式5点＝合計10点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・『新完全マスター文法　日本語能力試験N１』（友松悦子・福島佐知・中村かおり著、スリーエーネットワーク、2011）
ISBN:978-4883195640
・『新完全マスター読解　日本語能力試験N１』（福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ著、スリーエーネットワーク、2011）
ISBN:978-4883195718

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業中に誤答の訂正をしてもらうことがあるので、必ず赤ペンを持参すること（蛍光ペン等のマーカーは不可）。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜4限

場所： 浅野研究室（西館5階）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：日本語の力を伸ばす方法とは** 夏休み中は何をしましたか。日本語を勉強しましたか。どのくらい勉強しましたか。どのような教材で勉強しましたか。この機会に自分の学習方法を見直し、後期の学習計画を立ててみましょう。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：否定と疑問の表現。	2時間
第2回	**害虫の駆除方法について書かれた文章を読む** 農業を営む人々にとって作物に被害をおよぼす害虫は大きな悩みです。害虫駆除の方法には、殺してしまう、寄せ付けないの他にもう一つとても有効な方法があります。今回は害虫の駆除方法について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：とりたて（主題、対比）。	2時間
第3回	**インターネットについて書かれた文章を読む** インターネットが普及して異なる価値観をもつ人どうしが交流する機会が増えましたが、そのことによるトラブルも増えています。今回はインターネットについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：とりたて（評価）。	2時間
第4回	**科学と技術の違いについて書かれた文章を読む** よく一口に「科学技術」といいますが、科学と技術に実は大きな違いがあることを知ってますか。今回は科学と技術の違いについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：複文（条件）。	2時間
第5回	**思い込みの恐ろしさについて書かれた文章を読む** 見たいと思っているものは見えるけど、見たくないと思っていることは見えない――そんな経験、ありませんか。科学者も同じです。今回は思い込みの恐ろしさについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：複文（逆接・対比）。	2時間
第6回	**イベント参加者募集について書かれた文章を読む** みなさんは学内のイベントに参加したことがありますか。募集案内を見て、参加方法、参加費用、集合場所等の情報を素早く読み取ることができますか。今回はイベント参加者募集について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：複文（時間）。	2時間
第7回	**専門書と啓蒙書の違いについて書かれた文章を読む** 良い専門書であり良い啓蒙書でもある――そのような本を読んだ経験はありますか。そもそも、そのような本を書ける人なんているのでしょうか。今回は専門書と啓蒙書の違いについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：待遇表現。	2時間

第8回	**社会人について書かれた文章を読む** 「社会人」というのはどういう人たちのことをいうのでしょう。働いている人のことですか。では無職の老人や無職の資産家は社会人ではないのでしょうか。今回は社会人について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：省略（名詞句の省略・助詞の省略）。	2時間
第9回	**個人と国家について書かれた文章を読む** 「個」と「私」はそれぞれ「公」とどのように結びついているのでしょうか。また、どう結びつくべきなのでしょうか。今回は個人と国家について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：名詞・代名詞。	2時間
第10回	**呉音と漢音について** 日本語の漢字は読み方がたくさんあって面倒だと思ったことはありませんか。例えば「正直」と「正解」の「正」は読み方が異なります。「人間」と「人物」の「人」も読み方が異なります。なぜ異なるのでしょうか。どのような法則があるのでしょうか。今回は呉音と漢音について学びます。	呉音と漢音について、具体的な事例を集め、分類してみよう。	2時間
第11回	**唐宋音と慣用音について** 漢字の音読みには呉音と漢音の他に唐宋音と慣用音があります。唐宋音の例としては「南京豆」の「京」や「椅子」の「子」があります。慣用の例としては「成立」の「立」や「洗濯」の「洗」があります。今回は唐宋音と慣用音について学びます。	唐宋音と慣用音について、具体的な事例を集め、分類してみよう。	2時間
第12回	**日本語のローマ字表記とキーボード入力について** キーボードで「デュアルディスプレイをセットアップする」と入力することができるでしょうか。やってみると意外と難しいものです。手も足も出ないという人もいると思います。でもこれが打てないと就職したとき絶対困ります。今回は日本語のローマ字表記とキーボード入力について学びます。	「デュ」「ヂ」「ツォ」「ティ」の入力方法について、考えてみよう。	2時間
第13回	**書き間違えやすい文字について** みなさんは「ゆ」「ふ」「ん」「が」などの平仮名が正しく書けますか。「角」「収」「写」などの漢字はどうですか。「ン」と「ソ」、「ツ」と「シ」、「ワ」と「ク」、「9」と「g」、「1」と「7」、「b」と「6」の書き分けは……。今回は書き間違えやすい文字について学びます。	書き間違いやすいひらがな、カタカナ、漢字、ローマ字、算用数字、記号にはどのようなものがあるか、リストアップしてみよう。	2時間
第14回	**日本語の表記のまとめ** これまで4回にわたり学習してきた漢字、仮名、ローマ字、算用数字、記号の読み方や書き方（入力方法を含む）について復習します。「こんな文章ですら打てないのか」「あなたの字は読めない」といわれないよう、しっかり取り組みマスターするようにしましょう。	漢字の様々な読み方、日本語のローマ字表記、書き間違いやすい文字について、復習しておこう。	2時間

111

授業科目名	**スポーツ健康科学**				
担当教員名	**塩田 桃子**				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	・教育機関にて関連教科指導 ・保育現場にて幼児体育指導				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

(1) 現代の健康課題を踏まえ、健康に必要な運動、食事、睡眠についてさまざまな視点から考え、自分の健康課題と改善策を見つけ、健康な生活を創り出す力を養う。
(2) 青年期から高齢期にわたる身体機能の変化を踏まえ、スポーツの役割や重要性について検討する。「生涯スポーツ」をテーマに、スポーツの魅力とは何か、また、人間がよりよく生きていくためのスポーツのあり方・関わり方や正しい運動の方法について科学的な視点で考え、実践するための教養を身につける。
(3) スポーツ・運動時における安全に関する知識を身につけ、スポーツの事故やケガ等の予防や対応の方法がわかる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	運動・スポーツに関する基礎知識と実践力	正しい運動の方法がわかり実践することができる。
2. DP1.幅広い教養やスキル	運動・スポーツ時における安全の基礎知識	安全に関する知識を理解し、スポーツ・運動時の事故やケガ等の予防や対応の方法がわかる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		現代の健康課題の理解と課題解決のための新しい知見の探索できる。
2. DP6.行動・実践		健康な体づくりのための運動を実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とする。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業内課題・振り返りシート	30 %	:	授業内容を踏まえた課題を遂行する。毎回の授業時の振り返りシートを記入し提出する。
発表	30 %	:	学びをまとめた成果物の制作および発表の機会がある。
小テスト・定期試験（レポート）	40 %	:	授業内における小テストや総括として定期試験を実施する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
（編集）佐藤　洋	・ スポーツ健康科学	・ 株式会社みらい	・ 2022　年

参考文献等

・佐々木 一茂（監修）『東京大学の先生伝授 文系のためのめっちゃやさしい 筋肉』.ニュートンプレス.2023.ISBN：978-4-315-52657-8

・柳沢正史（監修）『ニュートン式超図解　最強に面白い!!睡眠』.ニュートンプレス.2020. ISBN:978-4-315-52299-0
・林 悠（監修）『東京大学の先生伝授 文系のためのめっちゃやさしい 睡眠』.ニュートンプレス.2022.ISBN:978-4-315-52642-4
・加藤久典（監修）『やさしくわかる！文系のための東大の先生が教える 食と栄養』.ニュートンプレス.2023.ISBN:978-4-315-52668-4

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業後

場所：　授業教室

備考・注意事項：　初回授業にて担当教員が指示をする。（第8研究室に体育専任教員が在中）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業ガイダンス／体育・スポーツとは何か** 本授業の目標・内容・評価等について理解する。 これまでの学校体育を振り返り、体育で何を学んできたのかを振り返り、到達度を確認する。	シラバスの熟読。これまでの学校体育の振り返り。	1時間
第2回	**健康とは何かー健康の定義・健康問題（生活習慣病）** 健康とは何かという問いに、健康の定義から考える。また、現代の健康問題として生活習慣病を取り上げ、自分の生活を振り返り、自分事として健康課題に向き合う。	テキスト『２章　健康とは何か』を読み、現代的な健康課題について調べる。	1時間
第3回	**健康と睡眠** 健康と睡眠との関わりを理解し、健康な体づくりについて考える。自身の睡眠に関する現状を把握し、課題を明らかにする。また、よりよい睡眠について理解し、自分自身ができることについて具体的に学ぶ。	テキスト「7章　生活習慣病の要望と改善」pp. 110-111を読み、健康と睡眠との関わりについて調べる。	1時間
第4回	**健康と栄養** 健康と栄養との関わりを理解し、健康な体づくりについて考える。自身の食習慣に関する現状を把握し、課題を明らかにする。また、よりよい食生活について理解し、自分自身ができることについて具体的に学ぶ。	テキスト「7章　生活習慣病の予防と改善」pp. 112-118を読み、健康と食事との関わりについて調べる。	1時間
第5回	**健康と運動・身体活動** 健康と運動との関わりを理解し、健康な体づくりについて考える。自身の運動実施に関する現状を把握し、課題を明らかにする。また、必要な運動基準について理解し、自分自身ができることについて具体的に学ぶ。	テキスト「6章　生活習慣病と運動・身体活動」pp. 99-105, pp. 109-110を読み、健康と運動との関わりについて調べる。	1時間
第6回	**健康づくりのまとめ①ー健康づくりの成果物の制作** 健康のための睡眠・栄養・運動の授業を振り返り、成果物の制作を行う。	これまでの学びを「健康づくり」の成果物としてまとめる。	1時間
第7回	**健康づくりのまとめ②ー健康づくりの成果物の発表** 健康づくりの成果物を使ってプレゼンテーションを行う。	健康づくりの成果物を使ってプレゼンテーションの練習をしておく。	1時間
第8回	**前半の振り返りと小テスト** 前半の学習内容を振り返り、理解度を確認するための小テストを実施する。また、見通しをもって学習を進めていくことができるように、今後の学習計画について把握する。	これまでの授業レジュメやテキストを読んで振り返りを行う。	1時間
第9回	**身体の仕組みとトレーニング** 身体の仕組み、トレーニングの原理・原則を踏まえ、トレーニングプログラムの立案の方法を知る。	テキスト「第10章　身体の仕組みとトレーニング」を読み、トレーニングの種類や効果について調べておく。	1時間
第10回	**スポーツ障害・スポーツ医学** スポーツ外傷とスポーツ障害、応急処置について理解する。また、熱中症やさまざまな環境下における運動への配慮およびスポーツ現場でのけがと応急処置について知る。	テキスト「第11章　スポーツ障害・スポーツ医学」を読み、安全に運動を行うための方法について調べておく。	1時間
第11回	**健康・スポーツと性** 人間の性について、さまざまな視点から理解し、性の多様性について考える。また、スポーツにおけるジェンダーの課題について、事例等から探り、これからのスポーツの在り方を考える。	テキスト「第12章　健康・スポーツと性」を読み、スポーツと性との関係について学習しておく。	1時間
第12回	**ライフステージと生涯スポーツ①ー生涯スポーツの役割と重要性** 学校教育で学んできたスポーツだけでなく、シーズンスポーツや野外スポーツ、ニュースポーツ等さまざまなスポーツについて調べ、自身のスポーツとの関わり方を見つめ、各年代に適した運動、生涯スポーツの必要性を探る。	興味のあるスポーツを見つけて歴史やルール等について調べる。	1時間

第13回	**ライフステージと生涯スポーツ②ー生涯スポーツの楽しみ方** スポーツの価値とは何かを問いながら、自分自身とスポーツとの関わり方について考え、生涯スポーツやワーク・スポーツ・ライフバランスについてまとめ、発表する。	これからのスポーツの関わり方について考え、自分に合ったスポーツとの関わりをまとめる。	1時間
第14回	**健康と運動・スポーツ・授業のまとめ** 健康と運動・スポーツとの関わりについて、第１回～第１３回の授業を振り返る。半年間の学びの「まとめ」を行う。	これまでの授業を振り返り、本授業で学びえたことをまとめておく。	1時間

111

授業科目名	**スポーツ健康実技**				
担当教員名	塩田 桃子				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	・教育機関にて関連教科指導 ・保育現場にて幼児体育指導				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

超高齢社会を迎えた我が国は、生活習慣病をはじめとする健康問題が喫緊の課題となっている。生活習慣病の予防に運動は有効であることは多くの研究で報告されている。しかしながら、大学生における運動の実施状況は他の年齢段階と比較して最も低い状況である。そこで、本授業では、さまざまなスポーツを体験し、生涯にわたってスポーツに親しむことができるよう、スポーツの魅力について実技を通して学習する。また、誰もが楽しくスポーツを行うことができるために必要なルールや行い方を考える。また幼児教育の観点からは、「運動が嫌い・苦手」な幼児が存在すること踏まえ、幼児教育の現場で、保育者、指導者として運動技術を指導するだけではなく、運動・スポーツの楽しさを伝える指導力や保育実践力が重要となる。健康な体づくりと共に、運動やスポーツの楽しさを体感し、仲間と協力すること、コミュニケーションを図ることを体験しながら、子ども達に楽しさを伝える基礎を学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	球技など一般的なスポーツだけではなく、ニュースポーツも行うことで、新しいスポーツに親しむ。さらにルールを理解し、学んだ知識を活かすために汎用的な技能や実践能力を磨く。	保育者、指導者を目指す学生として、自身の体力の維持増進を図ると同時に、様々な運動の特性を知り、運動技能の向上、保育実践力、指導力の向上を図ることができる。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	運動に真剣に取り組む体験から、身体を動かすことの喜び、運動の楽しさ、仲間と協力する素晴らしさを理解する。	運動の必要性、重要性を理解し、楽しさの体験、仲間との協力を図ることから、将来の指導力に役立てることができる。
汎用的な力		
1. DP6.行動・実践		健康や体力の維持増進、技術上達等を各学生が体験する。
2. DP8.意思疎通		様々な種目を通してコミュニケーション能力を育てることができる。
3. DP9.役割理解・連携行動		実技を通して考える力、協力する力を育み、安全管理の必要性を理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とする。指定ジャージ、体育館シューズ着用にて、授業を受講すること。長い髪は束ねること。スマートフォンは各自鞄の中に入れ、マナーモードなどに設定し、音が鳴らないようにすること。授業の集合時にポケット等に入れて、持ち込まないこと。実技授業形態の妨害になるような行動はとらないよう、各自が自覚をして受講すること。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業の参加意欲・態度	30 %	： 授業へ積極的に参加しているか。受講の服装（指定ジャージ、体育館シューズ着用、安全面への配慮）、授業態度（受講マナー、スマートフォンの使用や集合時に集まらないなどは減点。ルールを理解しグループで協力して練習をするなどの姿勢・態度であるか。
課題提出（ポートフォリオ）	30 %	： 毎回の授業での学びを記録する。
定期試験（レポート）		： 授業での学びや気づきをまとめる。運動の楽しさと共に、幼児教育では、運動を指導するだけではなく、楽しさを伝える指導力が重要であることを理解し、具体的な指導方法を考える。

40　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・大修館書店編集部編.『観るまえに読む大修館スポーツルール2023』. 大修館書店. 2023.ISBN：9784469269468
・神谷拓.『運動会指導の原理と実践』.大修館書店.2022.ISBN：9784469269376

履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業後

場所：　授業実施体育館

備考・注意事項：　授業終了後に質問するようにして下さい。（第8研究室に体育実技の専任教員が在中）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス（授業概要と目的）・レクリエーション** 授業の進め方や成績評価の方法、受講マナーについてガイダンスを行う。また、近年において何故運動が重要視されているのか、さらに、子ども達になぜ運動が必要なのかといった「体育実技」として、運動をする必要性を理解する。 授業のはじめにストレッチング等の準備運動を行い、その重要性を理解する。スポーツ種目を始める前に、指導者と受講者、受講者同士の緊張を解す（アイスブレーキング）活動を取り入れることが望ましく、スムーズな展開に繋がることを理解する。様々なアイスブレーキングに取り入れられるあそびやゲームを体験し、仲間と共に取り組む楽しさ、協力する大切さを学ぶ。	「レクリエーション」の意味を理解しておくこと。	1時間
第2回	**体力・運動能力テスト** 現在の体力・運動実施状況について把握する。また、これから必要な体力・運動能力について考え、これからのスポーツとの関わり方について考える。	体力テストの計測方法、種目等を調べておく。	1時間
第3回	**ドッジボール** 転がしドッジボール、王様ドッジボールなど様々な形式のドッジボールを楽しみながら、ボールを投げる動作や周囲を見渡す力を養う。また、ルールを守る態度やチームで運動を行う楽しさを実感する。	「ドッジボール」のルールを理解しておくこと。	1時間
第4回	**ポートボール** ルールの概略を説明し、理解を促す。バスケットボールに繋がる種目であり、既存のスポーツのルールを工夫することで、子ども達にも実践可能な運動になることを伝える。バスケットボールとの違いや、使用するボールによっても違いが出ることを体験し、保育実践力向上につなげる。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。	「ポートボール」のルールを理解しておくこと。	1時間
第5回	**バスケットボール** ルールの概略を説明し、理解を促す。また、ボールコントロール、ハンドリング技術の向上を目的にパス・ドリブル・リバウンドなどの基礎的な動き、レイアップシュート・ジャンプシュート、セットシュートなどを練習する。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。	「バスケットボール」のルールを理解しておくこと	1時間
第6回	**ソフトバレーボール** ルールの概略を説明し、理解を促す。基本的にはバレーボールのルールで、柔らかい大きめのスフトバレーボールを使用することで、腕が痛い、ボールが怖いということがなく、取り組むことが出来る。バレーボールの基本技術の向上を目的にオーバーハンドパス・アンダーハンドパス・スパイク・サーブなどの動きを練習する。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。	「ソフトバレーボール」のルールを理解しておくこと。	1時間
第7回	**バレーボール** バレーボールのルールを理解し、バレーボールに必要な基本的な技術を習得する。	「バレーボール」のルールを理解しておくこと。	1時間
第8回	**バドミントン** バドミントンのルールを理解し、バドミントンに必要な基本的な技術を習得する。	「バドミントン」のルールを理解しておくこと。	1時間
第9回	**ニュースポーツ①ーインディアカ** ニュースポーツであるインディアカのルールを理解し、基礎技術を獲得する。	「インディアカ」のルールについて調べておくこと。	1時間

第10回	**ニュースポーツ②ーフットサル** ボールを使ったニュースポーツの一つであるフットサルのルールを理解し基礎技術を獲得する。	「フットサル」のルールについて調べておくこと。	1時間
第11回	**ニュースポーツ③ーキンボール** ニュースポーツの一つであるキンボールのルールを理解し、基礎技術を獲得する。	「キンボール」のルールについて調べておくこと。	1時間
第12回	**運動会種目** さまざまな運動会種目に取り組み、スポーツ実施の運営力を身に付ける。	「運動会種目」について調べておくこと。	1時間
第13回	**レクリエーション・リクエスト種目** 授業で実施した種目の中から、再度実施したい種目を選択し、取り組む。仲間と共に取り組む楽しさ、協力する大切さを改めて学び、自身が学び得た事、今後に活かすことができる内容について振り返る。	「ニュースポーツ」の魅力について、これまでの学び振り返り、まとめておくこと。	1時間
第14回	**授業のまとめ・スポーツの魅力とは何か** これまでの授業を振り返り、さまざまなスポーツからの学びを踏まえて、スポーツの魅力についてまとめる。	授業を振り返り、これまでの内容についてまとめておくこと	1時間

111

授業科目名	**暮らしと環境**				
担当教員名	**瀬川 悠紀子**				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	専門学校（調理師コース）にて「公衆衛生学」、「食生活と健康」を担当（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、①身近なところから世界的に生じている環境問題を理解することで、自分の専門と環境との関わり合いを導き出すとともに、②現在の環境を将来も持続させていく方法を議論して、自分の考えを構築できるようになることを目指します。このような訓練を繰り返すことで、現在多くの環境に関する情報がマスメディアで報じられていますが、それらの情報を正確に把握し、自分はそれに対してどのような意見や行動を起こせばよいのかを判断し、周辺や次世代を担う人々に自信をもって伝えることができるようになることが目的です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	現在の環境問題に対する正確な知識を習得すると同時に現在生じている環境問題についての考え方を学ぶ。	環境問題に関する情報を得た時、その内容を正しく理解して、それに対して自分はどうすれば良いのかを判断できる知識を養う。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		環境問題の現状に対する知識に基づき、今後の暮らしの中で生じる環境問題を予測することができるようになり、それが重大な問題とならないよう事前に生活スタイルを改善することができるようになる。
2. DP6.行動・実践		環境に関する基礎知識を習得することができるため、就職した際にもその知識を生かし、環境改善に関する行動を行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	20 %	： 冒頭で前回の授業内容に関する小テストを行い、その平均点を評価に加算する。
質問	10 %	： 毎回の授業において１つ以上の質問の記入を求め、その有無について評価する。
授業態度	30 %	： 授業内での積極性及び取り組み状況を独自のルーブリックで評価する。
定期試験（筆記）	40 %	： 学んだ内容に関する筆記試験を行う。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
栗原伸公	・ 公衆衛生学　第3版	・ 学文社	・ 2024　年

参考文献等

授業内で随時紹介

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学習課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、必ず質問をみつけだすこと。さらに、次回の授業に向けてテキストの該当する章を熟読すること。また、小テストで問われている部分はかならず見直し、それらに関連することについての知識も習得すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月2限

場所： 本館3階調理研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**環境とは** 本授業の目的、到達目標、授業計画、席席表等を共有し、授業で目指すべき内容を理解する。 環境とは自分を取り巻くすべてのものであること、私たちは環境に影響を与え、環境に影響を与えられながら暮らしていることを知る。 そして環境が健康にも大きく影響することを理解し、暮らしの中で自身の健康に関わる環境についての知識の基礎を得る。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第2回	**環境と健康** 4大公害（第一、第二水俣病、四日市ぜんそく、イタイイタイ病）に焦点を当て、暮らしの中で欠かすことのできない水や大気などの環境が健康に大きく影響することを理解し、対策を考える。現在もそれらの問題が完全に解決していないことを知るとともに、それに対する対処方法について考える。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第3回	**地球温暖化とその他の環境問題** 地球温暖化の原因や、その影響を学ぶ。今後世界中の人々がこれまでの生活をするとどれくらいの速度で地球の気温が上昇するか、それを少しでも遅くするにはどのようなことをすればよいかを考える。その他の環境問題についても学ぶ。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第4回	**我が国の死亡原因と食環境** わが国を中心に昨今の死亡原因を学び、上位を占める死亡原因が多い理由を学ぶ。食生活が重要であることを理解し、私たちを取り巻く食環境を考える。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第5回	**食と健康** 食生活の健康に対する重要性を学び、健康で過ごすための対策を考える。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第6回	**衣環境** 暮らしの上で欠かせない衣環境について学び、健康で過ごすための対策を考える。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第7回	**住環境** 揮発性有機化合物、シックハウス症候群など住環境に欠かせない内容を学び、快適な住まいとはどのようなものかを考える。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第8回	**ごみ（廃棄物）問題** 私たちが暮らす中で必ず廃棄物は出る。現在年間でどの程度どのような廃棄物が排出されているのかについて解説する。それらを分別する理由や、再利用の方法や、廃棄物を削減するための対策を考える。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第9回	**飲酒・喫煙** 飲酒と喫煙が暮らしていく中で健康に及ぼす影響を知り、対策を考える。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第10回	**運動・睡眠** 暮らしの中の運動・睡眠が健康に及ぼす影響を知り、対策を考える。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第11回	**労働環境** 労働は暮らしの大きな割合を占める。その労働環境が健康に大きく影響することを学び、快適な労働環境にするためにはどうすれば良いかを学ぶ。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第12回	**ストレス** 人は暮らしの中で様々なストレスを受け、影響されることを理解する。ストレスの仕組みを知り、ストレスが単に排除するためだけのものではないことを理解する。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間

第13回	**メンタルヘルス** 幸せな生活を送っていくには、身体の健康だけでなく心の健康も重要であることを学び、健康に影響を与える様々な環境とうまく付き合う方法を考える。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第14回	**暮らしと環境のまとめ** 暮らしと環境で学んだ内容を振り返ることで、身につけた知識を確認する。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間

111

授業科目名	**日常の科学**				
担当教員名	小関 佐貴代				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

日常生活を取り巻いている環境や物質について科学的に見つめることにより、生活者としての思考力を修得することも目標とします。まず、日常生活に存在する物質を化学的に理解するために、元素（原子）、原子の構造、分子の成り立ち、アボガドロ数、エネルギー、酸・塩基、酸化・還元、濃度計算についても取り上げ、物質の変化を量的に把握する方法も解説します。本講義で習得した知識は、日常生活の存在する化学的なリスクから身を守ることに役立ちます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	日常に起こっている化学変化を理解する。	身近な化学変化に関する基礎的な知識を習得する。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		日常生活で直面する科学的リスクを見出すことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	20 %	： 毎回の授業において実施する課題プリントについて ２点×１４回＝２８点を２０点に換算し、評価します。
授業後課題	20 %	： 毎回の授業後の課題プリントについて ２点×１４回＝２４点を２０点に換算し、評価します。
プレゼンテーション	20 %	： ①テーマへの取組み ②説明の分かり易さ ③提示する資料の分かり易さ などの観点から20点満点の評価をします。
定期試験	40 %	： １００満点の定期試験を実施し、４０点に換算し、成績評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・高校で使用した理科（化学、生物）の教科書や資料。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であり毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学習課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日4限（15：00～16：40

場所： 栄養第３研（中央館２階）

備考・注意事項： オフィスアワーは、月曜日４限（15：00-16：40）、場所は栄養第３研（中央館２階）です。
その他、いつでも来室を受け付けます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**日常生活にある物質の違いを化学の視点で見よう！** ①身近な生活に関わる物をグループに分けます。 ②グループ分けした理由を考えて説明します。 ③有機物と無機物の違いを理解します。 ④「水に溶ける」について確認します。 ⑤溶媒、溶質、溶液について確認します。 ⑥溶液の塩濃度や糖濃度を計算します。	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間
第2回	**濃度計算をシロップや汁物の調理に応用しよう！** ①濃度の計算を復習します。 ②シロップを作るために濃度計算を応用します。 ③味噌汁やすまし汁の塩濃度を調整するために濃度計算を応用します。	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間
第3回	**濃度計算をゼリーや煮物の調理に活用しよう！** ①ゼリーを作るために濃度計算を応用します。 ②漬物作りに必要な塩の計算に濃度計算を応用します。 ③煮物調理に必要な色々な調味料の準備に濃度計算を応用します。 ④50人以上の味噌汁を作るために必要な調味料を計算し、準備する量を考えます。 ⑤50人以上の煮物を作るために必要な調味料を計算し、準備する量を考えます。	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間
第4回	**濃度計算を調理に応用する実践テストと振返り！** ①第１回～第３回で練習した濃度計算が実践に活用できるように振り返りテストを実施します。 ②振り返りテストの解答についてグループで話し合って確認します。 ③解答をクラス全体で確認します。	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間
第5回	**日常生活の利用されている科学（化学）を調べよう！** 次のようなテーマについてグループで調べて、人に伝える方法を計画します。 １．梅干しはどうして赤いのか？ ２．ホットケーキミックスは、どうして膨らむのか？ ３．冷凍庫を使わずにアイスクリームが作れるか？ ４．マヨネーズは、どうしてできる？ ５．食器洗剤の油汚れはどうしておちるのか？ ６．野菜に塩をかけるとどうして柔らかくなるのか？ ７．使い捨てカイロはどうして温かくなるのか？ ８．瞬間冷却剤は、どうして冷たくなるのか？ ９．乾燥剤はどうして食品を湿気から守るのか？ １０．入浴剤はどうして、泡がでるのか？ １１．カビ取り剤の混ぜるな危険は、どうしてなのか？ １２．シャンプーとリンスは混ぜて使って良いのか？ １３．パーマは、どうしてできるのか？ １４．十円玉をピカピカをするには、何を使うと良いのか？ １５．衣料洗剤の洗浄の仕組み（酵素・除菌・抗菌）は、どうなってるの？	グループで取組むテーマについて調べる方法を計画し、提出します。	4時間
第6回	**酸・塩基と中和反応について理解しよう！** ①「酸性」と「アルカリ性」について確認します。 ②身近にある食品について「酸性」「アルカリ性」を確認します。 ③「酸」と「塩基」について理解します。 ④中和反応について確認します。	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間
第7回	**中和反応を量的に考えるための濃度について理解しよう！** ①%濃度について ②モル濃度について ①～②から発展し、溶液の濃度計算ができるようします。	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間
第8回	**酸・塩基の反応について** ①中和反応について理解します。 ②中和反応の量的関係について理解します。 ①～②から発展し、中和滴定について理解します。	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間
第9回	**酸・塩基・中和反応について理解度を確かめよう！**	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間

	①第６回～第８回で練習した酸・塩基・中和反応について振り返りテストを実施します。 ②振り返りテストの解答についてグループで話し合って確認します。 ③解答をクラス全体で確認します。		
第10回	**調べたことを発表する準備をしよう！** ①グループで発表するスライドや原稿を準備する。 ②スライドをクラスルームに提出する。	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間
第11回	**調べたことを伝えよう（前半）！** ①スライドを使って調べたことを発表する。 ②視聴者は必ず質問し、発表者について評価する。 ③「発表すること」と「聞くこと」の両方で日常生活の科学への興味を深める。	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間
第12回	**調べたことを伝えよう（後半）！** ①スライドを使って調べたことを発表する。 ②視聴者は必ず質問し、発表者について評価する。 ③「発表すること」と「聞くこと」の両方で日常生活の科学への興味を深める。	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間
第13回	**調理に関わる濃度計算の応用を確認しよう！** ①一般調理における調味料計算の振返り課題に取り組みます。 ②大量調理における調味料計算の振返り課題に取り組みます。 ③グループ内で、振り返り課題の解答を確認します。 ④クラス全体で、振り返り課題の解答を確認します。	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間
第14回	**酸・塩基・中和反応について振り返り、定期試験に向けて準備しよう！** ①酸・塩基・中和反応について振り返り課題を実施します。 ②振り返り課題の解答についてグループで話し合って確認します。 ③クラス全体で、振り返り課題の解答を確認します。	定期試験に向けて復習しておくこと	4時間

111

授業科目名	手話コミュニケーション論				
担当教員名	佐野 美保				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義と演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	手話通訳士及び大阪府登録手話通訳者として17年にわたり手話通訳業務を担当。地域活動としても聴覚障がい者のコミュニケーション支援に携わっている。併せて大阪府手話通訳者養成講座の登録講師を務めている。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業では、手話言語・指文字等を用いて、自己紹介など基本的な会話に必要な手話言語力・手話コミュニケーション力を身につける。また、手話の技術を習得するとともに、手話言語の特徴・音声言語との違いから、聞こえないこと・聞こえない人についての理解を深める。情報保障・コミュニケーション支援についても学ぶ。
講師も手話言語を用いて授業を実施するが、ろう者の手話を習得するために動画を使用し、学生同士の手話での会話演習を毎回の授業で行う。グループワーク・手話スピーチ・手話会話を反復学習し、半期の授業で手話検定５級の試験出題範囲まで終了する予定（受験は任意）。手話を用いた授業のため定員20名程度。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	手話言語・聞こえない世界を学ぶことで、共生社会について考える。 。	異文化コミュニケーションを理解し、視野を広げて思考できる。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	基本的な手話を習得し、日常会話ができるようになる。	職業現場で手話を用いる力が身につくことで、接客・対人援助等の場面で貢献できる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		なぜ手話が必要なのか、現状の課題に気づき、主体的に自分にできることを考えられる。
2. DP8.意思疎通		手話を学ぶことで、意思疎通・コミュニケーションに関する知識を深め実践できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・その他(以下に概要を記述)

言語習得のために、シャドーイング、動画撮影、サマリートレーニング等を取り入れる予定。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
理解力確認テスト	40 %	： 授業内容の理解度を確認する小テスト及び手話表現理解力を確認する小テストを実施し、的確に示しているかを評価する。
授業内課題	30 %	： 授業内容を踏まえて、グループワークや振り返りシートを完成できている場合、調査や事例に自分の考察が示されていれば加点する。内容不十分な場合は減点する。
定期試験（発表）	30 %	： 手話言語によるスピーチとその内容に関する質疑応答の実技確認テストを実施し、的確に伝える力を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

手話奉仕員養成テキスト「手話を学ぼう　手話で話そう」
わたしたちの手話学習辞典(1)(2)
これで合格！2024全国手話検定試験
日本手話のしくみ練習帳

履修上の注意・備考・メッセージ

手話は見る言語であり、大人数での受講は困難なため、定員数（20名）を超えた場合は抽選受講になります。
また、本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加えて、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習準備をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜日の午後

備考・注意事項：　sano-mi@g.osaka-seikei.ac.jp　学科・氏名を記入してご連絡ください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**手話言語に関する基礎知識** 見る言葉の特徴である手話単語の構成要素等から、手話言語と音声言語の違いを学びます。 実技では、手話であいさつの会話ができるまでを身につけます。	あいさつの手話表現を復習し習得する。	4時間
第2回	**手話と指文字、名前の表現** 手話と指文字の成り立ちについて、その歴史を学びます。 実技では、自分の名前及び様々な名前の手話表現と指文字を覚えます。	名前の手話表現及び指文字を覚える。	4時間
第3回	**聞こえないことへの理解と数字の表わし方** 聞こえなくて困ること、情報障害・コミュニケーション障害について考えます。 レポート課題①を提出。 実技では、数字の手話を使って、年月日、時刻、年齢、人数、金額等を表現します。	数字の表現を覚える。	4時間
第4回	**聞こえない人の生活と人物・家族の手話表現** 聞こえない家族の映像を見て、生活の工夫や違いについて理解します。 実技では、人や家族の手話表現を学びます。	人物、家族等の表現ができるまで練習。	4時間
第5回	**コミュニケーションの方法と場所や交通手段の手話表現** 聞こえないことや手話をテーマにした映画やドラマから、コミュニケーション方法について考えます。レポート課題② 場所を表す手話表現や交通手段についても手話で会話する実技演習をします。	手話で交通手段を発表できるよう練習。	4時間
第6回	**手話の具体的表現～スポーツ・趣味など** 手話言語の特徴である具体的表現を学びます。 手話の文法特徴から、スポーツや食べ物等の手話を覚えます。 趣味についての会話も行います。	趣味について手話で紹介できるよう練習。	4時間
第7回	**感情表現と疑問詞について** 自分の気持ちを表す手話表現を覚えて会話をします。 ①好き・嫌い、苦手・得意、上手い・下手等 ②嬉しい・楽しい、悲しい、怖い、苦しいなど 疑問詞を使った会話演習も行います。	感情表現の手話を覚える。	4時間
第8回	**職場でのコミュニケーションと仕事に関する手話表現** 聞こえない人の就労におけるコミュニケーション問題について動画等により考えます。 実技演習では、仕事に関する手話を表現します。 レポート課題③	仕事に関する手話を覚える。	4時間
第9回	**１日の生活の流れを手話で紹介** 起床から就寝までの１日の生活を手話で紹介します。 また、「手話言語及び聞こえない人への理解」に関する確認筆記テスト①も実施します。	手話言語等に関する知識を復習。	4時間
第10回	**疑問詞を使用した手話会話** 疑問詞を使って今までの手話会話の総復習と指文字の活用トレーニングを実施します。 自己紹介の会話演習も行います。	指文字をマスターする。	4時間
第11回	**手話表現スピーチと質疑応答** １人ずつ手話で自己紹介のスピーチをします。 その内容に基づいて、手話で質問をして、手話で答えます。 伝わる度合いで評価します（実技テスト1）。	手話でスピーチ（原稿無し）ができるまで練習。	4時間
第12回	**手話の時制表現と空間活用**	手話で各種予定を紹介できるよう練習。	4時間

	手話言語の特徴で文法でもある「空間活用」について学びます。 実技演習では、１週間から１カ月の予定を手話で紹介します。		
第13回	**手話検定試験にチャレンジ** 手話検定の５級試験問題を使用して、学習します。 各自、現在の自分の手話理解力・表現力を振り返ります。	検定試験の過去出題問題を解く。	4時間
第14回	**手話コミュニケーション学習のまとめ** 手話で質疑応答コミュニケーションゲームをします。 また、講師の手話スピーチをどの程度理解できるか、手話理解力確認のための筆記テスト②を実施します。	手話表現を見て、理解できるよう学習。	4時間

111

授業科目名	**暮らしと金融**				
担当教員名	福永 栄一				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

人生にはお金が必要です。この授業ではお金をどうやって確保しどのように使うかという計画を作成することを学びます。人生の全体を見据えて、自分の夢や人生での目標を実現するために、いつ・どれだけのお金が必要かを確認し、そのお金をどうやって確保するかを計画します。そのために、「ライフプランニングと資金計画」と「リスクマネジメント」を中心に、家計にかかわる金融、税制、保険、年金制度などについて詳しく学びます。国家検定制度での３級ＦＰ技能士合格レベルの理解度を学びの目標とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	人生におけるお金の運用に関する知識の修得	人生にどのようなリスクがあり、どれくらいのお金が必要かを理解できる。
汎用的な力		
1. DP5.計画・立案力		自分の人生をお金を中心に、リスクを加味して設計できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業での課題	45 %	： 授業で取り組んだ課題にたいして、指示に従って取り組んでいるか、授業の内容を正確に反映して行っているか、内容を理解しているかなどを評価します。
確認問題	30 %	： 確認問題にチャレンジします。そこまでの授業で学んだ知識や技術を修得できたか、知識と技術を応用する力が身についたかなどを評価します。
期末試験	25 %	： 授業全体を通じて学んだ知識や技術を修得できたか、知識と技術を応用する力が身についたかなどを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
滝澤ななみ	・ みんなが欲しかった！FPの教科書3級	・ TAC出版	・ 2024 年

参考文献等

適宜、授業で必要な資料・問題を配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をします。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜日２限目（10:40-12:20）

場所：　研究室（西館５階62）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ファイナンシャルプランニングの概要** 人生の目標をかなえるための総合的な資金計画のことがファイナンシャル・プランニングです。家計にかかわる金融、税制、不動産、住宅ローン、保険、教育資金、年金制度などがファイナンシャル・プランニングに関係することを学びます。 ライフプランニングと資金計画を学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：家計、金融、税制、不動産、住宅ローン、保険、教育資金、年金制度	4時間
第2回	**ライフプランニングの手法** ライフイベントと３大必要資金、ファイナンシャルプランニングの手法、資金計画の係数などについて学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：ライフイベント、ファイナンシャルプランニング、資金計画	4時間
第3回	**ライフプラン策定上の資金計画** 教育資金プランニング、住宅取得プランニング、老後資金プランニングについて学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：教育資金、住宅取得、老後資金、プランニング	4時間
第4回	**社会保険：基本** 社会保険の種類、公的保険、健康保険、高額療養費などについて学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：公的医療保険、健康保険、出産育児一時金	4時間
第5回	**社会保険** 国民健康保険、後期高齢者医療制度、退職者向け医療保険などについて学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：国民健康保険、後期高齢者、退職者、任意継続	4時間
第6回	**公的年金の全体像** 年金制度の全体像、国民年金の全体像、公的年金の全体像などについて学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：国民年金、公的年金、老齢給付	4時間
第7回	**公的年金の給付：基礎年金** 老齢給付、老齢基礎年金、受給資格、老齢基礎年金の年金額などについて学びます。 確認課題にチャレンジします。	課題でできなかったところを復習します。できなかったキーワードを書きだして再度ノートにまとめます。	4時間
第8回	**公的年金の給付** 老齢給付、老齢厚生年金、定額部分・報酬比例部分の年金額、受給要件などについて学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：厚生年金、定額部分、受給要件、障害給付	4時間
第9回	**企業年金、年金と税金、カード** 企業年金、確定拠出年金、付加年金、公的年金等にかかる税金、クレジットカードなどについて学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：企業年金、確定拠出年金、付加年金、クレジットカード、ローン	4時間
第10回	**保険の基本** リスク、保険の原則、契約者等の保護、クーリングオフ制度、ソルベンシー・マージン比率などについて学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：リスク、生命保険、保険料、契約者	4時間
第11回	**生命保険のしくみ** 生命保険・保険料・配当金・のしくみ、契約手続きのポイント、保険料の払い込みなどについて学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：保険料、配当金、契約、猶予期間	4時間
第12回	**主な生命保険：定期保険** 定期保険である平準定期保険、逓減定期保険や終身保険、養老保険などについて学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：平準、逓減、逓増、終身保険、養老保険	4時間
第13回	**主な生命保険：特約付き保険など** 定期保険特約付終身保険、団体保険、変額保険、こども保険などについて学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：特約、団体保険、変額保険、こども保険	4時間

第14回	**損害保険、第三分野の保険** 損害保険料のしくみ、火災保険、地震保険、自動車保険、医療保険などについて学びます。 確認課題にチャレンジします。	課題でできなかったところを復習します。できなかったキーワードを書きだして再度ノートにまとめます。	4時間

111

授業科目名	**人権と社会**				
担当教員名	**榎井 縁**				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義（遠隔）				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

民主主義社会は何よりも人権重視の社会でなければならないが、十分実現されていないのが現実である。こうした現状を少しでも変えていくためには、個人として社会としての「人権」への十分な認識を持つことが大切である。本講義では、社会思想や歴史的な観点から人類にとての人権の基本的認識を得た上で、現代社会の国際人権から、マイノリティ人権をはじめとする具体的人権問題についてグローカル（グローバル／ローカル）な視点で考え、自分事として捉えられるようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	「人権」とは何かを歴史的文脈を踏まえて理解できる。国際人権の中で擁護されている「マイノリティの人権」を理解できる。	「人権」を歴史を踏まえた上で、国際的な視点から捉えることができる
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		「人権」とは何かを歴史的文脈を踏まえて理解できる。国際人権の中で擁護されている「マイノリティの人権」を理解できる。
2. DP6.行動・実践		「人権」を歴史を踏まえた上で、国際的な視点から捉えることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・課題解決学習(PBL)

ワークシートによる小テスト（および次回の課題としての不正解問題の練習）

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。遠隔授業なので課題の期限内提出をもって出席の扱いとする。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行ず「不可」とする。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の課題の提出	70 %	： 授業内容について理解しているか、また自分自身の問題として理解を深めようとしているか、毎回の課題について出席と共にその理解度について評価する。
最終レポートの提出	30 %	： 授業修了後に自分で課題を選択して最終レポートとして提出されたものを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
横藤田誠・中坂恵美子	・ 人権入門　憲法／人権／マイノリティ	・ 法律文化社	・ 2021　年

参考文献等

人権の精神と差別・貧困　内野正幸　明石書店　2015年［ISBN:978-4750336985］
現代社会と人権　安部頼孝　梓出版社　1996年［ISBN:978-4872622065］
地球市民の人権教育　肥下彰男　阿久澤麻理子　解放出版社　2015年［ISBN:978-4759221596］
よくわかる国際社会学　樽本英樹　ミネルヴァ書房　2016年［ISBN:978-4623075911］
レイシズム・スタディーズ序説　鵜飼哲ほか　以文社　2012年［ISBN:978-4753103041］

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 随時

場所： メールにて

備考・注意事項： classroomを使用してやりとりします

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業ガイダンス・オリエンテーション** 授業のテーマ、到達目標を知ると同時に授業を受けるにあたっての姿勢、注意などを理解する	シラバスを熟読し、教科書全体に何が書かれているかを把握してくる	4時間
第2回	**「人権」に関する意識の共有** 自分がこれまで学んできた「人権」について振り返ってみると同時に、他の人が学んできた「人権」について聞き、その共通点と相違点について整理する	各人が今まで学校教育その他の体験を通して自分の中で培われてきた「人権」を振り返る	4時間
第3回	**民主主義の原理と人権思想の発展①立憲主義の思想** ヨーロッパ市民社会の誕生の中で生まれてきた人権思想について歴史的に学ぶ	テキスト第１講を熟読する。イギリスのホッブズ、ロックとフランスのルソーの社会契約説について、調べる	4時間
第4回	**民主主義の原理と人権思想の発展②自由権から社会権への発展** 国家権力に対して生まれた人権の歴史が自由権から社会権へと発展していった過程について学ぶ	配付資料の第1章を熟読する。資本主義の発展の中で生まれてきた社会権（生存権）について、調べる	4時間
第5回	**日本における人権の歴史①明治憲法の内実** 明治以降、日本の近代化の中で大日本帝国憲法がどのように成立しどのような性質を持っていたのかを歴史的に学ぶ	テキスト第２講を熟読してくる。日本における明治以降の自由民権運動から大日本帝国憲法時代まで人権の流れについて、調べる	4時間
第6回	**日本における人権の歴史②昭和前期の超国家主義** 日本が戦争突入する中で、明治憲法成立過程の思想が利用されたことや”抑圧の移譲”が起きていたことなどを学ぶ	配付資料の第3章を熟読する。戦争を加速させていくような法が次々と成立していった過程について調べる	4時間
第7回	**日本国憲法の誕生・国際人権の誕生とその影** 敗戦後の日本で目指された２つのＤ(Demilitarization,Democratization)の中で二歩国憲法が基本的人権をどのように定めたのかそ知るとともに、日本の民主化から取り残された地域の現代につながる課題についても学ぶ	テキスト第2講を熟読する。沖縄における米軍基地問題に関して調べてくる	4時間
第8回	**世界人権宣言** 国際人権保障について学び、世界人権宣言の内容とその意義について理解する	テキスト第4講を熟読する。世界人権宣言の内容について調べる	4時間
第9回	**女と男：セックスとジェンダーをめぐる人権** 女性の権利に関する歴史的変遷とジェンダーについて、また性の多様性について理解する	テキスト第11講を熟読する。性の多様性の内容について調べてくる	4時間
第10回	**子どもの権利** 子どもの権利条約の内容を理解し、現代社会における権利の主体としての子どもについてどのような課題があるかを考える	テキスト第12講を熟読する。子どもの権利条約を読み、子どもの権利と関係するようなニュース（記事）をピックアップしてくる	4時間
第11回	**障害者権利宣言(nothing about us without us!)** 障害者差別、障害者の権利宣言について学ぶ。特にnothing about us without usというスローガンが出された経緯について知る	テキスト第13講を熟読する。障害者の権利宣言の内容について調べてみる。	4時間
第12回	**障がい者の権利について考える** マスメディアにとりあげられる障害者について、当事者側からの視点を入れ批判的に読み解いてみる（動画のテキストから）	マスメディアに登場する障害者（ドキュメンタリーやドラマ、映画など）にどのような傾向があるのか調べてみる	4時間
第13回	**人種差別と日本**	人種差別撤廃条約の成立の経緯と、その内容について調べる	4時間

	人種差別撤廃条約の内容を理解し、世界で起きている移民排斥や日本でのヘイトスピーチと人権について考える		
第14回	**わたしにとっての BLACK LIVES MATTER** BLACK LIVES MATTER を通して、人類が直面している人種差別の根源を考える。また、自分との関係を振り返ってみる	BLACKLIVESMATTERについて自分なりに調べてみる	4時間

111

授業科目名	**社会学概論**				
担当教員名	西 徳宏				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義（遠隔）				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業では、社会学の基礎概念や独特の「社会学的なものの見方」について理解することを目的とし、他の社会諸科学との理論的学問的特徴の違いを明らかにする。具体的には、社会学の基礎概念を体系的に習得するため、家族、地域、職場・労働・社会集団などで具体的なテーマを取り上げ、関連づけて解説する。社会学の基礎理論を学ことで、身の回りに起こっている様々な社会現象を読み解く具体的な基礎知識を習得することが目標である。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	グローバル化する現代社会の諸問題を理解し、理論と知識を持ってその解決に向けて自ら考え、取り組む姿勢を身につけている。	社会学の基礎理論について、それが誕生した時代背景も踏まえ理解している。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		身近な社会問題への感受性を高めるとともに、論理的な思考力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回の授業を視聴すること。毎回の提出が確認できない場合は、出席放棄とみなし、成績評価を不可とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業中のリアクションペーパー	50 %	： 授業の内容について基本的な事柄を理解することができている。自分の意見について言及している。
定期試験（筆記試験）	50 %	： これまでの授業で得た知識を応用して、自らの主張を展開し、適切に論述することができている。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学習が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その会の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、本科目はオンデマンドによる授業配信のため、自律的な学修姿勢が求められることを理解すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 指定なし

場所： オンライン

備考・注意事項：　オフィスアワーの利用、もしくは授業外で質問をしたい場合はメールで連絡を取り、面談時間を予約すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　社会学とは** 社会学とはいかなる学問なのかを紹介し、各回の授業のテーマとその概要、授業の目標、方法、成績評価などについて説明する。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第2回	**社会学の誕生　コント** 社会学は近代社会の成立とともに生まれた新しい学問である。第2回講義では、それまで空気のような「当たり前」の存在であった「社会」に関心が向けられ、学問としての構想が練られていった背景を理解すべく、オーギュスト・コントに着目する。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第3回	**社会と個人の関係をどう見るか1　デュルケム** 目に見えない「社会」をどのようにとらえたらいいのだろうか。ここではのちの社会学に大きな影響力を与えた学者のうち、デュルケムに着目し、その方法論について学ぶ。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第4回	**社会と個人の関係をどう見るか　ウェーバー** 目に見えない「社会」をどのようにとらえたらいいのだろうか。ここではのちの社会学に大きな影響力を与えた学者のうち、ウェーバーに着目し、その方法論について学ぶ。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第5回	**社会はどのように秩序立っているのか　パーソンズとマートン** 1億二千万人が暮らす日本社会。これだけ多くの人々がある程度秩序だって生きる背景には、どのような社会的構造があるのか。この点を捉えるためにパーソンズとマートンの理論を学んでいく。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第6回	**資本主義社会とはどのような社会なのか　マルクス** 私たちが生きる資本主義社会にはどのような問題があるのか。マルクスの理論をもとに学ぶ。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第7回	**監視カメラに囲まれた社会を考える　フーコーの権力論** 駅や商店街を歩くといたるところで目にする監視カメラ。使うことが当たり前になったポイントカードやICカード。ここでは人々が監視され、個人情報が管理される「当たり前」の社会を捉えなおすために、フーコーの権力論を学んでいく。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第8回	**自分らしい生き方の背後にある選択原理　ブルデューの社会学** 自分らしい服装や習い事、お金の使い方、音楽の趣味などは、自分一人で選んだ結果である。しかし、本当にそうなのか？ここではそういった常識的なもののみかたをくつがえすべく、ブルデューの社会学を学ぶ。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第9回	**後期近代の理論　リスク社会** 私たちが今生きている現代は、18世紀以降に訪れた近代社会が成熟し、進展した段階にある後期近代として位置づけられる。第9回から第10回では後期近代の理論を取り扱う。第9回では、ベックの議論を取り上げる。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第10回	**後期近代の理論　個人化・液状化** 第10回ではギデンズとバウマンの議論に基づきながら、現代社会におけるアイデンティティの特徴や、個人化が進展した結果生じる諸問題について学んでいく。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第11回	**男として，女としての生きづらさを考える　ジェンダー論** 日本は「ジェンダー格差指数」では世界でも低位に位置づいており、世界の国々の中でもとりわけ男女間の格差が大きい国となっている。そしてこの格差はなかなか改善されないままにいる。ここではこうした日本社会を捉えなおす視覚を獲得すべく、ジェンダー論者の議論を摂取し、学んでいく。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第12回	**国際社会とエスニシティ** 近年、日本社会の国際化が急激に進んでいる。第11回では国際社会と多様化するエスニシティの現状をもとに、今後の日本社会がどのように変化していくのかを考えていく。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第13回	**新たな社会の構築に向けて　市民社会を考える1** 自分たちが暮らす社会をより良いものに変えていくことは可能なのか。第13回と第14回では新たな社会を紡ぎあげていく方法について学ぶ。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第14回	**新たな社会の構築に向けて　市民社会を考える2** 自分たちが暮らす社会をより良いものに変えていくことは可能なのか。第13回と第14回では新たな社会を紡ぎあげていく方法について学ぶ。また第1から第14までの講義内容をまとめ、総括を行う。そして現代社会を取り巻く様々な事象に対してこれまで学んだ理論の数々をどのように応用して理解していけるのかを考えていく。	配布資料をもとに復習すること。	4時間

111

授業科目名	**日本国憲法**				
担当教員名	**則武 立樹**				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

≪授業形態≫全回オンデマンド配信

「日本国憲法」と聞くと、何か難解で理解しづらい「法」のように思えるかもしれない。しかし、日本という国家の構造上、法の中でも一番強い力を持つものが日本国憲法なのである。では、憲法が私たちにしてくれていること、逆に私たちの行動を制限していることって何なのか？憲法はどういう形でこの社会に溶け込んでいるのか？こうした今まで深く考えてこなかったであろう「憲法」に真正面から向き合い、次世代を担う皆さんが「憲法」を理解できるよう、様々な生活の中でのエピソードを交えつつ授業を展開します。
また、下記の授業方法の欄にもあるように、講義動画視聴を中心として授業を進行しますが、Google Classroomや課題（コメント）の提出を活用し、受講生の疑問等を共有するアクティブラーニングも取り入れます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	日本国憲法の基本構造や理念に関する知識の習得。	日本国憲法とはどんな法であるのかについて、自らの考えを述べることができる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		日本国憲法の理念、法解釈を正しく理解した上で、日本社会の抱える現代的課題について、事実概要を整理し、批判的に検討することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・その他(以下に概要を記述)

≪映像教材配布＋異時双方向型≫
授業の流れ（初回）
・音声付きパワーポイント講義動画視聴（60分程度）→配布PDFファイルを用いた「振り返り」（20分程度）→課題（コメント）/Google Classroom上での質問の作成と提出（20分程度）
授業の流れ（2回目以降）
・課題（コメント）/質問に対するフィードバック（10分程度）→音声付きパワーポイント講義動画視聴（50分程度）→配布PDFファイルを用いた「振り返り」（20分程度）→課題（コメント）/Google Classroom上での質問の作成と提出（20分程度）

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回の課題の提出をもって出席とします。授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	30 %	： 次回授業日前日（23時59分）までに提出を求める課題（コメント）/質問等について、科目独自のルーブリックによって評価します。
期末レポート試験	70 %	： 日本国憲法の構造、理念、法解釈などについて正しく理解をしているか、そして、自らの意見を論理的に述べられるかという観点から評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『保育と日本国憲法』橋本勇人編（みらい、2018年） ISBN 978-4-86015-460-8
『憲法第8版』、芦部信喜著、高橋和之補訂（岩波書店、2023年） ISBN 978-4-00-061607-2
『教職課程のための憲法入門（第3版）』、西原博史、斎藤一久編著（弘文堂、2024年） ISBN 978-4-335-35979-8

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。まず予習として、該当するテーマについてインターネット等を用いて調査すること。そして、受講後には当該授業内容の復習を行うこと。
この講義は、日本国憲法や法学の初学者を含め、教職を目指す者、一般常識として憲法を学びたいと考える者、講義内容に関心を持つ者を広く対象とします。そもそも、なぜ私たちは憲法を「学ぶ（必要がある）」のか？次世代を担う学生の皆さんのふとした疑問に答えられる授業を展開していきます。なお、授業運営の説明を行うので第1回目の授業動画は必ず視聴すること。また日常の心構えとして、「憲法」のキーワードの出てくる新聞記事やニュースなどを注意深く見ておくこと。そして、自分なりに「何が問題となっているのか」について考えてみることを勧めます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： Google Classroom上

備考・注意事項： 授業に関する質問がある場合には、Google Classroomにて受け付けます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスーなぜ私たちは憲法を学ぶ（必要がある）のか？ー** 教職を選ぶ者にとっては必修科目とされる「日本国憲法」であるが、なぜ学ぶ必要があるのか？また、一般常識としてなぜ憲法を知っておかなければならないのか。次世代を担う学生の皆さんが今ここで真正面から「日本国憲法」を学ぶ意義を示す。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。 １：基本的人権、２：国家権力、３：主権者。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第2回	**人権総論ー憲法が保障する「人権」とは何か？ー** 人権とは「誰のもの」であるのか。そして、人権は国家権力によって「制限」されてもよいのかについて概説する。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。１：外国人の人権、２：国民の定義、３：国籍の取得。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第3回	**法の下の平等 ―こども、女性、LGBTQ＋を巡る差別に対して憲法はどう挑むことができるのか？―** 未だ平等が完全に保障されたとは言えない日本の中で、憲法がどのように立ち向かうことが出来るのかを知る。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。 １：包括的基本権、２：機会の平等/結果の平等、３：尊属殺人（親子関係に基づく差別）、４：非嫡出子（子どもに対する差別）、５：同性婚。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第4回	**精神的自由権 ―思想・良心の自由、信教の自由（「心」の自由を保障する）、表現の自由（「行動」の自由を保障する）―** 誰にも縛られるはずのない私たちの「心」、「行動」が、どのようにして侵害されるのかについて学ぶ。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。１：思想･良心の自由、２：信教の自由、３：政教分離、４：目的効果基準、５：表現内容/表現内容中立規制。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第5回	**経済的自由権 ― 職業選択の自由、営業の自由（「経済活動」の自由を保障する）、社会権（生存権）―** 経済的自由権に対する国家の法規制はどこまで許されるのか。そして、「健康で文化的な最低限度の生活」をうたう憲法25条がどこまで保障されているのか。判例を通じてその法解釈を学ぶ。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。１：職業選択の自由、２：二重の基準論、３：規制目的二分論、４：生存権。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第6回	**現代の憲法問題① 居住移転の自由（部落差別を素材に）―** 日本社会で連綿と続く部落差別。その差別構造と差別の誕生経緯、そして憲法上の解決策を探る。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。１：部落、２：居住移転の自由。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第7回	**現代の憲法問題② 死刑存廃問題①（死刑制度の抱える問題とは何か？）―** 死刑廃止/執行停止国が世界の3分の2を占める現在において、死刑制度のあり方を問い直す。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。１：死刑制度、２：罪刑法定主義。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第8回	**現代の憲法問題③ 死刑存廃問題②（死刑制度の是非） ―** 法律に基づき生命を奪う「死刑」という刑罰は、果たして存続すべきか、あるいは廃止すべきか。受講生が一人ひとり自分なりの意見を持てるよう、様々な論点を示す。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。１：憲法31条、２：憲法36条、３：仮釈放。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第9回	**統治機構総論 ―いかにして国家権力を抑制するのか？ ―** 強大な国家権力を前にしては脆弱な国民はなすすべを持たない。それゆえ生み出された統治機構について学ぶ。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。１：権力分立、２：法の支配。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第10回	**国会 ―「立法」という国家権力を考える ―** 国会と呼ばれる国家機関のあり方とその権能を学ぶ。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。１：立法、２：国政調査権。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間

第11回	**内閣 ―「行政」という国家権力を考える―** 内閣と呼ばれる国家機関のあり方とその権能を学ぶ。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。１：行政、２：衆議院の解散権。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第12回	**裁判所 ―「司法」という国家権力を考える ―** 裁判所と呼ばれる国家機関のあり方とその権能を学ぶ。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。１：司法、２：違憲立法審査権。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第13回	**地方自治 ―地方の政治はここに住む私たちが決めるべき―** 日本の政治を東京に一極集中させてしまえば、地方は軽視され、衰退の一途を辿ってしまうだろう。そこで設けられた制度である「地方自治」について、どのように地域住民たちの意思が反映されているのか、地方公共団体の役割を読み解く。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。１：地方自治の本旨、２：条例。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第14回	**憲法改正 ― 私たちの未来を決定する「憲法」はどうあるべきか？―** 憲法の性質を総括するとともに、憲法改正の手順、そして現在盛んに議論されている憲法改正の争点について学ぶ。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。 １：最高法規性、２：硬性憲法、３：憲法改正。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間

111

授業科目名	**文学と歴史**				
担当教員名	白瀬 浩司				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

あなたは絵本が好きですか？　さほど好きではないですか？
保育者をめざす人であっても、絵本そのものを《楽しむ対象や素材》というより、余った時間の埋め合わせや保育活動のための《つなぎのアイテム》と見ている人もいるようです。
本科目では、絵本の歴史や絵本が各世代の読者に対して果たす役割について理解するとともに、選定した絵本を用いながら個々の絵本の物語世界を文字情報と絵画情報の双方を手がかりに読み解いていきます。絵本にこめられたメッセージをしっかりと受けとめられる読者（そして保育者）をめざしましょう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	絵本の素材となった物語、あるいは現存する絵本に関する幅広い知識・教養を身につける。	物語絵本の歴史（西洋）、絵本の素材となった日本の物語の歴史について、大まかに文学史的な流れを理解する。
2. DP2.専門的知識・技能、職業理解	絵本・童話の特徴・形式や読み聞かせの技法について理解すること、対象作品を正しく読解すること。	絵本・童話の物語世界を文字情報・絵画情報を手がかりに正しく読み取ることができる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		対象を正しく理解した上で、そこに内包される課題を見出すことができる。
2. DP6.行動・実践		理解した対象について、適切な形で伝達・表現することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がない場合、最終レポートの提出がない場合は放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業ワークシート	30 %	： 各回（11回）に提出するワークシートの記述内容により、よく理解できている＝3点、概ね理解できている＝2点、理解がやや不十分である＝1点とします。
授業ワークシート（小レポート課題）	30 %	： 授業時に提出するワークシートのうち3回分を小レポートとし、提示された課題に関する記述内容と理解度により評価します。10点×3回
受講態度	10 %	： 読み聞かせ、グループ報告、各回の授業への参加態度（発言・グループ討議）、課題への取り組み姿勢、授業資料ファイルの整理状況により、評価します。
最終課題（定期試験）		： 課題に対する理解と、記述内容により評価します。なお、基本的な文章スキルにかかわる評価項目については、講義時に提示します。

30　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

※『ベーシック絵本入門』（ミネルヴァ書房、2013年）
ISBN:978-4623064335
※『はじめて学ぶ日本の絵本史』Ⅰ～Ⅲ巻（ミネルヴァ書房、2001～2002年）
ISBN:978-4623033157、978-4623033164、978-4623033171

その他の文献については、適宜、授業時に紹介します。
なお、14回の全体的な授業構成は基本的に動きませんが、事例として扱う絵本は最新情報を照会しつつ変更する場合のあることをご承知おきください。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業ワークシート」によって本時の授業の振り返りを行うとともに、次回の授業の予告を踏まえて予習に取り組むこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜３限

場所： 西館５階（図書館横）57研究室

備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：shirase@g.osaka-seikei.ac.jp）。なお、Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**絵本とは何か―基本概念と表現特性、西洋の絵本史概説** 絵本に関する基本的な概念と、絵本の持つ表現特性について学びます。また、西洋の絵本の歴史について概説します。	配布資料を読み返すとともに、絵本の種類に関する小課題に取り組む。	4時間
第2回	**絵本の種類―子どもにとっての絵本、日本の絵本史概説** 絵本の種類について実物を見ながら確認する（絵だけの絵本、字だけの絵本も含む）とともに、子どもの成長・発達に絵本が果たす役割について概略を学びます。また、日本の絵本の歴史について概説します。	授業時の配布資料を読み返し、赤ちゃん絵本に関する小課題に取り組む。	4時間
第3回	**乳児と絵本―赤ちゃん絵本を《見る》こと、《読む》こと** 複数の絵本に目を通し、いわゆる〈赤ちゃん絵本〉が乳児の発達にいかに関わるのか、その特徴について理解するとともに、保育現場でどのように活かしていくかを学びます。	講義資料を読み返すとともに、次回に扱う絵本に目を通しておく。	4時間
第4回	**幼児と絵本、小中学生と絵本、大人と絵本** 複数の絵本に目を通し、子ども（幼児・児童・生徒）から大人にとっての絵本との出会いについて学びます。病院の院内学級、グリーフケアや終末期医療の現場での絵本の読み聞かせ実践の事例にも触れていきます。	配布資料を読み返すとともに、昔話絵本に関する小課題に取り組む。	4時間
第5回	**昔話絵本を《読む》** 日本の昔話を題材にした絵本を取り上げ、その概要を理解するとともに、中世に書かれて近世に出版された昔話絵本の翻字・解読をしていきます。江戸期の絵本は、いわゆる変体仮名で書かれていますので、文化的な歴史の姿に触れることにもなります。	講義時の配布資料で復習をするとともに、絵本『にゃーご』を事前に読んでおく。	4時間
第6回	**絵本に込められたメッセージを《読む》―基礎篇・事例研究①『にゃーご』** 絵本『にゃーご』（宮西達也）を事例として取り上げ、文字情報・絵画情報を確認しながらペア作業・個人作業を行い、同絵本にこめられたメッセージを読み解いていきます。	配布資料で復習をするとともに、絵本『だいじょうぶ　だいじょうぶ』を事前に読んでおく。	4時間
第7回	**絵本に込められたメッセージを《読む》―基礎篇・事例研究②『だいじょうぶ　だいじょうぶ』** 絵本『だいじょうぶ　だいじょうぶ』（いとうひろし）を事例として取り上げ、文字情報・絵画情報を確認しながらペア作業・個人作業を行い、同絵本にこめられたメッセージを読み解いていきます。	講義時の配布資料で復習をおこない、絵本『手ぶくろを買いに』を事前に読んでおく。	4時間
第8回	**絵本に込められたメッセージを《読む》―基礎篇・事例研究③『手ぶくろを買いに』** 絵本『手ぶくろを買いに』（新美南吉）を事例として取り上げ、文字情報・絵画情報を確認しながらペア作業・個人作業を行い、同絵本にこめられたメッセージを読み解いていきます。	配布資料を読み返し、絵本『ぐるんぱのようちえん』に目を通す。	4時間
第9回	**映像化された絵本作品を《読む》―事例研究①『ぐるんぱのようちえん』** 絵本を原作としていても、それが映像作品となった場合、読者・視聴者の受ける印象は異なる場合があります。映像メディアによる表現の特色と、それに照らしつつ、改めて絵本の特質を捉え返していきます。今回は『ぐるんぱのようちえん』（西内ミナミ・文／堀内誠一・絵）の絵本作品と映像作品を対象として検討します。	講義時の配布資料で復習をおこない、絵本『はらぺこあおむし』に目を通す。	4時間

第10回	**映像化された絵本作品を《読む》―事例研究②『はらぺこあおむし』** 絵本を原作としていても、それが映像作品となった場合、読者・視聴者の受ける印象は異なる場合があります。映像メディアによる表現の特色と、それに照らしつつ、改めて絵本の特質を捉え返していきます。今回は『はらぺこあおむし』（エリック=カール・作／もりひさし・訳）の絵本作品と映像作品を対象として検討します。	配布資料を読み返すとともに、絵本『おまえうまそうだな』に目を通す。	4時間
第11回	**映像化された絵本作品を《読む》―事例研究③『おまえうまそうだな』** 絵本を原作としていても、それが映像作品となった場合、読者・視聴者の受ける印象は異なる場合があります。映像メディアによる表現の特色と、それに照らしつつ、改めて絵本の特質を捉え返していきます。今回は『おまえうまそうだな』（宮西達也）の絵本作品と映像作品を対象として検討します。	授業時の配布資料を読み返し、絵本『ことりをすきになった山』に目を通す。	4時間
第12回	**絵本に込められたメッセージを《読む》―応用篇・演習①『ことりをすきになった山』** 文字情報と絵画情報によって紡ぎ出される物語世界を捉え、作品にこめられたメッセージを一人ひとりが自力で読み解く演習を行います。今回は『ことりをすきになった山』（アリス=マクレーラン・作／エリック=カール・絵／ゆあさふみえ・訳）を対象として取り上げます。	配布資料を読み返すとともに、絵本『せかいいちうつくしい　ぼくの村』に目を通す。	4時間
第13回	**絵本に込められたメッセージを《読む》―応用篇・演習②『せかいいち　うつくしい　ぼくの村』** 文字情報と絵画情報によって紡ぎ出される物語世界を捉え、作品にこめられたメッセージを一人ひとりが自力で読み解く演習を行います。今回は『せかいいち　うつくしい　ぼくの村』（小林豊）を対象として取り上げます。	配布資料を読み返し、絵本『おじさんのかさ』に目を通す。	4時間
第14回	**現代を生きる私たちは絵本といかに関わるか―応用篇・演習③『おじさんのかさ』** 文字情報と絵画情報によって紡ぎ出される物語世界を捉え、作品にこめられたメッセージを一人ひとりが自力で読み解く演習を行います。今回は『おじさんのかさ』（佐野洋子）を対象として取り上げます。また、授業全体をふり返りつつ、絵本の歴史や、現代における私たちと絵本との関わりについてまとめていきます。	ファイリングした配布資料を用いて半期の授業の振り返りを行い、最終課題（定期試験）に備える。	4時間

111

授業科目名	**心理学概論**				
担当教員名	水谷 聡秀				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義（遠隔）				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公益財団法人の研究センターでデータ分析の業務委託を請け負う（第1回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

心理学入門として、心のしくみについて基礎的な内容を学びます。身体を動かすこと、見たり聞いたりすること、ものをつくったり考えたりすること、人と関わること。私たちが日常の中で行っているいとなみについてその基礎となる心理メカニズムを学びます。また、生を受けて誕生し、子供から大人になって、老いていき、死を迎えるという、人の一生を視野に入れて、人が人と関わり、自分を育てていく、その心理メカニズムの基礎も学びます。
なお、Google Classroomで授業を行い、原則的に毎回ウェブ上で小レポートを記入してもらい、意見の共有などを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	心理学の幅広い領域から学ぶ。	心理学の知識を問われときには答えられ、日常や社会にどのように応用できるか述べることができる。
2. DP2.専門的知識・技能、職業理解	心理学の中心的領域の概要と基礎理論を学ぶ。	心理学の中心的領域の概要と基礎理論を学んだことについて問われた場合には正確に答えることができる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		日常や社会（家族、地域、企業、芸術、国際関係など）の生活（人間関係、仕事の効率化、教育など）に関連づけて述べられる。
2. DP8.意思疎通		授業で学んだことを分かりやすく説明できる。
3. DP10.忠恕の心		日常や社会の生活において徳（愛情、親切、向上心、知恵など）が備わるよう適切に努力できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)
　・調査、アセスメントなどを実施して測定を体験をする。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
・その他(以下に概要を記述)
　提出後の授業で、全体的な傾向あるいは特定の学生の小レポート等を取り上げてコメントする。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席（参加）すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
振り返り・小レポート提出	42 %	： 毎回、小レポート等を記述して時間内、あるいは期日までに提出したもので評価する。
小テスト（電子上）	48 %	： 心理学の基礎知識と応用力で判断する。
期末テスト（レポート提出）		： 授業で学んだこと活かして十分に論じていることができているかで判断する。

10　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
サトウタツヤ・渡邊芳之	・心理学・入門 - 心理学はこんなに面白い　改訂版	・有斐閣	・2019　年

参考文献等

鈴木 直人(監修) 『心理学概論　第2版』 ナカニシヤ出版、2014年。
その他の参考文献については必要に応じて授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業時間の前後

場所：　Google Classroom

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・心へのアプローチ** 授業の進め方などを確認し、心理学では心がどのように研究されているかを学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、心へのアプローチについて予習・復習する。	4時間
第2回	**知覚のしくみ（1）目でものを見ること** 恒常性、立体視、錯視などの現象に加えて、網膜や脳から解明されつつある視覚機能を学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、視覚について予習・復習する。	4時間
第3回	**知覚のしくみ（2）味わうということ** 音の高さや大きさ、味の知覚などの視覚以外の知覚機能について幅広く学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、視覚以外の知覚について予習・復習する。	4時間
第4回	**認知（1）身体と認知** 身体の感覚と運動、アフォーダンス、表情などについて学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、身体と認知について予習・復習する。	4時間
第5回	**認知（2）記憶の仕組み** 短期記憶、長期記憶、記憶の種類について学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、記憶の仕組みについて予習・復習する。	4時間
第6回	**認知（3）思考の方法** 認知バイアス、ヒューリスティックスについて学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、思考の方法について予習・復習する。	4時間
第7回	**心理学の視点から自分をみつめる** 自己認知（自己概念、自尊心）、性格（知能検査、性格検査、遺伝と環境）について学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、自己認知について予習・復習する。	4時間
第8回	**発達（1）新生児期・乳児期** 赤ちゃんが認識する顔、声、言葉の発達などについて学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、赤ちゃんの心について予習・復習する。	4時間
第9回	**発達（2）幼児期・児童期** 幼児や児童の言葉の発達、親子関係、友人関係について学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、幼児から児童の心について予習・復習する。	4時間
第10回	**発達（3）青年期以降** 青年期のアイデンティティ、高齢期の心理などについて学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、青年期以降の心について予習・復習する。	4時間
第11回	**社会（1）社会の中での人をどのようにとらえるか** 社会認知、集団、群衆について学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、社会認知や集団について予習・復習する。	4時間
第12回	**社会（2）社会の中でのコミュニケーション** 非言語コミュニケーション、対人感情、援助行動、攻撃行動について学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、他者との相互作用について予習・復習する。	4時間
第13回	**臨床（1）心の不調をどう理解するか** 心の不調について検査や面談で診断が行われることや、さまざまな療法があることを学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、心の不調について予習・復習する。	4時間
第14回	**臨床（2）心についてみつめる**	教科書や配布資料などを熟読し、臨床から心について予習・復習する。	4時間

精神分析学、マズローの欲求五段階説、ポジティブ心理学などについて幅広く学びます。		

111

授業科目名	**文学と歴史**				
担当教員名	**浅野 法子**				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

文学作品は作家の表現活動を形にしたものであるとともに、時代の産物でもあります。そこには社会情勢や文化土壌、作家の思想性が反映され、人類の歴史が凝縮されています。
本授業では、「子ども」をキーワードに日本の近現代の文学作品を読み解くことを試みます。文学に表象された社会背景や作家の自伝的要素を抽出し、文学にみる児童観の変遷も検証します。発表やグループワークやレポート作成の方法も学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	日本文学と歴史に関する幅広い教養を身につける。	文学作品を読み、歴史的背景がわかる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		文学作品を分析できる。
2. DP8.意思疎通		グループで課題解決ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	20 %	： ミニ発表の取り組みや、グループワークへの貢献度，授業態度などを総合的に評価します。
授業外課題	30 %	： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
提出物（振り返りシート）	30 %	： 毎回の授業で振り返りメモの提出を課します。授業内容を理解し、自分で考えられていれば、2ポイント（加点あり）、理解不足は1ポイント。
試験	20 %	： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜３限

場所：　研究室（西館5階）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業ガイダンス——自分史をまとめる** ・授業の進め方 ・発表の分担 ・自分史として年譜を作成する ・児童観のいろいろ	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第2回	**はじめに：物語について** 物語について、日本のもっとも古い物語とされる竹取物語を事例に考察する。 ・作品の背景 ・派生作品のいろいろ	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第3回	**小川未明の場合** ・年譜を読む ・作品講読：「金の輪」 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第4回	**新美南吉の場合** ・年譜を読む ・作品講読：「久助君の話」 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第5回	**宮澤賢治の場合** ・年譜を読む ・作品講読：「セロ弾きのゴーシュ」 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第6回	**児童文学作品に描かれた子ども①松谷みよ子の場合** ・年譜を読む ・作品講読：「ちいさいモモちゃん」 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第7回	**児童文学作品に描かれた子ども②那須正幹の場合** ・年譜を読む ・作品講読：「ズッコケ三人組」 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第8回	**児童文学作品に描かれた子ども③灰谷健次郎の場合** ・年譜を読む ・作品講読：「兎の眼」 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第9回	**児童文学作品に描かれた子ども④岡田淳の場合** ・年譜を読む ・作品講読：「放課後の時間割」 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第10回	**ヤングアダルト作品に描かれた子ども①森絵都の場合** ・作品講読 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第11回	**ヤングアダルト作品に描かれた子ども②上橋菜穂子の場合** ・作品講読 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第12回	**番外編①擬人化された動物の物語** ・作品講読 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間

第13回	**番外編②絵本に描かれた子ども** ・作品講読 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第14回	**番外編③アニメーションの中の子ども・まとめ** ・作品講読 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間

111

授業科目名	**日本の食文化**				
担当教員名	草尾 賀子				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

2013年4月に「和食」がユネスコも無形文化遺産に登録され、欧米諸国から日本食・和食は健康によいと評価され、日本食レストランも流行しています。しかし、皆さんの食生活は本当に健康的と言えるでしょうか。この授業では日本の食事の良さを理解し、将来において豊かで健康的な食生活を送ることができるように授業を進めていきます。これまで受けつがれてきた日本の食事についての伝統や文化を知ります。「文化としての日本食」「食べる楽しみの日本食」「作る楽しみの日本食」を学び、今後の食生活を豊かなものにしてください。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	日常の食生活を振返る機会を持ち、日本の伝統食や食事情を理解する。さらには、全ての人が健康に過ごすためにどのように行動すべきかを考える力を養う。	基礎知識を習得し、自分自身の食生活が豊かで健康維持できるように設計すること、日本の食料自給率を向上させる行動を意識する。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		自分の食生活を振返り、改善すべきことを見出し、改善方法を考えることができる。
2. DP6.行動・実践		我が国の食事情を理解し、持続可能な社会のための食行動ができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とする。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の授業・課題プリント	35 %	： 毎回の授業開始時にプリントを配布する。授業内に必要事項を書き込み、授業のまとめを記入する。 5点×14回×0.5＝35点
授業外課題	15 %	： 授業外課題により評価する。5点×3回＝15点
定期試験	40 %	： 全授業の総まとめとしての100点満点の定期試験を実施し、40点に換算する。
確認テスト	10 %	： 第4回授業開始時に第3回授業内容の確認テスト、第14回授業開始時に第13回授業内容の確認テストを行う。5点×2回

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

フードコーディネーター教本3級テキスト2025／日本フードコーディネーター協会／柴田書店ISBN978-4388154623
現代食文化論／編著 小川聖子・野林厚志／建帛社 ISBN978-4-7679-0740-6
12か月のしきたり／新谷尚紀／PHP研究所 ISBN978-4-569-69615-7

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業内課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日4限（15：00-16：40）

場所： フードコーディネート研究室（本館3階）

備考・注意事項： 質問などは授業の前後に直接またはメールkusao@g.osaka-seikei.ac.jpにて受け付けます。
授業や会議以外の時間にはフードコーディネート研究室にいますので、在室の場合は対応します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**日本の食事を考える** ・朝食の役割 ・理想的な朝ごはんとは ・和食と日本料理 ・だしの文化	次の週までの７日間、朝食の献立を意識して、改善できたことをまとめます。	4時間
第2回	**和食の献立構成と盛り付け、並べ方** ・和食の献立構成と組み合わせ ・陰陽五行 ・食材の旬について ・盛り付けと器使い ・料理の並べ方	春の一汁三菜の献立を作成し、ラフスケッチして次回提出	4時間
第3回	**日本の年中行事とその行事食・お菓子** ・年中行事とは ・正月料理とその意味 ・五節句のお祝い料理とその意味 ・その他の行事とその行事食・お菓子	授業で取り上げた行事食の中から一つ選び、詳しく調べてまとめる。確認テストに備えて復習する。	4時間
第4回	**日本の郷土料理①―北海道～東海地方まで** ・第3回授業の確認テスト ・北海道：石狩鍋、ジンギスカン鍋 など ・東北：いものおづけばっと、わんこそば、きりたんぽ など ・関東：柳川鍋、ひしこ押し寿司 など ・信越：のっぺい汁、ぶり大根 など ・東海：みそ煮込みうどん、ぬまづ丼 など	授業で深く取り上げなかった郷土食について詳しく調べて400字以上でまとめる。	4時間
第5回	**日本の郷土料理②―近畿地方～沖縄まで** ・近畿：鮒ずし、伊瀬うどん、三輪そうめん など ・中国：豆腐めし、わに刺し、ままかり など ・四国：たらいうどん、あん餅雑煮、宝楽焼き、皿鉢料理 など ・九州：白魚料理、卓袱料理、からし蓮根、さつまあげ など ・沖縄：カーサム―チー、ラフテー など	授業で深く取り上げなかった郷土料理について一つ選びその由来を調べましょう。	4時間
第6回	**米と小麦、そばの食文化** ・米が、どのように日本で作られてきたか ・米の栄養的特徴 ・小麦が、どのように日本で作られてきたか ・米と小麦の違い ・パン発祥と歴史 ・そばの食文化	穀類に関する課題プリントを完成させておく。	4時間
第7回	**身近な野菜の歴史と食文化** ・日常的に食べている野菜と日本の原産野菜 ・身近な野菜の花について ・京都の伝統野菜 ・大阪の伝統野菜 ・奈良の伝統野菜 ・他の地域の伝統野菜について	授業でくわしく取り扱わなかった伝統野菜について、詳しく調べて400字以上でまとめる。	4時間
第8回	**大豆の食文化・豆の種類、栄養について** ・身近な豆の名前について ・食べている豆の加工品 ・豆の種類について ・大豆の伝来の歴史や種類について ・大豆の栄養的な特徴を理解 ・小豆の伝来の歴史や種類について ・世界の豆料理	豆塁に関する課題プリントを完成させておく。一週間で食べた魚料理を記録する。	4時間
第9回	**身近な魚介類の特徴と料理について**	魚介類についての課題プリントを完成させておく。最近食べたすしを記録しておく。	4時間

	・魚の名前の漢字と切り身のクイズ ・養殖魚と天然魚 ・日本の近海魚の料理 ・漁業と魚肉料理の歴史を知ります。 ・旬の魚とその料理 ・世界の魚料理と日本の魚料理の違い ・藻類の調理方法		
第10回	**魚の保存とすしの発展** ・魚の生食と保存性 ・食品に含まれる水の化学的特性を解説します。 ・食品の腐敗と微生物の特性を理解します。 ・代表的な食中毒や寄生虫症の特性 ・寿司の発祥から発展の歴史 ・今後の魚の生食について	鮨に関する課題プリントを完成させる。１週間に飲んだお茶を記録する。	4時間
第11回	**お茶の歴史と文化** ・日常に飲んでいるお茶の種類 ・茶葉の歴史について ・茶葉の生産方法と分類について ・日本茶の特徴と種類について ・日本茶の生産地と特徴 ・世界のお茶の製法とお茶の飲み方	お茶に関する課題プリントを完成させる。最近食べた外食、中食について記録する。	4時間
第12回	**変化する日本の食事情** ・日本の家庭の食事の現状 ・日本の外食・中食産業の経年変化 ・日本と世界各国の冷凍食品利用状況 ・生鮮食品と加工食品（輸入食品を含む）の表示法について ・日本と世界各国の食料自給率について ・日本の食料自給率を向上させる工夫について考える。 ・今後の食事設計について	日本の食料自給率向上に向けた取り組みについて調べ、400字以上でまとめる。	4時間
第13回	**日本の器の歴史と現在の流行** ・日本の器と西洋の器の違い ・季節による器の使い分け ・器の形 ・器の文様 ・器の技法 ・最近の日本での器の流行	授業プリントを復習し、確認テストに備える。	4時間
第14回	**日本のおもてなし料理とマナー** ・第13回授業の確認テスト ・精進料理について ・懐石料理について ・会席料理について ・普茶料理、卓袱料理について ・日本料理のマナー	定期試験に向けて、授業プリントを復習しておくこと	4時間

111

授業科目名	**ホスピタリティー論**				
担当教員名	米谷 徳恵				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	ブライダルコーディネート及びホテルでの勤務を経験、現在は観光業はじめ医療、介護、理美容業において人的サービスにおけるコンサルティングを生業としている。ホテルマンや接客サービス最前線のスタッフ指導、リーダーシップ、管理職等の研修を行い、学生が今後就職を考える業種においてどのような人材が望まれているかを含め指導できる。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

サービス産業の事業経営の両輪は、ホスピタリティとマーケティングです。本講義では、その一つであるホスピタリティの本質を、実際に接客現場で経験する事例などを題材に理解を深めます。ホスピタリティは業界、業種、職種を問わず普遍的、かつ多様性(ダイバーシティ)を生かしながら社会で共生していくためのスキルでもあります。またグローバル社会をふまえ、和のおもてなしをベースにしたホスピタリティについても共に学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	ホスピタリティに関する基本知識	コミュニケーション、接客の場面で、その知識を行動で実践できる。
2. DP2.専門的知識・技能、職業理解	サービス業におけるサービス、マーケティング知識	サービスの理論を理解する事により、人的サービスの幅を広げることができる。
汎用的な力		
1. DP6.行動・実践		学修したホスピタリティを学内学外を問わず実践できる。
2. DP8.意思疎通		協同学習や討論の中で、円滑なコミュニケーションを取ることができる。
3. DP10.忠恕の心		ホスピタリティの学修と実践を通じて、心を共有できる人間に成長できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	60 %	： 授業内容を良く理解できていること。基礎知識を用い、社会人になってからの自己目標を明確かつ前向きな取り組みの形で表現できているかという観点から評価する。
課題レポート	30 %	： 授業への取り組み度、理解度に加え、文章作成力の向上を評価します。
授業とグループワークへの参加度	10 %	： 受講意欲や講師の質問に対する回答、ワーク中の積極的な意見発表、リーダーシップを科目独自のルーブリックによって評価、配点します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献は授業の中で随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。
その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
日々ホスピタリティを意識した生活を心がけ、学んだことを実践することにより、その理解力や観察力が研ぎ澄まされ、自己成長につながります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業のある教室

備考・注意事項：　質問は、kometani.n@ark.ocn.ne.jp に質問を送ってください。送る際には、タイトルに学績番号、氏名を明記し送信すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション、ホスピタリティに関する基礎知識** 講師紹介に続き、授業の進め方、学修内容、評価方法について確認。グループワークの後、ホスピタリティとは何か？講師より一つの習得の道筋を提示。4～5名のグループを作り、課題について討議し発表。 高い学修成果を上げるための目標の設定と管理の方法について学ぶ。	サービス現場の観察ポイントを決め、良い事例、悪い事例を収集し報告書を作成する。	4時間
第2回	**ホスピタリティの原点を知る** ホスピタリティの語源にさかのぼり、その本質を掴めるようホスピタリティの基本知識や事例について学ぶ。 欧米的発想と日本的発想の違いに触れながら、ホスピタリティの領域を学習する。	レポートにまとめる。	4時間
第3回	**ホスピタリティとサービスの違い** ホスピタリティとサービスの違いから、サービスについて学習する。 サービスの種類からホスピタリティの位置づけ、ＣＳ活動との関わりを考察する。	サービス現場事例の収集継続。サービスとホスピタリティの違いを調べ、今までの収集事例を分類してみる。	4時間
第4回	**ホスピタリティとおもてなし** おもてなしは日本におけるホスピタリティであるといった考え方が正しいのか、利休７則から本来のおもてなしとは何かを研究する。	次回授業内容におけるサービス現場事例の収集をする。	4時間
第5回	**産業とホスピタリティ①ホテルなど宿泊業のホスピタリティ** ホテルを中心とした宿泊業における事例を挙げて、その取り組みやホスピタリティについて学ぶ。ラグジュアリーホテル、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテル、バジェットホテルなど種類に応じたホスピタリティがあることを学習する。	授業で学んだ内容をレポートにまとめる。次回授業内容におけるサービス現場事例の収集をする。	4時間
第6回	**宿泊産業とホスピタリティ②日本旅館などのホスピタリティ** 日本旅館など、宿泊産業における事例を挙げてその取り組みやホスピタリティについて研究する。「加賀屋」はじめ老舗旅館の事例をもとに、日本旅館ならではのホスピタリティ実践について学習する。	授業で学んだ内容をレポートにまとめる。次回授業内容におけるサービス現場事例の収集をする。	4時間
第7回	**運輸業とホスピタリティ** 運輸業には、鉄道、航空、船舶と観光産業には欠かせない業種である。それぞれが観光産業としてホスピタリティを利益にするための取組みについて学習する。	授業で学んだ内容をレポートにまとめる。次回授業内容におけるサービス現場事例の収集をする。	4時間
第8回	**テーマパークとホスピタリティ** 「東京ディズニーリゾート」、「ＵＳＪ」などのテーマパークやレジャーランドのホスピタリティに関して運営会社の取り組みなどを研究し学習する。	授業で学んだ内容をレポートにまとめる。次回授業内容におけるサービス現場事例の収集をする。	4時間
第9回	**飲食業（レストラン、ファーストフード店）とホスピタリティ** 町のレストランからマクドナルドのようなファーストフード店におけるホスピタリティを考える。ホスピタリティがマニュアル化されている進化する飲食業界についてアルバイト先としている学生もいることから、スタッフとしての視点なども含め相互交流を図り、学習を深める。	授業で学んだ内容をレポートにまとめる。次回授業内容におけるサービス現場事例の収集をする。	4時間
第10回	**理美容業界とホスピタリティ** 美容室に行かない学生はいない。顧客視点をもってどのようにお店選びをしているのかなど、理美容業界のホスピタリティを考察する。 ブライダル業界とは関係が深いことから、これからのブライダルについても考察を深めていく。	授業で学んだ内容をレポートにまとめる。次回授業内容におけるサービス現場事例の収集をする。	4時間
第11回	**医薬業とホスピタリティ**	授業で学んだ内容をレポートにまとめる。次回授業内容におけるサービス現場事例の収集をする。	4時間

	ホスピタリティと同じ語源をもつホスピス、ホスピタルと学習してきた「ホスピタリティ」について現場でどのように実践されているのか、患者視点をもって考察する。		
第12回	**ホスピタリティとＳＤＧｓとの関連** 対人や接客に関する概念が変わってきている。サスティナブルな生活様式に即したおもてなしについて考察する。新しい宿泊形態や施設、新しい旅のスタイルの展開、ＡＩ時代のホスピタリティはどうなっていくのか等、グループワークの中でそれぞれの問題点や今後の課題について討論・整理し発表する。	今後日本のサービス産業のホスピタリティはどうあるべきか	4時間
第13回	**ホスピタリティ実践のための主体を考える** グループ毎に、自分たちの極めたいホスピタリティ、またその主体について考察し、次週の発表・プレゼンテーションに備えてグループワークを行う。	自己の考えをまとめてレポートを作成する。	4時間
第14回	**総括としてのプレゼンテーション** 各グループでの提案と討議を整理し、プレゼンテーションを行う。コメントを適宜発表し意見交換し、ホスピタリティについて総括する。	学生生活や就職活動、将来に生かせるよう、自身で今後のための目標を整理する。	4時間

111

授業科目名	キャリアベーシック				
担当教員名	田原 彩				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

短大での2年間の学びをスムーズに始められるように、学びの基盤となるスキル・能力を身につけること、即ち情報収集力（「聞き取る力」「読み取る力」）、言語能力（「書く力」「話す力」）、構成能力（「伝える力」「プレゼンテーション能力」）の習得を目指します。さらに社会人の基礎となる共働力を持った人材を育てます。そのために、授業全般を通じて建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」やSDGsの観点を利用して授業を構成します

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	建学の精神をベースにした人間力、情報収集力、言語能力、構成能力、共働力を身につける。	2年間の学修の基礎を形成し、卒業へ向けた学びをスムーズに進めていけるようになる。

汎用的な力	
1. DP10.忠恕の心	相手を思いやり、礼儀、マナーなどの人間力をつける。
2. DP4.課題発見	収集した資料から課題を発見できる。
3. DP5.計画・立案力	収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。
4. DP9.役割理解・連携行動	集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。
5. DP7.完遂	自分の担当カ箇所について指定の課題に従ってレポートを完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。
毎回、学修内容に沿った授業内課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に夏休みの課題として「読書感想文」を課します。感想文の評価は引き続き受講するキャリアデザインにて評価いたします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度	10 %	： 授業態度は、授業への取り組みや参加度を全14回の授業を通じて10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
発表（第13回）	10 %	： 第13回目の発表（ビブリオ）を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
課題（第1，3，7，12 ，14回）		： 計5回分の課題（授業時間外の事後課題）に対して、各回10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

50 %

論文課題（第10回） : 論文課題に対して15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

15 %

定期試験 : 定期試験時に実施するレポート作成を15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

15 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

毎回資料を配布いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜4限(15:00~16:40)

場所： 製菓研究室（本館３階）

備考・注意事項： オフィスアワー以外の質問も受け付けます。
不在の際には、Eメール（tabara@g.osaka-seikei.ac.jp）でも対応します。
ただし、送信日、送信時間によっては回答が遅れる場合があります（第１回授業時に説明）。

【メールの場合】
メールを送る際には下記内容を必ず明記してください。
件名→キャリアベーシックに関する質問
本文→送信者の所属コース、学籍番号、氏名

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**キャリアベーシックとは何か** 建学の精神・PBMP・LDC・言葉遣い教育・人間力（聞く話す読む書く協働する）など、授業の前提と目的を確認する。これからの短大の学び、ひいては社会での学びの基礎となるように多様な視点への気づき、言葉や文章についての理解を深める。	授業内容を振り返り、課題①に取り組む【課題①】自分のキャリアを考える	4時間
第2回	**メディア・リテラシーとは何か（情報収集力の基礎）（聞く力①、読む力①）** さまざまなメディアによる情報があふれる中からの情報の収集にかかわる考えを学ぶ。また世界的に活躍するクリエイターなどの講演映像を視聴し、話の趣旨や意図を考察する。さらにグループディスカッションや調査を通して解釈を深め、「情報収集力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第3回	**レポート課題の基礎を知る（文章力①）** 比較検討による情報源の選定、ファクトチェック、事実と意見の区別、引用ルールなど、情報収集の要点を知り、SDGsなどを利用しながらレポート課題の基礎を学ぶ。研究倫理教育についてもこの回に実施する。	授業内容を振り返り、課題②に取り組む【課題②】研究倫理教育実施後のレポート課題	4時間
第4回	**推薦図書を選定する（読む力②、文章力②）** 図書館で推薦図書を選定するために、興味のある本を3冊ほど選ぶ。その際に、図書館に置いている本の種類、データベースを使用した本の検索方法などを学ぶ。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第5回	**推薦図書の書評カードを製作する（読む力③、文章力③）** 自身の選択した推薦図書について、内容を要約し、その魅力を伝える書評カードを製作することで、「読む力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、課題④に取り組む【課題④】書評カード	4時間
第6回	**情報を言語化して伝える （話す力①、聞く力②）** 特定の図形や画像や絵文字などを言葉で伝える演習を通して、詳細な言語化、伝達の順序、解釈の差異など、「文章力」の基礎基本を理解する。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第7回	**ビブリオ・バトル（話す力②）** 作成した書評カードをもとに、本の魅力をグループでプレゼンテーションしあう「ビブリオ・バトル」を行う。クラス内で代表者を選出し、学内の本選へ推薦する。【発表】	ビブリオ・バトルを通して学んだことを、授業内メモを参考に、要点と自身の考えや意見をレポート用紙にまとめる。	4時間
第8回	**時事問題を調査する（書く力①）** 社会が抱える課題を反映したSDGsへの理解を深めるため、成立の背景にある現状・課題について理解し、未来の社会を想像し、グループで話し合う。	授業内容を振り返り、SDGsへの理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第9回	**社会の課題を調べる～SDGsを自分ゴトに～（情報収集・情報分析、考える力②）**	授業を振り返り、SDGsへの自分の関わり方について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間

	世界の子供たちの直面する社会問題を理解し、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちにできることや自分の役割についてグループで話し合う。「私の品格宣言」を利用したマネジメントの強化を行う。		
第10回	**社会の課題を調べる～SDGs達成のためにできること～（情報収集・情報分析、考える力③）** 自分と自分を取り巻く社会の課題について調べ、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちが身近なところでできることを考える	授業内容を振り返り、課題③に取り組む【課題③】私のアジェンダ2030	4時間
第11回	**時事問題を調査する（書く力①）** 各学科の専門性、各学生の興味関心に応じて、現代の時事問題を調査する。ワークシートに基づいて、概要の整理、専門家の見解の要約をおこなう。	授業を振り返り、現代の時事問題について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第12回	**時事問題を考察する（書く力②）** 第11回で調べた時事問題について、調べた内容を基に自分の意見をまとめる。	前回の時事問題について調べた内容を基に、自分の意見をまとめ、ワークシートを完成させる	4時間
第13回	**論文を作成する（書く力③）** 第11，12回でまとめたワークシートをもとに、時事問題の論文を授業内で作成する。論文を作成することで、文章表現・構成、論理展開などを理解する「書く力」の総合的な演習とする。【論文課題】	授業内で作成した論文課題の内容を精査する	4時間
第14回	**専門家の講演を聞く** 各学科の専門性に応じたゲストスピーカーを招いて、講演を聞く。講演のメモ、要約、調査などを通して、自分の意見や問いを考え、記述する。	授業内容を振り返り、課題⑤に取り組む【課題⑤】講演内容をまとめる	4時間

111

授業科目名	キャリアベーシック				
担当教員名	福永　栄一				
学年・コース等	1回生　経営会計コース・医療事務コース	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

短大での2年間の学びをスムーズに始められるように、学びの基盤となるスキル・能力を身につけること、即ち情報収集力（「聞き取る力」「読み取る力」）、言語能力（「書く力」「話す力」）、構成能力（「伝える力」「プレゼンテーション能力」）の習得を目指します。さらに社会人の基礎となる共働力を持った人材を育てます。そのために、授業全般を通じて建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」やSDGsの観点を利用して授業を構成します

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	建学の精神をベースにした人間力、情報収集力、言語能力、構成能力、共働力を身につける。	2年間の学修の基礎を形成し、卒業へ向けた学びをスムーズに進めていけるようになる。

汎用的な力	
1. DP10.忠恕の心	相手を思いやり、礼儀、マナーなどの人間力をつける。
2. DP4.課題発見	収集した資料から課題を発見できる。
3. DP5.計画・立案力	収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。
4. DP9.役割理解・連携行動	集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。
5. DP7.完遂	自分の担当カ箇所について指定の課題に従ってレポートを完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。
毎回、学修内容に沿った授業内課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に夏休みの課題として「読書感想文」を課します。感想文の評価は引き続き受講するキャリアデザインにて評価いたします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度	10　%	：　授業態度は、授業への取り組みや参加度を全14回の授業を通じて10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
発表（第13回）	10　%	：　第13回目の発表を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
課題（第1，3，7，12 ，14回）		：　計5回分の課題（授業時間外の事後課題）に対して、各回10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

	50 %		
論文課題（第10回）		:	論文課題に対して15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
	15 %		
定期試験		:	定期試験時に実施するレポート作成を15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
	15 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

毎回資料を配布いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回講義でお知らせします

場所：　図書館棟5階研究室

備考・注意事項：　オフィスアワー以外の時間も受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただけると確かです。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**キャリアベーシックとは何か** 建学の精神・PBMP・LDC・言葉遣い教育・人間力（聞く話す読む書く協働する）など、授業の前提と目的を確認する。これからの短大の学び、ひいては社会での学びの基礎となるように多様な視点への気づき、言葉や文章についての理解を深める。	授業内容を振り返り、課題①に取り組む【課題①】自分のキャリアを考える	4時間
第2回	**メディア・リテラシーとは何か（情報収集力の基礎）（聞く力①、読む力①）** さまざまなメディアによる情報があふれる中からの情報の収集にかかわる考えを学ぶ。また世界的に活躍するクリエイターなどの講演映像を視聴し、話の趣旨や意図を考察する。さらにグループディスカッションや調査を通して解釈を深め、「情報収集力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第3回	**レポート課題の基礎を知る（文章力①）** 比較検討による情報源の選定、ファクトチェック、事実と意見の区別、引用ルールなど、情報収集の要点を知り、SDGsなどを利用しながらレポート課題の基礎を学ぶ。研究倫理教育についてもこの回に実施する。	授業内容を振り返り、課題②に取り組む【課題②】研究倫理教育実施後のレポート課題	4時間
第4回	**推薦図書を選定する（読む力②、文章力②）** 図書館で推薦図書を選定するために、興味のある本を3冊ほど選ぶ。その際に、図書館に置いている本の種類、データベースを使用した本の検索方法などを学ぶ。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第5回	**推薦図書の書評カードを製作する（読む力③、文章力③）** 自身の選択した推薦図書について、内容を要約し、その魅力を伝える書評カードを製作することで、「読む力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、課題④に取り組む【課題④】書評カード	4時間
第6回	**情報を言語化して伝える （話す力①、聞く力②）** 特定の図形や画像や絵文字などを言葉で伝える演習を通して、詳細な言語化、伝達の順序、解釈の差異など、「文章力」の基礎基本を理解する。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第7回	**ビブリオ・バトル（話す力②）** 作成した書評カードをもとに、本の魅力をグループでプレゼンテーションしあう「ビブリオ・バトル」を行う。クラス内で代表者を選出し、学内の本選へ推薦する。【発表】	ビブリオ・バトルを通して学んだことを、授業内メモを参考に、要点と自身の考えや意見をレポート用紙にまとめる。	4時間
第8回	**社会の課題を調べる～SDGｓとは～（情報収集・情報分析、考える力①）** 社会が抱える課題を反映したSDGsへの理解を深めるため、成立の背景にある現状・課題について理解し、未来の社会を想像し、グループで話し合う。「私の品格宣言」を利用したマネジメントの強化を行う。	授業内容を振り返り、SDGsへの理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第9回	**社会の課題を調べる～SDGsを自分ゴトに～（情報収集・情報分析、考える力②）** 世界の子供たちの直面する社会問題を理解し、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちにできることや自分の役割についてグループで話し合う	授業を振り返り、SDGsへの自分の関わり方について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間

第10回	**社会の課題を調べる～SDGs達成のためにできること～（情報収集・情報分析、考える力③）** 自分と自分を取り巻く社会の課題について調べ、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちが身近なところでできることを考える	授業内容を振り返り、課題③に取り組む【課題③】私のアジェンダ2030	4時間
第11回	**時事問題を調査する（書く力①）** 各学科の専門性、各学生の興味関心に応じて、現代の時事問題を調査する。ワークシートに基づいて、概要の整理、専門家の見解の要約をおこなう。	授業を振り返り、現代の時事問題について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第12回	**時事問題を考察する（書く力②）** 第11回で調べた時事問題について、調べた内容を基に自分の意見をまとめる。	前回の時事問題について調べた内容を基に、自分の意見をまとめ、ワークシートを完成させる	4時間
第13回	**論文を作成する（書く力③）** 第11，12回でまとめたワークシートをもとに、時事問題の論文を授業内で作成する。論文を作成することで、文章表現・構成、論理展開などを理解する「書く力」の総合的な演習とする。【論文課題】	授業内で作成した論文課題の内容を精査する	4時間
第14回	**専門家の講演を聞く** 各学科の専門性に応じたゲストスピーカーを招いて、講演を聞く。講演のメモ、要約、調査などを通して、自分の意見や問いを考え、記述する。	授業内容を振り返り、課題⑤に取り組む【課題⑤】講演内容をまとめる	4時間

111

授業科目名	**キャリアベーシック**				
担当教員名	**谷口 信子・橋本 弘子**				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

短大での2年間の学びをスムーズに始められるように、学びの基盤となるスキル・能力を身につけること、即ち情報収集力（「聞き取る力」「読み取る力」）、言語能力（「書く力」「話す力」）、構成能力（「伝える力」「プレゼンテーション能力」）の習得を目指します。さらに社会人の基礎となる共働力を持った人材を育てます。そのために、授業全般を通じて建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」やSDGsの観点を利用して授業を構成します

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	建学の精神をベースにした人間力、情報収集力、言語能力、構成能力、共働力を身につける。	2年間の学修の基礎を形成し、卒業へ向けた学びをスムーズに進めていけるようになる。

汎用的な力

1. DP10.忠恕の心	相手を思いやり、礼儀、マナーなどの人間力をつける。
2. DP4.課題発見	収集した資料から課題を発見できる。
3. DP5.計画・立案力	収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。
4. DP9.役割理解・連携行動	集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。
5. DP7.完遂	自分の担当カ箇所について指定の課題に従ってレポートを完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。
毎回、学修内容に沿った授業内課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に夏休みの課題として「読書感想文」を課します。感想文の評価は引き続き受講するキャリアデザインにて評価いたします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度	10 %	： 授業態度は、授業への取り組みや参加度を全14回の授業を通じて10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
発表（第13回）	10 %	： 第13回目の発表を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
課題（第1，3，7，12 ，14回）		： 計5回分の課題（授業時間外の事後課題）に対して、各回10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

50 %

論文課題（第10回） : 論文課題に対して15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

15 %

定期試験 : 定期試験時に実施するレポート作成を15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

15 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

毎回資料を配布いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 主に木曜日

場所： 各授業担当者の研究室

備考・注意事項： 備考・注意事項：オフィスアワー以外の時間も受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただけると確かです。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**キャリアベーシックとは何か** 建学の精神・PBMP・LDC・言葉遣い教育・人間力（聞く話す読む書く協働する）など、授業の前提と目的を確認する。これからの短大の学び、ひいては社会での学びの基礎となるように多様な視点への気づき、言葉や文章についての理解を深める。	授業内容を振り返り、課題①に取り組む【課題①】自分のキャリアを考える	4時間
第2回	**メディア・リテラシーとは何か（情報収集力の基礎）（聞く力①、読む力①）** さまざまなメディアによる情報があふれる中からの情報の収集にかかわる考えを学ぶ。また世界的に活躍するクリエイターなどの講演映像を視聴し、話の趣旨や意図を考察する。さらにグループディスカッションや調査を通して解釈を深め、「情報収集力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第3回	**レポート課題の基礎を知る（文章力①）** 比較検討による情報源の選定、ファクトチェック、事実と意見の区別、引用ルールなど、情報収集の要点を知り、SDGsなどを利用しながらレポート課題の基礎を学ぶ。研究倫理教育についてもこの回に実施する。	授業内容を振り返り、課題②に取り組む【課題②】研究倫理教育実施後のレポート課題	4時間
第4回	**推薦図書を選定する（読む力②、文章力②）** 図書館で推薦図書を選定するために、興味のある本を3冊ほど選ぶ。その際に、図書館に置いている本の種類、データベースを使用した本の検索方法などを学ぶ。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第5回	**推薦図書の書評カードを製作する（読む力③、文章力③）** 自身の選択した推薦図書について、内容を要約し、その魅力を伝える書評カードを製作することで、「読む力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、課題④に取り組む【課題④】書評カード	4時間
第6回	**情報を言語化して伝える （話す力①、聞く力②）** 特定の図形や画像や絵文字などを言葉で伝える演習を通して、詳細な言語化、伝達の順序、解釈の差異など、「文章力」の基礎基本を理解する。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第7回	**ビブリオ・バトル（話す力②）** 作成した書評カードをもとに、本の魅力をグループでプレゼンテーションしあう「ビブリオ・バトル」を行う。クラス内で代表者を選出し、学内の本選へ推薦する。【発表】	ビブリオ・バトルを通して学んだことを、授業内メモを参考に、要点と自身の考えや意見をレポート用紙にまとめる。	4時間
第8回	**社会の課題を調べる～SDGｓとは～（情報収集・情報分析、考える力①）** 社会が抱える課題を反映したSDGsへの理解を深めるため、成立の背景にある現状・課題について理解し、未来の社会を想像し、グループで話し合う。「私の品格宣言」を利用したマネジメントの強化を行う。	授業内容を振り返り、SDGsへの理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第9回	**社会の課題を調べる～SDGsを自分ゴトに～（情報収集・情報分析、考える力②）** 世界の子供たちの直面する社会問題を理解し、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちにできることや自分の役割についてグループで話し合う	授業を振り返り、SDGsへの自分の関わり方について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間

第10回	**社会の課題を調べる～SDGs達成のためにできること～（情報収集・情報分析、考える力③）** 自分と自分を取り巻く社会の課題について調べ、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちが身近なところでできることを考える	授業内容を振り返り、課題③に取り組む【課題③】私のアジェンダ2030	4時間
第11回	**時事問題を調査する（書く力①）** 各学科の専門性、各学生の興味関心に応じて、現代の時事問題を調査する。ワークシートに基づいて、概要の整理、専門家の見解の要約をおこなう。	授業を振り返り、現代の時事問題について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第12回	**時事問題を考察する（書く力②）** 第11回で調べた時事問題について、調べた内容を基に自分の意見をまとめる。	前回の時事問題について調べた内容を基に、自分の意見をまとめ、ワークシートを完成させる	4時間
第13回	**論文を作成する（書く力③）** 第11，12回でまとめたワークシートをもとに、時事問題の論文を授業内で作成する。論文を作成することで、文章表現・構成、論理展開などを理解する「書く力」の総合的な演習とする。【論文課題】	授業内で作成した論文課題の内容を精査する	4時間
第14回	**専門家の講演を聞く** 各学科の専門性に応じたゲストスピーカーを招いて、講演を聞く。講演のメモ、要約、調査などを通して、自分の意見や問いを考え、記述する。 栄養学科：東淀川区役所との連携により食育講座を行う	授業内容を振り返り、課題⑤に取り組む【課題⑤】講演内容をまとめる	4時間

111

授業科目名	**キャリアベーシック**				
担当教員名	**紺谷 武・楠井 淳子・範 衍麗**				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

短大での2年間の学びをスムーズに始められるように、学びの基盤となるスキル・能力を身につけること、即ち情報収集力（「聞き取る力」「読み取る力」）、言語能力（「書く力」「話す力」）、構成能力（「伝える力」「プレゼンテーション能力」）の習得を目指します。さらに社会人の基礎となる共働力を持った人材を育てます。そのために、授業全般を通じて建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」やSDGsの観点を利用して授業を構成します

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	建学の精神をベースにした人間力、情報収集力、言語能力、構成能力、共働力を身につける。	2年間の学修の基礎を形成し、卒業へ向けた学びをスムーズに進めていけるようになる。

汎用的な力	
1. DP10.忠恕の心	相手を思いやり、礼儀、マナーなどの人間力をつける。
2. DP4.課題発見	収集した資料から課題を発見できる。
3. DP5.計画・立案力	収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。
4. DP9.役割理解・連携行動	集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。
5. DP7.完遂	自分の担当カ箇所について指定の課題に従ってレポートを完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。
毎回、学修内容に沿った授業内課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に夏休みの課題として「読書感想文」を課します。感想文の評価は引き続き受講するキャリアデザインにて評価いたします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度	10 %	： 授業態度は、授業への取り組みや参加度を全14回の授業を通じて10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
発表（第13回）	10 %	： 第13回目の発表を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
課題（第1，3，7，12 ，14回）		： 計5回分の課題（授業時間外の事後課題）に対して、各回10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

50 %

論文課題（第10回） : 論文課題に対して15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

15 %

定期試験 : 定期試験時に実施するレポート作成を15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

15 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

毎回資料を配布いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 主に木曜日

場所： 各授業担当者の研究室

備考・注意事項： 備考・注意事項：オフィスアワー以外の時間も受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただけると確かです。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**キャリアベーシックとは何か** 建学の精神・PBMP・LDC・言葉遣い教育・人間力（聞く話す読む書く協働する）など、授業の前提と目的を確認する。これからの短大の学び、ひいては社会での学びの基礎となるように多様な視点への気づき、言葉や文章についての理解を深める。	授業内容を振り返り、課題①に取り組む【課題①】自分のキャリアを考える	4時間
第2回	**メディア・リテラシーとは何か（情報収集力の基礎）（聞く力①、読む力①）** さまざまなメディアによる情報があふれる中からの情報の収集にかかわる考えを学ぶ。また世界的に活躍するクリエイターなどの講演映像を視聴し、話の趣旨や意図を考察する。さらにグループディスカッションや調査を通して解釈を深め、「情報収集力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第3回	**レポート課題の基礎を知る（文章力①）** 比較検討による情報源の選定、ファクトチェック、事実と意見の区別、引用ルールなど、情報収集の要点を知り、SDGsなどを利用しながらレポート課題の基礎を学ぶ。研究倫理教育についてもこの回に実施する。	授業内容を振り返り、課題②に取り組む【課題②】研究倫理教育実施後のレポート課題	4時間
第4回	**推薦図書を選定する（読む力②、文章力②）** 図書館で推薦図書を選定するために、興味のある本を3冊ほど選ぶ。その際に、図書館に置いている本の種類、データベースを使用した本の検索方法などを学ぶ。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第5回	**推薦図書の書評カードを製作する（読む力③、文章力③）** 自身の選択した推薦図書について、内容を要約し、その魅力を伝える書評カードを製作することで、「読む力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、課題④に取り組む【課題④】書評カード	4時間
第6回	**情報を言語化して伝える （話す力①、聞く力②）** 特定の図形や画像や絵文字などを言葉で伝える演習を通して、詳細な言語化、伝達の順序、解釈の差異など、「文章力」の基礎基本を理解する。	授業を振り返り、SDGsへの自分の関わり方について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第7回	**ビブリオ・バトル（話す力②）** 作成した書評カードをもとに、本の魅力をグループでプレゼンテーションしあう「ビブリオ・バトル」を行う。クラス内で代表者を選出し、学内の本選へ推薦する。【発表】	ビブリオ・バトルを通して学んだことを、授業内メモを参考に、要点と自身の考えや意見をレポート用紙にまとめる。	4時間
第8回	**社会の課題を調べる～SDGｓとは～（情報収集・情報分析、考える力①）** 社会が抱える課題を反映したSDGsへの理解を深めるため、成立の背景にある現状・課題について理解し、未来の社会を想像し、グループで話し合う。「私の品格宣言」を利用したマネジメントの強化を行う。	授業内容を振り返り、SDGsへの理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第9回	**社会の課題を調べる～SDGsを自分ゴトに～（情報収集・情報分析、考える力②）** 世界の子供たちの直面する社会問題を理解し、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちにできることや自分の役割についてグループで話し合う	授業を振り返り、SDGsへの自分の関わり方について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間

第10回	**社会の課題を調べる～SDGs達成のためにできること～（情報収集・情報分析、考える力③）** 自分と自分を取り巻く社会の課題について調べ、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちが身近なところでできることを考える	授業内容を振り返り、課題③に取り組む【課題③】私のアジェンダ2030	4時間
第11回	**時事問題を調査する（書く力①）** 各学科の専門性、各学生の興味関心に応じて、現代の時事問題を調査する。ワークシートに基づいて、概要の整理、専門家の見解の要約をおこなう。	授業を振り返り、現代の時事問題について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第12回	**時事問題を考察する（書く力②）** 第８回で調べた時事問題について、調べた内容を基に自分の意見をまとめる。	前回の時事問題について調べた内容を基に、自分の意見をまとめ、ワークシートを完成させる	4時間
第13回	**論文を作成する（書く力③）** 第８，９回でまとめたワークシートをもとに、時事問題の論文を授業内で作成する。論文を作成することで、文章表現・構成、論理展開などを理解する「書く力」の総合的な演習とする。【論文課題】	授業内で作成した論文課題の内容を精査する	4時間
第14回	**専門家の講演を聞く** 各学科の専門性に応じたゲストスピーカーを招いて、講演を聞く。講演のメモ、要約、調査などを通して、自分の意見や問いを考え、記述する。	授業内容を振り返り、課題⑤に取り組む【課題⑤】講演内容をまとめる	4時間

111

授業科目名	**キャリアベーシック**				
担当教員名	百々 徹				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

短大での2年間の学びをスムーズに始められるように、学びの基盤となるスキル・能力を身につけること、即ち情報収集力（「聞き取る力」「読み取る力」）、言語能力（「書く力」「話す力」）、構成能力（「伝える力」「プレゼンテーション能力」）の習得を目指します。さらに社会人の基礎となる共働力を持った人材を育てます。そのために、授業全般を通じて建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」やSDGsの観点を利用して授業を構成します

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	建学の精神をベースにした人間力、情報収集力、言語能力、構成能力、共働力を身につける。	2年間の学修の基礎を形成し、卒業へ向けた学びをスムーズに進めていけるようになる。

汎用的な力	
1. DP10.忠恕の心	相手を思いやり、礼儀、マナーなどの人間力をつける。
2. DP4.課題発見	収集した資料から課題を発見できる。
3. DP5.計画・立案力	収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。
4. DP9.役割理解・連携行動	集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。
5. DP7.完遂	自分の担当カ箇所について指定の課題に従ってレポートを完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。
毎回、学修内容に沿った授業内課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に夏休みの課題として「読書感想文」を課します。感想文の評価は引き続き受講するキャリアデザインにて評価いたします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度	10 %	： 授業態度は、授業への取り組みや参加度を全14回の授業を通じて10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
発表（第13回）	10 %	： 第13回目の発表を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
課題（第1，3，7，12 ，14回）		： 計5回分の課題（授業時間外の事後課題）に対して、各回10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

50 %

論文課題（第10回） : 論文課題に対して15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

15 %

定期試験 : 定期試験時に実施するレポート作成を15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

15 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

毎回資料を配布いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日午後

場所： 各授業担当者の研究室

備考・注意事項： 備考・注意事項：オフィスアワー以外の時間も受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただけると確かです。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**キャリアベーシックとは何か** 建学の精神・PBMP・LDC・言葉遣い教育・人間力（聞く話す読む書く協働する）など、授業の前提と目的を確認する。これからの短大の学び、ひいては社会での学びの基礎となるように多様な視点への気づき、言葉や文章についての理解を深める。	授業内容を振り返り、課題①に取り組む【課題①】自分のキャリアを考える	4時間
第2回	**メディア・リテラシーとは何か（情報収集力の基礎）（聞く力①、読む力①）** さまざまなメディアによる情報があふれる中からの情報の収集にかかわる考えを学ぶ。また世界的に活躍するクリエイターなどの講演映像を視聴し、話の趣旨や意図を考察する。さらにグループディスカッションや調査を通して解釈を深め、「情報収集力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第3回	**レポート課題の基礎を知る（文章力①）** 比較検討による情報源の選定、ファクトチェック、事実と意見の区別、引用ルールなど、情報収集の要点を知り、SDGsなどを利用しながらレポート課題の基礎を学ぶ。研究倫理教育についてもこの回に実施する。	授業内容を振り返り、課題②に取り組む【課題②】研究倫理教育実施後のレポート課題	4時間
第4回	**推薦図書を選定する（読む力②、文章力②）** 図書館で推薦図書を選定するために、興味のある本を3冊ほど選ぶ。その際に、図書館に置いている本の種類、データベースを使用した本の検索方法などを学ぶ。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第5回	**推薦図書の書評カードを製作する（読む力③、文章力③）** 自身の選択した推薦図書について、内容を要約し、その魅力を伝える書評カードを製作することで、「読む力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、課題④に取り組む【課題④】書評カード	4時間
第6回	**情報を言語化して伝える （話す力①、聞く力②）** 特定の図形や画像や絵文字などを言葉で伝える演習を通して、詳細な言語化、伝達の順序、解釈の差異など、「文章力」の基礎基本を理解する。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第7回	**ビブリオ・バトル（話す力②）** 自分と自分を取り巻く社会の課題について調べ、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちが身近なところでできることを考える	ビブリオ・バトルを通して学んだことを、授業内メモを参考に、要点と自身の考えや意見をレポート用紙にまとめる。	4時間
第8回	**社会の課題を調べる～SDGｓとは～（情報収集・情報分析、考える力①）** 社会が抱える課題を反映したSDGsへの理解を深めるため、成立の背景にある現状・課題について理解し、未来の社会を想像し、グループで話し合う。「私の品格宣言」を利用したマネジメントの強化を行う。	授業内容を振り返り、SDGsへの理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第9回	**社会の課題を調べる～SDGsを自分ゴトに～（情報収集・情報分析、考える力②）** 世界の子供たちの直面する社会問題を理解し、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちにできることや自分の役割についてグループで話し合う	授業を振り返り、SDGsへの自分の関わり方について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間

第10回	**社会の課題を調べる～SDGs達成のためにできること～（情報収集・情報分析、考える力③）** 自分と自分を取り巻く社会の課題について調べ、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちが身近なところでできることを考える	授業内容を振り返り、課題③に取り組む【課題③】私のアジェンダ2030	4時間
第11回	**時事問題を調査する（書く力①）** 各学科の専門性、各学生の興味関心に応じて、現代の時事問題を調査する。ワークシートに基づいて、概要の整理、専門家の見解の要約をおこなう。	授業を振り返り、現代の時事問題について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第12回	**時事問題を考察する（書く力②）** 第８回で調べた時事問題について、調べた内容を基に自分の意見をまとめる。	前回の時事問題について調べた内容を基に、自分の意見をまとめ、ワークシートを完成させる	4時間
第13回	**論文を作成する（書く力③）** 第８，９回でまとめたワークシートをもとに、時事問題の論文を授業内で作成する。論文を作成することで、文章表現・構成、論理展開などを理解する「書く力」の総合的な演習とする。【論文課題】	ビブリオ・バトルを通して学んだことを、授業内メモを参考に、要点と自身の考えや意見をレポート用紙にまとめる。	4時間
第14回	**専門家の講演を聞く** 各学科の専門性に応じたゲストスピーカーを招いて、講演を聞く。講演のメモ、要約、調査などを通して、自分の意見や問いを考え、記述する。	授業内容を振り返り、課題⑤に取り組む【課題⑤】講演内容をまとめる	4時間

111

授業科目名	**情報システム論**				
担当教員名	福永 栄一				
学年・コース等	1回生　経営会計コース	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	企業内で情報システムの開発・運用を行っていました。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業は、社会で働く際に必須アイテムとなっている情報システムの基礎知識を修得することを目的としています。ビジネス社会はコンピュータによって短期間に多くの仕事を行い、大きな成果を生み出すように発展しました。これからのビジネス社会では、今まで以上に情報システムを使って、効率よく効果的に仕事をすることが求められます。そのために必要な考え方と知識を学びます。情報システムや関連する技術や知識を具体的にイメージできるようになることを目標とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	コンピュータに関する基礎知識	情報システムで使われる、用語の意味を理解できる。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	情報システムに関する基礎知識	情報システムを活用するために必要なセキュリティーやネットワーク等の基礎知識を理解できる。

汎用的な力

1. DP4.課題発見	ビジネスで情報システムを活用する力

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取組と課題	45 %	： 授業に集中して取組んだか、アクティブに取り組んだか、周りの学生やクラスに協力したか、授業内容を確実に理解したか、課題に教員の指示通り取組み成果物を作りあげたかなどを評価します。
確認課題	30 %	： 確認問題にチャレンジします。そこまでの授業で学んだ知識や技術を修得できたか、それを応用する力が身についたか、それをイメージして表現できるかなどを評価します。レポート作成、問題などの方法で確認します。
期末試験	25 %	： 授業全体を通じて学んだ知識や技術を修得できたか、それを応用する力が身についたか、それをイメージして表現できるかなどを評価します。レポート作成、問題などの方法で確認します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
坂下 夕里	・ かんたん合格 ITパスポート 教科書&必須問題 令和6年度	・ インプレス	・ 2024 年

参考文献等

必要に応じて講義中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をします。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日２限目（10:40-12:20）

場所： 研究室（西館５階62）

備考・注意事項： アポイントのある方を優先します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**企業** 企業にとって業務を効率化するためのシステムを導入することは必須であり、ITの活用が企業利益を大きく左右することを学びます。この授業の学びを通じて企業やＩＴを自分でイメージできるようになることを目標とすることを確認します。ITを利活用するすべての社会人・これから社会人となる学生が備えておくべき、ITに関する基礎的な知識（ITパスポートで問われる内容）を修得することを確認します。	これから勉強するためのノートを準備し、今日学んだこと、授業で身に着ける知識や目標を整理します。	4時間
第2回	**経営戦略** 経営戦略とはどんなことか、なぜ必要か、どうやって策定するのかなどを学びます。経営理念とはなにか、「ヒト・モノ・カネ・情報」という経営資源をどう活用するのかなどを学びます。	経営戦略、経営理念などを復習し、ノートを整理します。	4時間
第3回	**マーケティング** マーケティングとはどんなことか、なぜ必要か、どうやって実行するのかなどを学びます。マーケティングの種類やそれぞれの特徴、マーケティングミックスなどを学びます。	マーケティング、マーケティングミックスなどを復習し、ノートを整理します。	4時間
第4回	**組織** 組織とはどうゆうものか、なぜ組織が必要か、どうやって組織を作るのかなどを学びます。組織の種類やそれぞれの特徴、人材や雇用などを学びます。	組織、人材、雇用などを復習し、ノートを整理します。	4時間
第5回	**情報システムの活用** 情報システムとは何か、なぜ情報システムが必要か、どうすれば情報システムを活用できるのかなどを学びます。情報システム戦略や経営管理システムなどを学びます。	情報システムや経営管理システムなどを復習し、ノートを整理します。	4時間
第6回	**e-ビジネスとAI・IoT** e-ビジネスとは何か、どんなe-ビジネスがあるのか、e-ビジネスの特徴などを学 びます。AIとIoTの活用について学びます。	e-ビジネス、AIなどを復習し、ノートを整理します。	4時間
第7回	**前半の振り返りとまとめ** ここまでの学びを振返り、経営やＩＴのイメージを確認します。さらに知識を増やし、イメージをより明確に・正しくします。具体的には、自分のこれらのイメージを説明するためのレポートや資料（図や絵：プレゼンテーション用資料）を作成します。まとめながら周りの学生と見比べ・相談して、そこで指摘された意見や考えも反映して作成します。周りの学生も積極的に意見し考え方を伝えます。	自分が作った絵や図を見直し・追加修正します。	4時間
第8回	**イメージ化した内容の発表** 作成したレポートや資料（図や絵：プレゼンテーション用資料）を発表します。全員で発表を採点評価し、より良くなるようなコメントを出し合います。	発表結果を振返って絵や図を見直し・追加修正します。	4時間
第9回	**企業と法律** 企業に関連する法律を学びます。経営のための法律、個人情報に関する法律、労働に関する法律、消費者を保護する法律などを学びます。	学んだ法律を復習し、ノートを整理します。	4時間
第10回	**ITに関する法律** 企業のITに関する法律を学びます。不正アクセス禁止法、サイバーセキュリティ基本法などを学びます。	学んだ法律を復習し、ノートを整理します。	4時間
第11回	**知的財産権** 知的財産権に関する法律を学びます。著作権、産業財産権、ソフトウェアのライセンスに関連する考え方などを学びます。	学んだ法律を復習し、ノートを整理します。	4時間

第12回	**標準化** 標準化とは何か、なぜ標準化しないといけないのか、標準化の効果は何か、標準化の手法、標準化規格などを学びます。	標準化やその効果、手法などを復習し、ノートを整理します。	4時間
第13回	**セキュリティ** セキュリティとは何か、なぜセキュリティが重要なのか、情報資産が抱える脅威、セキュリティ対策、人的脅威、物理的脅、不正のメカニズムなどを学びます。	セキュリティ、情報資産が抱える脅威などを復習し、ノートを整理します。	4時間
第14回	**全体振返り** 全体の学びを振返り、経営やＩＴのイメージを確認します。さらに知識を増やし、イメージをより明確に・正しくします。具体的には、自分のこれらのイメージを説明するためのレポートや資料（図や絵：プレゼンテーション用資料）を作成します。 まとめながら周りの学生と見比べ・相談して、そこで指摘された意見や考えも反映して作成します。周りの学生も積極的に意見し考え方を伝えます。	自分が作った絵や図を見直し・追加修正します。	4時間

111

授業科目名	**情報処理概論**				
担当教員名	吉田 澄江				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義・演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	コンピュータスクールにてマネージャー職および Microsoft Office講師。企業の広報部にて広告媒体を企画・デザイン・制作。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

コンピュータ（Windows）の基本操作を理解していることを前提とし、学内におけるコンピュータ・ネットワーク環境の知識と操作を学んだうえで、情報社会に対応するスキルとして①情報モラルとセキュリティ②Eメールとインターネットのマナーとルールを習得する。また、ビジネス活用できるスキルとして①タッチタイピングの習得（各自のレベルに応じて目標を設定）②Word・Excel・PowerPointの実践的な使い方を習得。Word・Excel・PowerPointは、実際にビジネスの現場で使われる題材を使用し、実践的に学習する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	情報リテラシー	情報社会を生き抜くためのルールやマナー、セキュリティの知識、Windowsの操作からインターネットを利用した情報収集、Officeの活用まで、情報化社会に対応する能力を身に付ける。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		パソコンの実習を通して、情報を適切に活用し課題を解決する知識や技能を養い、実践に活かせるスキルを習得する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
単元ごとの課題	50 %	： タイピング×2、Word×4、Excel×4、PowerPoint×2（計12ファイル）
アプリケーションごとの実技テスト	20 %	： Word （ビジネス文書作成）、Excel（関数とグラフを含む課題作成）
授業への取り組み状況	15 %	： 授業内外において、積極的に課題に取り組む姿勢があるかどうかを評価する
試験（実技）	15 %	： PowerPoint（プレゼンテーションを作成）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

情報リテラシー 総合編／FOM出版、その他授業内で適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

※配布プリントを使って操作手順を学び（講義）、実践力を養うためにできるだけ多くの練習課題に取り組む（演習）。受講生のレベルに応じて、検定問題などの個別課題も用意する。授業は毎回課題のステップアップ形式で進めるので、欠席・遅刻をしないこと。
※半期2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
※毎回の授業開始前にパソコンを起動し、ログインしておくこと。
ログインに必要なユーザIDとパスワードを初回授業から必ず持参してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業前後に質問対応します。
その他連絡が必要な場合はEメールで。（吉田：yoshida-s@g.osaka-seikei.ac.jp）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション／コンピュータの活用1** ・学内におけるコンピュータ環境の概要説明と使用方法 ・Windowsの基本操作確認 ・ドライブ、フォルダ、ファイルの説明、課題の保存・提出先について ・タイピングの基本／キーと指の対応 ・タイピングソフトを使った練習法 ・タイピングスキルチェック（10分間入力）	キーと指の対応を復習／タイピング練習	4時間
第2回	**コンピュータの活用2 ～情報化社会に対応するスキル～** ・ローマ字入力スピードアップ術 ・効率のよい入力を行うための変換技 ・ショートカットキーを使いこなす ・情報モラルとセキュリティ ・インターネットを使いこなす ・Eメールのルールとマナー	タイピング練習／Word基本操作の予習	4時間
第3回	**Word1 ～ビジネス文書を作成する（基本編）～** ・入力と編集の基本 ・文字と段落の書式設定 ・ビジネス文書の基本フォーマット	Word課題①（ビジネス文書基本編）の復習	4時間
第4回	**Word2 ～表作成とビジネス文書（応用編）～** ・表の挿入と編集（罫線／網掛け／デザイン編集） ・表を含むビジネス文書作成	Word課題②（ビジネス文書応用編）の復習	4時間
第5回	**Word3 ～Wordを使ってチラシやポスターを作成する～** ・表現力をアップする機能 ・オブジェクトの利用（図形作成／クリップアート／ワードアート） ・オブジェクトを利用した文書作成	Word課題③（チラシ作成）の復習	4時間
第6回	**Word4 ～実践テクニックと地図作成～** ・Word実践テクニック（テンプレートの活用／線種とページ罫線と網掛けの設定／図表と組織図） ・実践テクニックを活用したビジネス文書作成 ・地図作成とPDF変換	Word課題④（地図作成～PDF保存）の復習	4時間
第7回	**Word5 ～実技テストと解説～** ・Word実技テスト ・実技テスト解説 ・ここまで学んだWord課題の復習と提出確認	Word実技テスト復習／Excel基本操作の予習	4時間
第8回	**Excel1 ～Excelの基本操作と表作成～** ・データ入力の基礎と手順 ・シートとセルの操作、書式設定 ・表の作成と編集	Excel課題①（売上表・管理表作成）の復習	4時間
第9回	**Excel2 ～絶対参照／相対参照と関数を理解する～** ・演算処理 ・絶対参照と相対参照の違い ・関数の使い方と活用	Excel課題②（絶対参照と相対参照）の復習	4時間
第10回	**Excel3 ～複雑な関数と実践テクニック～** ・Excel実践テクニック （関数の応用／リスト／条件付き書式など）	Excel課題③（関数の活用課題）の復習	4時間
第11回	**Excel4 ～グラフの作成とデザイン編集～** ・グラフの用途と種類、基本構成について ・各種グラフを作成する ・色々なデザインにアレンジする	Excel課題④（様々なグラフ作成）の復習	4時間
第12回	**Excel5 ～実技テストと解説～** ・Excel実技テスト ・実技テスト解説 ・ここまで学んだExcel課題の復習と提出確認	Excel実技テストの復習／PowerPoint基本操作の予習	4時間
第13回	**PowerPoint1 ～基本操作とプレゼンテーション作成～** ・PowerPointの基本操作 ・基本的なプレゼンテーションの作成 ・オブジェクト（表、グラフ、図形、グラフィック）を活用したプレゼンテーションの作成	PowerPoint課題①（プレゼンテーション作成基本編）の復習	4時間
第14回	**PowerPoint2 ～スライド作成の応用とプレゼンテーション実施のコツ～**	PowerPoint課題②（アニメーションや特殊効果を含むプレゼンテーション作成応用編）の復習	4時間

・様々な特殊効果（アニメーション・画面切り替え効果）をマスターする ・プレゼンテーション実施のコツ ・スライドのカスタマイズ		

111

授業科目名	**情報処理概論**				
担当教員名	坂下 理穂・米田　三沙子				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業の初期段階では、在学中にネットワーク環境を問題なく使いこなせるようになるため、PCの基本操作やメール、LANの基本構造について習得する。さらに在学中および卒業後に必ず必要となるパソコンのアプリケーションソフト（特にWord、Excel、PowerPoint）の最も基本的な操作について習得する。将来のアパレル・ファッション業界およびイラスト・アニメ・デザイン業界での業務を考慮し、情報収集力とプレゼンテーションのスキルも身につけるため、最終段階において上記アプリケーションソフトを総合的に利用し、特定の課題に対するプレゼンテーションを実施する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	パソコンの基礎的操作を通じ、与えられた課題に対して、必要な情報についてwebを通して入手出来るようになる。	Word、Excel、PowerPointの基本操作を通じ、情報収集に基づく整理とプレゼンテーションを行う。
汎用的な力		
1. DP7.完遂		企画したテーマを達成するために、情報収集力を駆使し最後まで課題を最後まで完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業開始前にPCを起動しておくこと。
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
毎回の課題内容への取組み状況	25 %	:	指示された内容について取り組んでいるかを判定する
毎回の提出物の評価	20 %	:	指定の課題に対して的確に実践できているかを判定する
プレゼンテーション力	25 %	:	指定課題内容を含んでいるか、分かりやすい発表を行っているかを判定する
定期試験	30 %	:	養われるべき力が到達目標に達しているかどうかを実技テストで判定する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・Microsoft Excel 2021 基礎 Office 2021/Microsoft 365 対応（よくわかる)富士通ラーニングメディア(FOM出版) ISBN-10: 4938927918, ISBN-13: 978-4938927912, 2022/8/1
・Microsoft Word 2021 基礎 Office 2021/Microsoft 365 対応（よくわかる)富士通ラーニングメディア(FOM出版）, ISBN-10: 4938927926, ISBN-13: 978-4938927929, 2022/8/1
・Microsoft PowerPoint 2021 基礎 Office 2021/Microsoft 365 対応（よくわかる)富士通ラーニングメディア(FOM出版), ISBN-10: 4938927934, ISBN-13: 978-4938927936, 2022/9/16

履修上の注意・備考・メッセージ

授業開始前にPCを起動しておくこと。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日

場所： 授業実施教室

備考・注意事項： 質問は授業の前後に応じる。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**学内PC環境の概要説明 （コンピュータスキルの向上に向けて）** 学内におけるコンピュータやネットワーク環境の概要説明と使用方法について理解する。 授業における課題提出の方法を理解する。	メールの使用方法、学内のオンラインシステムを理解する。	4時間
第2回	**Wordの操作1（文書の保存と印刷）** 基本的な文書の作成および保存、印刷の手法を習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	メニューバーやツールバー（リボン）の使い方を復習しておく。	4時間
第3回	**Wordの操作2（文書作成）** 文書作成におけるテクニック、表作成と書式操作について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	単語登録、特殊記号、インデント、行間設定など文書作成の基本テクニックを復習しておく。	4時間
第4回	**Wordの操作3（資料作成と応用機能）** 文書作成における頻度の高い応用機能について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	縦書きと横書き、段組み、文字の修飾など、機能性のある手法を復習しておく。	4時間
第5回	**Wordの操作4（提出用レポートの作成）** これまでの操作を総合して、実際に授業内で提出する模擬レポートの作成を行う。 授業内容をもとに指定された提出課題を作成する。	ページ番号、図の挿入の方法などを復習しておく。	4時間
第6回	**Excelの操作1（入力とシートの理解）** 基本操作として、セルへのデータ入力、修正、移動、コピーについて習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	メニューバーやツールバー（リボン）の使い方を復習しておく。	4時間
第7回	**Excelの操作2（演算・関数）** 演算として数式の入力、関数使用・作成について習得する。 Excelを用いて表作成に関数機能を利用する能力を習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	表計算の基礎となる演算方法を復習しておく。	4時間
第8回	**Excelの操作3（グラフと資料の作成）** グラフ作成方法について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	種々のグラフ作成と表示方法や機能について復習しておく。	4時間
第9回	**PowerPointの操作1（デザインの基本）** 基本操作として文字入力および体裁の変換方法について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	メニューバーやツールバー（リボン）の使い方を復習しておく。	4時間
第10回	**PowerPointの操作2（図形描画の基本）** 図形描画の手法について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	オートシェイプ機能やレイアウトの基本ツールについて復習しておく。	4時間
第11回	**PowerPointの操作3（プレゼンテーションの手法）** プレゼンテーション機能について学ぶ。 PowerPointにExcelで作成した表やグラフを貼り付けることができる技術を習得する. 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	背景設定やアニメーションの機能について復習しておく。	4時間
第12回	**プレゼンテーション準備1（Word,Excel,PowerPointの総合理解）** プレゼンテーション課題の提示と、それをもとにした情報収集およびPowerPointによる簡単なプレゼンテーションの準備。	インターネットを用いた情報収集と編集およびプレゼンテーションファイル作成を復習しておく。	4時間
第13回	**プレゼンテーション準備2（Word,Excel,PowerPointの総合理解）**	インターネットを用いた情報収集と編集およびプレゼンテーションファイル作成を復習しておく。	4時間

	プレゼンテーション課題の提示と、それをもとにした情報収集およびPowerPointによる簡単なプレゼンテーションの準備を引き続き行う。		
第14回	**プレゼンテーション準備3（オンライン会議の方法）** 作成したプレゼンテーション資料をオンライン会議で発表することを想定した場合の操作方法を習得する。また、オンライン会議の運営方法などを習得する。	オンライン会議での発表操作方法について復習しておく。	4時間

111

授業科目名	キャリアベーシック				
担当教員名	瀬川 悠紀子				
学年・コース等	1回生　調理コース・FCコース	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

短大での2年間の学びをスムーズに始められるように、学びの基盤となるスキル・能力を身につけること、即ち情報収集力（「聞き取る力」「読み取る力」）、言語能力（「書く力」「話す力」）、構成能力（「伝える力」「プレゼンテーション能力」）の習得を目指します。さらに社会人の基礎となる共働力を持った人材を育てます。そのために、授業全般を通じて建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」やSDGsの観点を利用して授業を構成します

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	建学の精神をベースにした人間力、情報収集力、言語能力、構成能力、共働力を身につける。	2年間の学修の基礎を形成し、卒業へ向けた学びをスムーズに進めていけるようになる。

汎用的な力	
1. DP10.忠恕の心	相手を思いやり、礼儀、マナーなどの人間力をつける。
2. DP4.課題発見	収集した資料から課題を発見できる。
3. DP5.計画・立案力	収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。
4. DP9.役割理解・連携行動	集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。
5. DP7.完遂	自分の担当カ箇所について指定の課題に従ってレポートを完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。
毎回、学修内容に沿った授業内課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に夏休みの課題として「読書感想文」を課します。感想文の評価は引き続き受講するキャリアデザインにて評価いたします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度	10　%	： 授業参加度は全14回の授業を通じて、独自のルーブリックによって12点満点で評価し、成績全体の10%に読み替える。
発表（第7回）	10　%	： 第7回目の発表（ビブリオ）を独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。
課題（第1，3，5，10，14回）		： 計5回分の課題（授業時間外の事後課題）に対して、独自のルーブリックによって各回21点満点で評価し、5回分の総合点を成績全体の50%に読み替える。

50 %

論文課題（第13回） : 論文課題に対して、独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。

15 %

定期試験 : 定期試験時に実施するレポート作成を独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。

15 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

毎回資料を配布いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 瀬川：月2

場所： 瀬川：本館3階調理研究室

備考・注意事項： 備考・注意事項：オフィスアワー以外の時間も受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただけると確かです。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**キャリアベーシックとは何か** 建学の精神・PBMP・LDC・言葉遣い教育・人間力（聞く話す読む書く協働する）など、授業の前提と目的を確認する。これからの短大の学び、ひいては社会での学びの基礎となるように多様な視点への気づき、言葉や文章についての理解を深める。	授業内容を振り返り、課題①に取り組む【課題①】自分のキャリアを考える	4時間
第2回	**メディア・リテラシーとは何か（情報収集力の基礎）（聞く力①、読む力①）** さまざまなメディアによる情報があふれる中からの情報の収集にかかわる考えを学ぶ。また世界的に活躍するクリエイターなどの講演映像を視聴し、話の趣旨や意図を考察する。さらにグループディスカッションや調査を通して解釈を深め、「情報収集力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第3回	**レポート課題の基礎を知る（文章力①）** 比較検討による情報源の選定、ファクトチェック、事実と意見の区別、引用ルールなど、情報収集の要点を知り、SDGsなどを利用しながらレポート課題の基礎を学ぶ。研究倫理教育についてもこの回に実施する。	授業内容を振り返り、課題②に取り組む【課題②】研究倫理教育実施後のレポート課題	4時間
第4回	**推薦図書を選定する（読む力②、文章力②）** 図書館で推薦図書を選定するために、興味のある本を3冊ほど選ぶ。その際に、図書館に置いている本の種類、データベースを使用した本の検索方法などを学ぶ。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第5回	**推薦図書の書評カードを製作する（読む力③、文章力③）** 自身の選択した推薦図書について、内容を要約し、その魅力を伝える書評カードを製作することで、「読む力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、課題④に取り組む【課題④】書評カード	4時間
第6回	**情報を言語化して伝える （話す力①、聞く力②）** 特定の図形や画像や絵文字などを言葉で伝える演習を通して、詳細な言語化、伝達の順序、解釈の差異など、「文章力」の基礎基本を理解する。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第7回	**ビブリオ・バトル（話す力②）** 作成した書評カードをもとに、本の魅力をグループでプレゼンテーションしあう「ビブリオ・バトル」を行う。クラス内で代表者を選出し、学内の本選へ推薦する。【発表】	ビブリオ・バトルを通して学んだことを、授業内メモを参考に、要点と自身の考えや意見をレポート用紙にまとめる。	4時間
第8回	**社会の課題を調べる～SDGｓとは～（情報収集・情報分析、考える力①）** 社会が抱える課題を反映したSDGsへの理解を深めるため、成立の背景にある現状・課題について理解し、未来の社会を想像し、グループで話し合う。「私の品格宣言」を利用したマネジメントの強化を行う。	授業内容を振り返り、SDGsへの理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第9回	**社会の課題を調べる～SDGsを自分ゴトに～（情報収集・情報分析、考える力②）** 世界の子供たちの直面する社会問題を理解し、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちにできることや自分の役割についてグループで話し合う。	授業を振り返り、SDGsへの自分の関わり方について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間

第10回	**社会の課題を調べる～SDGs達成のためにできること～（情報収集・情報分析、考える力③）** 自分と自分を取り巻く社会の課題について調べ、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちが身近なところでできることを考える。	授業内容を振り返り、課題③に取り組む【課題③】私のアジェンダ2030	4時間
第11回	**時事問題を調査する（書く力①）** 各学科の専門性、各学生の興味関心に応じて、現代の時事問題を調査する。ワークシートに基づいて、概要の整理、専門家の見解の要約をおこなう。	授業を振り返り、現代の時事問題について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第12回	**時事問題を考察する（書く力②）** 第11回で調べた時事問題について、調べた内容を基に自分の意見をまとめる。	前回の時事問題について調べた内容を基に、自分の意見をまとめ、ワークシートを完成させる	4時間
第13回	**論文を作成する（書く力③）** 第11，12回でまとめたワークシートをもとに、時事問題の論文を授業内で作成する。論文を作成することで、文章表現・構成、論理展開などを理解する「書く力」の総合的な演習とする。【論文課題】	授業内で作成した論文課題の内容を精査する	4時間
第14回	**専門家の講演を聞く** 各学科の専門性に応じたゲストスピーカーを招いて、講演を聞く。講演のメモ、要約、調査などを通して、自分の意見や問いを考え、記述する。	授業内容を振り返り、課題⑤に取り組む【課題⑤】講演内容をまとめる	4時間

111

授業科目名	**海外語学演習（英語）**				
担当教員名	麻畠 徳子				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期集中	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業は海外語学留学に行く学生のために、留学生活をスムーズに開始し、現地での大学生活に適応して、積極的かつ有意義に留学期間を過ごすことができるよう事前に学ぶことで、成果をもって日本に帰国することができるようにすることが目標です。留学先の国について、生活習慣、食事、マナー、言語、気候などあらゆる角度から学び、現地での生活、学習などについて、学生自ら情報を収集することができるように指導します。なお、本科目は語学留学と事前・事後学修を含めて単位を修得するものです。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	語学の基礎知識：留学を円滑に行うことができるよう、必要となる知識を身に付けることができる。	留学の基礎知識：出発前、留学中、帰国後それぞれ、必要な知識、情報、心構えなどについて理解を深め、学生自ら積極的に行動することができる。
汎用的な力		
1. DP6.行動・実践		主体性：異文化理解の知識を養い、海外生活における判断力・思考力を主体性をもって高めることができる。
2. DP7.完遂		積極性：海外の生活習慣を学び、英会話の基礎知識を養い、観察力・適応力をもって、自主的かつ積極的に留学生活を送ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

1．原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。
2．具体的な渡航先については2024年6月以降に掲示予定です。
3．新型コロナウイルスの世界的な感染拡大状況によっては変更または中止の可能性もあります。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
事前授業における参加状況	30 %	： 授業内での積極的な発言および取り組み状況。ワークへの積極的参加と課題シート記入の適切性について3段階で評価する。
留学中の生活・学習状況	40 %	： 現地大学のクラス・グレードおよび学生の研修報告シート。
事後授業における到達状況	30 %	： レポート課題とプレゼンテーションにおいて、文書表現の正確性、データ整理の適切性、プレゼン資料の表現力、明確性、伝達力により評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教科書は使用せずプリントを配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
授業では、プレゼンテーション、グループワーク等、授業担当者の言葉だけでなく、他の学生の発表、意見に積極的に耳を傾けてください。
海外語学研修に参加する学生のみが履修可能。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜1限

場所：　研究室（西館5階）

備考・注意事項：　授業の前後にも質問に応じる。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**海外留学について学ぶ** 留学の意義、目的などについて説明。	各自、留学の意味、目的について考える	4時間
第2回	**英語の基礎的な学力を確認する** 現在の英語力の確認。英語で自己紹介してみよう。	英語による自己紹介の復習、不明点のチェック	4時間
第3回	**英語の会話文例を学ぶ** 会話文例を学び、暗誦練習。 参加者同士、英語で自己紹介練習など行う。	会話文例の復習、不明点のチェック	4時間
第4回	**海外の生活習慣・文化について理解する** 海外の生活習慣と文化の特徴について学び、理解する。 質問、疑問点を積極的に出して、日本とどのように異なるのか考え、異文化理解を図る。	海外生活に関する復習、不明点のチェック	4時間
第5回	**海外語学留学（２３日間）** 留学先の大学・語学学校における研修。	留学先の大学・語学学校の課題	4時間
第6回	**語学留学で習得したことを整理する** 語学留学を終えて、さまざまな体験を整理し、語学力において習得できたこと、また実際の生活を通して感じ得たことを、異文化理解の観点からまとめる。	語学研修全体に対する復習、まとめ	4時間

111

授業科目名	**キャリアデザイン**				
担当教員名	百々 徹				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目は本学の建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」を通じて社会で活躍できる人に成長するための学びの基礎となる科目です。前期科目のキャリアベーシックに続き、SDGsの観点を利用し自らの考えを提案・探求しながら考えを深化するなど、学びの楽しさを身に付けます。
授業ではアクティブラーニングを主とし、課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる内容で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	社会人として必要な人間性や社会性を醸成するために、主として「提案」「探求」をテーマに展開する。	課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる。

汎用的な力	
1. DP4.課題発見	収集した資料から将来のキャリアに関する課題や社会の課題を発見し発表できる。
2. DP5.計画・立案力	収集した資料や発見した課題から、新しいプランを提案し積極的に取り組むことができる。
3. DP9.役割理解・連携行動	集団やチームの中で自分の役割を理解し協働できる。
4. DP7.完遂	授業からの学びや探究活動を通じ得たものをまとめてプレゼン発表をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」とします。
テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後にテーマに従って課題の発表を行います。優秀者はプレゼン大会に出場します。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度（全14回の授業を通じて評価）	10 %	： 授業参加度は全14回の授業を通じて、独自のルーブリックによって12点満点で評価し、成績全体の10%に読み替える。
課題（第1，2，11）	30 %	： 計3回分の課題に対して、独自のルーブリックによって各回21点満点で評価し、3回分の総合点を成績全体の30%に読み替える。
課題（第8回：プレゼンシート）	15 %	： プレゼンシートに対して、独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。

課題（第13回：論文） : 論文課題に対して、独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。

15 %

プレゼン発表（第9回） : プレゼン発表に対して、独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。

15 %

定期試験 : 定期試験時に実施するレポート作成を独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。

15 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
毎回テーマに沿った課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。
最後に課題に沿った文章を作成し発表します。優秀者はプレゼン大会に出場します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 主に木曜日

場所： 各授業担当者の研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外の時間も受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただけると確かです。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**外部講師による講演①（SDGsの全体像を理解する）** ・外部講師による講演を聞きSDGｓの背景や全体像について理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる。	SDGsに関しての学びを振り返り、レポートにまとめる。 【課題①】講演レポート	4時間
第2回	**外部講師による講演②（SDGsの各課題について深く学ぶ）** ・外部講師による講演を聞きSDGｓの各課題に関しての理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる	SDGsに関しての学びを振り返り、レポートにまとめる。 【課題②】講演レポート	4時間
第3回	**問いの立て方を学ぶ** ・自ら問いを立て、その答えを探求する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。	問いの立て方について復習する	4時間
第4回	**社会の課題（少子化問題）について問いを立てて考えを深める** ・少子化問題の現状を知る。 ・少子化問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組んで発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第5回	**社会の課題（環境問題）について問いを立てて考えを深める** ・環境問題の現状を知る。 ・環境問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組んで発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する	4時間
第6回	**社会の課題を理解する** ・SDGsの気になる目標を選び、その目標が必要になった背景にある社会課題やその現状を知る。 ・調べる中で出てきた問いについてもさらに調べることで理解を深める。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第7回	**自分には何ができるか考える** ・第6回で選んだSDGｓの目標に対して、自分は何ができるかを考え、提案書を作成する。 ・次回の論文作成に向けて提案の意見交換をする。	授業を振り返り、提案書を完成させる	4時間
第8回	**社会の課題に対してできることを発信する** ・これまでの授業を通じて発信する内容を振り返る ・これまでの提案書を元に論文を授業内で作成する。【論文課題】	授業内で作成した論文課題の内容を精査する	4時間
第9回	**自己の課題を理解する**	授業内容を振り返り、自己の客観的把握を深めワークシートを完成させる	4時間

	・自分の視点・物事の見方の癖を知り、自己の理解を深める。 ・PROGテストの結果を利用して客観的把握をする。 ・他者の視点を借りた客観的把握をする。 ・「私の品格宣言」を利用したマネジメントの強化を行う。		
第10回	**自己の課題を理解し、自己を向上させるための具体的行動を考える** ・授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・前回の授業内容と授業外学修課題を振り返り、自身の弱みを克服したり、強みをさらに伸ばすためにできることを考え、マンダラチャートの作成に取り組む。9マス思考に取り組むための多様な観点を知ることで具体的行動を多様にする。	【課題③】マンダラチャートを完成させる	4時間
第11回	**自分の専門分野を探求する** ・前回の授業と授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・自分自身の興味関心と各学科の特性に沿った課題を結び付け問いを立てて調査する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。	【課題④】探求レポートを完成させる。	4時間
第12回	**探求レポートをスライドにまとめる** ・授業外学修課題で完成させた探求レポートの内容をスライドにまとめる。 ・探求レポートを要約し簡潔にポイントを示すなど、最も伝えたいポイントを強調したりするなど工夫しながら、スライドの質を高める。 ・作成したスライドを使って、グループで発表する。	これまでの授業を振り返り、学びをまとめておく。	4時間
第13回	**プレゼンテーションをまとめる** ・「これまでの学びとこれからのわたし」をテーマにプレゼンテーションにまとめて発表することを目標として授業を進行する。 ・まず、これまでの授業（社会問題への取り組み、マンダラチャートの作成、探究活動）を振り返り、学びをまとめる。 ・社会で活躍できる人の特徴などを挙げながら、継続的な学びの姿勢を理解するなど、ワークシートに取り組みながらプレゼンテーションの作成に取り組む。	・【課題⑤】プレゼンシートを完成させる。次回のプレゼンに向けて発表準備をおこなう。	4時間
第14回	**プレゼンテーションを発表する** ・13回で作成したスライドを利用して、それぞれ発表する。 ※優秀者はプレゼン大会に出場します。 ・プレゼンで得た感想や他者の発表を聞いて比較も含めた課題に取りくむ 【発表】	発表した内容をまとめる	4時間

111

授業科目名	キャリアデザイン				
担当教員名	瀬川 悠紀子				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目は本学の建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」を通じて社会で活躍できる人に成長するための学びの基礎となる科目です。前期科目のキャリアベーシックに続き、SDGsの観点を利用し自らの考えを提案・探求しながら考えを深化するなど、学びの楽しさを身に付けます。
授業ではアクティブラーニングを主とし、課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる内容で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	社会人として必要な人間性や社会性を醸成するために、主として「提案」「探求」をテーマに展開する。	課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる。

汎用的な力	
1. DP4.課題発見	収集した資料から将来のキャリアに関する課題や社会の課題を発見し発表できる。
2. DP5.計画・立案力	収集した資料や発見した課題から、新しいプランを提案し積極的に取り組むことができる。
3. DP9.役割理解・連携行動	集団やチームの中で自分の役割を理解し協働できる。
4. DP7.完遂	授業からの学びや探究活動を通じ得たものをまとめてプレゼン発表をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」とします。
テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後にテーマに従って課題の発表を行います。優秀者はプレゼン大会に出場します。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度（全14回の授業を通じて評価）	10 %	： 授業参加度は全14回の授業を通じて、独自のルーブリックによって12点満点で評価し、成績全体の10%に読み替える。
プレゼン発表（第9回）	10 %	： プレゼン発表に対して、独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。
課題（第1，2，11）	50 %	： 計3回分の課題に対して、独自のルーブリックによって各回21点満点で評価し、3回分の総合点を成績全体の30%に読み替える。

論文課題（第8回） : プレゼンシートに対して、独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。

15 %

定期試験 : 定期試験時に実施するレポート作成を独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。

15 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
毎回テーマに沿った課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。
最後に課題に沿った文章を作成し発表します。優秀者はプレゼン大会に出場します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限

場所： 本館3階調理研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外の時間も受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただけると確かです。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**外部講師による講演①（SDGsの全体像を理解する）** ・外部講師による講演を聞きSDGｓの背景や全体像について理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる。	SDGsに関しての学びを振り返り、レポートにまとめる。 【課題①】講演レポート	4時間
第2回	**外部講師による講演②（SDGsの各課題について深く学ぶ）** ・外部講師による講演を聞きSDGｓの各課題に関しての理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる	SDGsに関しての学びを振り返り、レポートにまとめる。 【課題②】講演レポート	4時間
第3回	**問いの立て方を学ぶ** ・自ら問いを立て、その答えを探求する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。	問いの立て方について復習する	4時間
第4回	**社会の課題（少子化問題）について問いを立てて考えを深める** ・少子化問題の現状を知る。 ・少子化問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組んで発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第5回	**社会の課題（環境問題）について問いを立てて考えを深める** ・環境問題の現状を知る。 ・環境問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組んで発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する	4時間
第6回	**社会の課題を理解する** ・SDGsの気になる目標を選び、その目標が必要になった背景にある社会課題やその現状を知る。 ・調べる中で出てきた問いについてもさらに調べることで理解を深める。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第7回	**自分には何ができるか考える** ・第6回で選んだSDGｓの目標に対して、自分は何ができるかを考え、提案書を作成する。 ・次回の論文作成に向けて提案の意見交換をする。	授業を振り返り、提案書を完成させる	4時間
第8回	**社会の課題に対してできることを発信する** ・これまでの授業を通じて発信する内容を振り返る ・これまでの提案書を元にプレゼンシートを授業内で作成する。	【課題③】プレゼンシートを完成させる。次回のプレゼンに向けて発表準備をする	4時間
第9回	**プレゼンテーションを発表する** ・8回で作成したスライドを利用して、それぞれ発表する。 ※優秀者はプレゼン大会に出場します。 ・プレゼンで得た感想や他者の発表を聞いて比較も含めた課題に取りくむ	発表した内容をまとめる	4時間
第10回	**自己の課題を理解する**	授業内容を振り返り、自己の客観的把握を深めワークシートを完成させる	4時間

	・自分の視点・物事の見方の癖を知り、自己の理解を深める。 ・PROGテストの結果を利用して客観的把握をする。 ・他者の視点を借りた客観的把握をする。 ・「私の品格宣言」を利用したマネジメントの強化を行う。		
第11回	**自己の課題を理解し、自己を向上させるための具体的行動を考える** ・授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・前回の授業内容と授業外学修課題を振り返り、自身の弱みを克服したり、強みをさらに伸ばすためにできることを考え、マンダラチャートの作成に取り組む。9マス思考に取り組むための多様な観点を知ることで具体的行動を多様にする。	【課題④】マンダラチャートを完成させる	4時間
第12回	**自分の専門分野を探求する** ・前回の授業と授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・自分自身の興味関心と各学科の特性に沿った課題を結び付け問いを立てて調査する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める	【課題⑤】探求レポートを完成させる。	4時間
第13回	**探求レポートを小論文にまとめる** ・授業外学修課題で完成させた探求レポートを元に論文を授業内で作成する。【論文課題】	授業内で作成した論文課題の内容を精査する。	4時間
第14回	**授業総括「これまでの学びとこれからのわたし」について考える** ・「これまでの学びとこれからのわたし」をテーマにこれまでの授業（社会問題への取り組み、マンダラチャートの作成、探究活動）を振り返り、学びをまとめる。 ・社会で活躍できる人の特徴などを挙げながら、継続的な学びの姿勢を理解するなど、ワークシートに取り組み総括を行う	・定期試験に向けてワークシートをまとめる。	4時間

111

授業科目名	**キャリアデザイン**				
担当教員名	**田原 彩**				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目は本学の建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」を通じて社会で活躍できる人に成長するための学びの基礎となる科目です。前期科目のキャリアベーシックに続き、SDGsの観点を利用し自らの考えを提案・探求しながら考えを深化するなど、学びの楽しさを身に付けます。
授業ではアクティブラーニングを主とし、課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる内容で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	社会人として必要な人間性や社会性を醸成するために、主として「提案」「探求」をテーマに展開する。	課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる。

汎用的な力

1. DP4.課題発見	収集した資料から将来のキャリアに関する課題や社会の課題を発見し発表できる。
2. DP5.計画・立案力	収集した資料や発見した課題から、新しいプランを提案し積極的に取り組むことができる。
3. DP9.役割理解・連携行動	集団やチームの中で自分の役割を理解し協働できる。
4. DP7.完遂	授業からの学びや探究活動を通じ得たものをまとめてプレゼン発表をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」とします。
テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後にテーマに従って課題の発表を行います。優秀者はプレゼン大会に出場します。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度（全14回の授業を通じて評価）	10 %	： 授業参加度は全14回の授業を通じて、独自のルーブリックによって12点満点で評価し、成績全体の10%に読み替える。
課題（第1，2，11）	30 %	： 計3回分の課題に対して、独自のルーブリックによって各回21点満点で評価し、3回分の総合点を成績全体の30%に読み替える。
課題（第8回：プレゼンシート）	15 %	： プレゼンシートに対して、独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。

課題（第13回：論文） : 論文課題に対して、独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。

15 %

プレゼン発表（第9回） : プレゼン発表に対して、独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。

15 %

定期試験 : 定期試験時に実施するレポート作成を独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。

15 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
毎回テーマに沿った課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。
最後に課題に沿った文章を作成し発表します。優秀者はプレゼン大会に出場します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜4限（15：00～16：40）

場所： 製菓研究室（本館３階）

備考・注意事項： オフィスアワー以外の質問も受け付けます。
不在の際には、Eメール（tabara@g.osaka-seikei.ac.jp）でも対応します。
ただし、送信日、送信時間によっては回答が遅れる場合があります（第１回授業時に説明）。

【メールの場合】
メールを送る際には下記内容を必ず明記してください。
件名→キャリアデザインに関する質問
本文→送信者の所属コース、学籍番号、氏名

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**外部講師による講演①（SDGsの全体像を理解する）** ・外部講師による講演を聞きSDGｓの背景や全体像について理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる。	SDGsに関しての学びを振り返り、レポートにまとめる。 【課題①】講演レポート	4時間
第2回	**外部講師による講演②（SDGsの各課題について深く学ぶ）** ・外部講師による講演を聞きSDGｓの各課題に関しての理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる	SDGsに関しての学びを振り返り、レポートにまとめる。 【課題②】講演レポート	4時間
第3回	**問いの立て方を学ぶ** ・自ら問いを立て、その答えを探求する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。	問いの立て方について復習する	4時間
第4回	**社会の課題（少子化問題）について問いを立てて考えを深める** ・少子化問題の現状を知る。 ・少子化問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組んで発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第5回	**社会の課題（環境問題）について問いを立てて考えを深める** ・環境問題の現状を知る。 ・環境問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組んで発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第6回	**社会の課題を理解する** ・SDGsの気になる目標を選び、その目標が必要になった背景にある社会課題やその現状を知る。 ・調べる中で出てきた問いについてもさらに調べることで理解を深める。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第7回	**自分には何ができるか考える** ・第6回で選んだSDGｓの目標に対して、自分は何ができるか、行動に移すためにはどうすればよいかを考え、提案書を作成する。 ・次回のプレゼン資料作成に向けて提案の意見交換をする。	授業を振り返り、提案書を完成させる	4時間
第8回	**社会の課題に対してできることを発信する**	・【課題③】プレゼンシートを完成させる。次回のプレゼンに向けて発表準備をする	4時間

	・これまでの授業を通じて発信する内容を振り返る ・これまでの提案書を元にプレゼンシートを授業内で作成する。		
第9回	**プレゼンテーションを発表する** ・8回で作成したスライドを利用して、それぞれ発表する。 ※優秀者はプレゼン大会に出場します。 ・プレゼンで得た感想や他者の発表を聞いて比較も含めた課題に取りくむ	発表した内容をまとめる	4時間
第10回	**自己の課題を理解する** ・自分の視点・物事の見方の癖を知り、自己の理解を深める。 ・PROGテストの結果を利用して客観的把握をする。 ・他者の視点を借りた客観的把握をする。 ・「私の品格宣言」を利用したマネジメントの強化を行う。	授業内容を振り返り、自己の客観的把握を深めワークシートを完成させる	4時間
第11回	**自己の課題を理解し、自己を向上させるための具体的行動を考える** ・授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・前回の授業内容と授業外学修課題を振り返り、自身の弱みを克服したり、強みをさらに伸ばすためにできることを考え、マンダラチャートの作成に取り組む。9マス思考に取り組むための多様な観点を知ることで具体的行動を多様にする。	【課題④】マンダラチャートを完成させる	4時間
第12回	**自分の専門分野を探求する** ・前回の授業と授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・自分自身の興味関心と各学科の特性に沿った課題を結び付け問いを立てて調査する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める	【課題⑤】探求レポートを完成させる。	4時間
第13回	**探求レポートを小論文にまとめる** ・授業外学修課題で完成させた探求レポートを元に論文を授業内で作成する。【論文課題】	授業内で作成した論文課題の内容を精査する。	4時間
第14回	**授業総括「これまでの学びとこれからのわたし」について考える** ・「これまでの学びとこれからのわたし」をテーマにこれまでの授業（社会問題への取り組み、マンダラチャートの作成、探究活動）を振り返り、学びをまとめる。 ・社会で活躍できる人の特徴などを挙げながら、継続的な学びの姿勢を理解するなど、ワークシートに取り組み総括を行う	・定期試験に向けてワークシートをまとめる。	4時間

111

授業科目名	キャリアデザイン				
担当教員名	谷口 信子・小川 彩				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目は本学の建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」を通じて社会で活躍できる人に成長するための学びの基礎となる科目です。前期科目のキャリアベーシックに続き、SDGsの観点を利用し自らの考えを提案・探求しながら考えを深化するなど、学びの楽しさを身に付けます。
授業ではアクティブラーニングを主とし、課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる内容で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	社会人として必要な人間性や社会性を醸成するために、主として「提案」「探求」をテーマに展開する。	課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる。

汎用的な力	
1. DP4.課題発見	収集した資料から将来のキャリアに関する課題や社会の課題を発見し発表できる。
2. DP5.計画・立案力	収集した資料や発見した課題から、新しいプランを提案し積極的に取り組むことができる。
3. DP9.役割理解・連携行動	集団やチームの中で自分の役割を理解し協働できる。
4. DP7.完遂	授業からの学びや探究活動を通じ得たものをまとめてプレゼン発表をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」とします。
テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後にテーマに従って課題の発表を行います。優秀者はプレゼン大会に出場します。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度（全14回の授業を通じて評価）	10 %	： 授業参加度は全14回の授業を通じて、独自のルーブリックによって12点満点で評価し、成績全体の10%に読み替える。
課題（第1，2，11）	30 %	： 計3回分の課題に対して、独自のルーブリックによって各回21点満点で評価し、3回分の総合点を成績全体の30%に読み替える。
課題（第8回：プレゼンシート）	15 %	： プレゼンシートに対して、独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。

課題（第13回：論文）　：　論文課題に対して、独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。

15　%

プレゼン発表（第9回）　：　プレゼン発表に対して、独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。

15　%

定期試験　：　定期試験時に実施するレポート作成を独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。

15　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
毎回テーマに沿った課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。
最後に課題に沿った文章を作成し発表します。優秀者はプレゼン大会に出場します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　主に木曜日

場所：　各授業担当者の研究室

備考・注意事項：　オフィスアワー以外の時間も受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただけると確かです。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**外部講師による講演①（SDGsの全体像を理解する）** ・外部講師による講演を聞きSDGｓの背景や全体像について理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる。	SDGsに関しての学びを振り返り、レポートにまとめる。 【課題①】講演レポート	4時間
第2回	**外部講師による講演②（SDGsの各課題について深く学ぶ）** ・外部講師による講演を聞きSDGｓの各課題に関しての理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる	SDGsに関しての学びを振り返り、レポートにまとめる。 【課題②】講演レポート	4時間
第3回	**問いの立て方を学ぶ** ・自ら問いを立て、その答えを探求する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。	問いの立て方について復習する	4時間
第4回	**社会の課題（少子化問題）について問いを立てて考えを深める** ・少子化問題の現状を知る。 ・少子化問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組んで発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第5回	**社会の課題（環境問題）について問いを立てて考えを深める** ・環境問題の現状を知る。 ・環境問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組んで発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する	4時間
第6回	**社会の課題を理解する** ・SDGsの気になる目標を選び、その目標が必要になった背景にある社会課題やその現状を知る。 ・調べる中で出てきた問いについてもさらに調べることで理解を深める。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第7回	**自分には何ができるか考える** ・第6回で選んだSDGｓの目標に対して、自分は何ができるかを考え、提案書を作成する。 ・次回の論文作成に向けて提案の意見交換をする。	授業を振り返り、提案書を完成させる	4時間
第8回	**社会の課題に対してできることを発信する** ・これまでの授業を通じて発信する内容を振り返る ・これまでの提案書を元にプレゼンシートを授業内で作成する。	【課題③】プレゼンシートを完成させる。次回のプレゼンに向けて発表準備をする	4時間
第9回	**プレゼンテーションを発表する** ・8回で作成したスライドを利用して、それぞれ発表する。 ※優秀者はプレゼン大会に出場します。 ・プレゼンで得た感想や他者の発表を聞いて比較も含めた課題に取りくむ	発表した内容をまとめる	4時間

第10回	**自己の課題を理解する** ・自分の視点・物事の見方の癖を知り、自己の理解を深める。 ・PROGテストの結果を利用して客観的把握をする。 ・他者の視点を借りた客観的把握をする。 ・「私の品格宣言」を利用したマネジメントの強化を行う。	授業内容を振り返り、自己の客観的把握を深めワークシートを完成させる	4時間
第11回	**自己の課題を理解し、自己を向上させるための具体的行動を考える** ・授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・前回の授業内容と授業外学修課題を振り返り、自身の弱みを克服したり、強みをさらに伸ばすためにできることを考え、マンダラチャートの作成に取り組む。9マス思考に取り組むための多様な観点を知ることで具体的行動を多様にする。	【課題④】マンダラチャートを完成させる	4時間
第12回	**自分の専門分野を探求する** ・前回の授業と授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・自分自身の興味関心と各学科の特性に沿った課題を結び付け問いを立てて調査する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める	【課題⑤】探求レポートを完成させる。	4時間
第13回	**探求レポートを小論文にまとめる** 授業外学修課題で完成させた探求レポートを元に論文を授業内で作成する。【論文課題】	授業内で作成した論文課題の内容を精査する。	4時間
第14回	**授業総括「これまでの学びとこれからのわたし」について考える** ・「これまでの学びとこれからのわたし」をテーマにこれまでの授業（社会問題への取り組み、マンダラチャートの作成、探究活動）を振り返り、学びをまとめる。 ・社会で活躍できる人の特徴などを挙げながら、継続的な学びの姿勢を理解するなど、ワークシートに取り組み総括を行う	定期試験に向けてワークシートをまとめる。	4時間

111

授業科目名	**キャリアデザイン**				
担当教員名	紺谷 武・楠井 淳子・範 衍麗				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目は本学の建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」を通じて社会で活躍できる人に成長するための学びの基礎となる科目です。前期科目のキャリアベーシックに続き、SDGsの観点を利用し自らの考えを提案・探求しながら考えを深化するなど、学びの楽しさを身に付けます。
授業ではアクティブラーニングを主とし、課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる内容で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	社会人として必要な人間性や社会性を醸成するために、主として「提案」「探求」をテーマに展開する。	課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる。

汎用的な力

1. DP4.課題発見	収集した資料から将来のキャリアに関する課題や社会の課題を発見し発表できる。
2. DP5.計画・立案力	収集した資料や発見した課題から、新しいプランを提案し積極的に取り組むことができる。
3. DP9.役割理解・連携行動	集団やチームの中で自分の役割を理解し協働できる。
4. DP7.完遂	授業からの学びや探究活動を通じ得たものをまとめてプレゼン発表をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」とします。
テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後にテーマに従って課題の発表を行います。優秀者はプレゼン大会に出場します。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度（全14回の授業を通じて評価）	10 %	： 授業参加度は全14回の授業を通じて、独自のルーブリックによって12点満点で評価し、成績全体の10%に読み替える。
課題（第1，2，11）	30 %	： 計3回分の課題に対して、独自のルーブリックによって各回21点満点で評価し、3回分の総合点を成績全体の30%に読み替える。
課題（第8回：プレゼンシート）	15 %	： プレゼンシートに対して、独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。

課題（第13回：論文） : 論文課題に対して、独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。

15 %

プレゼン発表（第9回） : プレゼン発表に対して、独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。

15 %

定期試験 : 定期試験時に実施するレポート作成を独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。

15 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
毎回テーマに沿った課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。
最後に課題に沿った文章を作成し発表します。優秀者はプレゼン大会に出場します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 主に木曜日

場所： 各授業担当者の研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外の時間も受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただけると確かです。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**外部講師による講演①（SDGsの全体像を理解する）** ・外部講師による講演を聞きSDGｓの背景や全体像について理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる。	SDGsに関しての学びを振り返り、レポートにまとめる。 【課題①】講演レポート	4時間
第2回	**外部講師による講演②（SDGsの各課題について深く学ぶ）** ・外部講師による講演を聞きSDGｓの各課題に関しての理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる	SDGsに関しての学びを振り返り、レポートにまとめる。 【課題②】講演レポート	4時間
第3回	**問いの立て方を学ぶ** ・自ら問いを立て、その答えを探求する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。	問いの立て方について復習する	4時間
第4回	**社会の課題（少子化問題）について問いを立てて考えを深める** ・少子化問題の現状を知る。 ・少子化問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組んで発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第5回	**社会の課題（環境問題）について問いを立てて考えを深める** ・環境問題の現状を知る。 ・環境問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組んで発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する	4時間
第6回	**社会の課題を理解する** ・SDGsの気になる目標を選び、その目標が必要になった背景にある社会課題やその現状を知る。 ・調べる中で出てきた問いについてもさらに調べることで理解を深める。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第7回	**自分には何ができるか考える** ・第6回で選んだSDGｓの目標に対して、自分は何ができるかを考え、提案書を作成する。 ・次回の論文作成に向けて提案の意見交換をする。	授業を振り返り、提案書を完成させる	4時間
第8回	**社会の課題に対してできることを発信する** ・これまでの授業を通じて発信する内容を振り返る ・これまでの提案書を元に論文を授業内で作成する。【論文課題】	授業内で作成した論文課題の内容を精査する	4時間
第9回	**自己の課題を理解する**	授業内容を振り返り、自己の客観的把握を深めワークシートを完成させる	4時間

	・自分の視点・物事の見方の癖を知り、自己の理解を深める。 ・PROGテストの結果を利用して客観的把握をする。 ・他者の視点を借りた客観的把握をする。 ・「私の品格宣言」を利用したマネジメントの強化を行う。		
第10回	**自己の課題を理解し、自己を向上させるための具体的行動を考える** ・授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・前回の授業内容と授業外学修課題を振り返り、自身の弱みを克服したり、強みをさらに伸ばすためにできることを考え、マンダラチャートの作成に取り組む。9マス思考に取り組むための多様な観点を知ることで具体的行動を多様にする。	【課題③】マンダラチャートを完成させる	4時間
第11回	**自分の専門分野を探求する** ・前回の授業と授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・自分自身の興味関心と各学科の特性に沿った課題を結び付け問いを立てて調査する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。	【課題④】探求レポートを完成させる。	4時間
第12回	**探求レポートをスライドにまとめる** ・授業外学修課題で完成させた探求レポートの内容をスライドにまとめる。 ・探求レポートを要約し簡潔にポイントを示すなど、最も伝えたいポイントを強調したりするなど工夫しながら、スライドの質を高める。 ・作成したスライドを使って、グループで発表する。	これまでの授業を振り返り、学びをまとめておく。	4時間
第13回	**プレゼンテーションをまとめる** ・「これまでの学びとこれからのわたし」をテーマにプレゼンテーションにまとめて発表することを目標として授業を進行する。 ・まず、これまでの授業（社会問題への取り組み、マンダラチャートの作成、探究活動）を振り返り、学びをまとめる。 ・社会で活躍できる人の特徴などを挙げながら、継続的な学びの姿勢を理解するなど、ワークシートに取り組みながらプレゼンテーションの作成に取り組む。	・【課題⑤】プレゼンシートを完成させる。次回のプレゼンに向けて発表準備をおこなう。	4時間
第14回	**プレゼンテーションを発表する** ・13回で作成したスライドを利用して、それぞれ発表する。 ※優秀者はプレゼン大会に出場します。 ・プレゼンで得た感想や他者の発表を聞いて比較も含めた課題に取りくむ 【発表】	発表した内容をまとめる	4時間

111

授業科目名	キャリアデザイン				
担当教員名	平野 明日香				
学年・コース等	1回生　医療事務コース・経営会計コース	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目は本学の建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」を通じて社会で活躍できる人に成長するための学びの基礎となる科目です。前期科目のキャリアベーシックに続き、SDGsの観点を利用し自らの考えを提案・探求しながら考えを深化するなど、学びの楽しさを身に付けます。
授業ではアクティブラーニングを主とし、課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる内容で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	社会人として必要な人間性や社会性を醸成するために、主として「提案」「探求」をテーマに展開する。	課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		収集した資料から将来のキャリアに関する課題や社会の課題を発見し発表できる。
2. DP5.計画・立案力		収集した資料や発見した課題から、新しいプランを提案し積極的に取り組むことができる。
3. DP9.役割理解・連携行動		集団やチームの中で自分の役割を理解し協働できる。
4. DP7.完遂		授業からの学びや探究活動を通じ得たものをまとめてプレゼン発表をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」とします。
テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後にテーマに従って課題の発表を行います。優秀者はプレゼン大会に出場します。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度（全14回の授業を通じて評価）	10 %	： 授業参加度は全14回の授業を通じて、独自のルーブリックによって12点満点で評価し、成績全体の10%に読み替える。
課題（第1，2，11）	30 %	： 計3回分の課題に対して、独自のルーブリックによって各回21点満点で評価し、3回分の総合点を成績全体の30%に読み替える。
課題（第8回：プレゼンシート）	15 %	： プレゼンシートに対して、独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。

課題（第13回：論文）	:	論文課題に対して、独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。
15 %		
プレゼン発表（第9回）	:	プレゼン発表に対して、独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。
15 %		
定期試験	:	定期試験時に実施するレポート作成を独自のルーブリックによって21点満点で評価し、成績全体の15%に読み替える。
15 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
毎回テーマに沿った課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。
最後に課題に沿った文章を作成し発表します。優秀者はプレゼン大会に出場します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日5限

場所：　図書館棟5階研究室

備考・注意事項：　その他、Google Classroomの限定公開コメントやChatでの質問は随時受け付けます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**外部講師による講演①（SDGsの全体像を理解する）** ・外部講師による講演を聞きSDGｓの背景や全体像について理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる。	SDGsに関しての学びを振り返り、レポートにまとめる。 【課題①】講演レポート	4時間
第2回	**外部講師による講演②（SDGsの各課題について深く学ぶ）** ・外部講師による講演を聞きSDGｓの各課題に関しての理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる。	SDGsに関しての学びを振り返り、レポートにまとめる。 【課題②】講演レポート	4時間
第3回	**問いの立て方を学ぶ** ・自ら問いを立て、その答えを探求する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。	問いの立て方について復習する	4時間
第4回	**社会の課題（少子化問題）について問いを立てて考えを深める** ・少子化問題の現状を知る。 ・少子化問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組んで発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第5回	**社会の課題（環境問題）について問いを立てて考えを深める** ・環境問題の現状を知る。 ・環境問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組んで発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する	4時間
第6回	**社会の課題を理解する** ・SDGsの気になる目標を選び、その目標が必要になった背景にある社会課題やその現状を知る。 ・調べる中で出てきた問いについてもさらに調べることで理解を深める。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第7回	**自分には何ができるか考える** ・第6回で選んだSDGｓの目標に対して、自分は何ができるか、行動に移すためにはどうすればよいかを考え、提案書を作成する。 ・次回のプレゼン資料作成に向けて提案の意見交換をする。	授業を振り返り、提案書を完成させる	4時間
第8回	**社会の課題に対してできることを発信する** ・これまでの授業を通じて発信する内容を振り返る ・これまでの提案書を元にプレゼンシートを授業内で作成する。	・【課題③】プレゼンシートを完成させる。次回のプレゼンに向けて発表準備をする	4時間
第9回	**プレゼンテーションを発表する**	発表した内容をまとめる	4時間

	・8回で作成したスライドを利用して、それぞれ発表する。 ※優秀者はプレゼン大会に出場します。 ・プレゼンで得た感想や他者の発表を聞いて比較も含めた課題に取りくむ		
第10回	**自己の課題を理解する** ・自分の視点・物事の見方の癖を知り、自己の理解を深める。 ・PROGテストの結果を利用して客観的把握をする。 ・他者の視点を借りた客観的把握をする。 ・「私の品格宣言」を利用したマネジメントの強化を行う。	授業内容を振り返り、自己の客観的把握を深めワークシートを完成させる	4時間
第11回	**自己の課題を理解し、自己を向上させるための具体的行動を考える** ・授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・前回の授業内容と授業外学修課題を振り返り、自身の弱みを克服したり、強みをさらに伸ばすためにできることを考え、マンダラチャートの作成に取り組む。9マス思考に取り組むための多様な観点を知ることで具体的行動を多様にする。	【課題④】マンダラチャートを完成させる	4時間
第12回	**自分の専門分野を探求する** ・前回の授業と授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・自分自身の興味関心と各学科の特性に沿った課題を結び付け問いを立てて調査する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める	【課題⑤】探求レポートを完成させる。	4時間
第13回	**探求レポートを小論文にまとめる** ・授業外学修課題で完成させた探求レポートを元に論文を授業内で作成する。【論文課題】	授業内で作成した論文課題の内容を精査する。	4時間
第14回	**授業総括「これまでの学びとこれからのわたし」について考える** ・「これまでの学びとこれからのわたし」をテーマにこれまでの授業（社会問題への取り組み、マンダラチャートの作成、探究活動）を振り返り、学びをまとめる。 ・社会で活躍できる人の特徴などを挙げながら、継続的な学びの姿勢を理解するなど、ワークシートに取り組み総括を行う	定期試験に向けてワークシートをまとめる。	4時間

111

授業科目名	**コンピュータリテラシー**				
担当教員名	**吉田 澄江**				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義・演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	コンピュータスクールにてマネージャー職および Microsoft Office講師。企業の広報部にて広告媒体を企画・デザイン・制作。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

コンピュータ（Windows）の基本操作は理解していることを前提とし、学内におけるコンピュータ・ネットワーク環境の知識と操作を学んだ上で、情報化社会に対応するスキルとして①情報モラルとセキュリティ②Eメールとインターネットのルールとマナーを習得する。そして、ビジネスで活用できるスキルとして①タッチタイピングのマスター②Office（Word・Excel・PowerPoint）の実用的な使い方を習得する。Word・Excel・PowerPointは、実際にビジネスの現場で使われる題材を使用し、実践的に学習する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	情報リテラシー	情報社会を生き抜くためのルールやマナー、セキュリティの知識、Windowsの操作からインターネットを利用した情報収集、Officeの活用まで、情報化社会に対応する能力を身に付ける。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		パソコンの実習を通して、情報を適切に活用し課題を解決する知識や技能を養い、実践に活かせるスキルを習得する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「ー」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
単元ごとの課題	50 %	： タイピング×2、Word×4、Excel×4、PowerPoint×2（計12ファイル）
アプリケーションごとの実技テスト	20 %	： Word （ビジネス文書作成）、Excel（関数とグラフを含む課題作成）
授業への取り組み状況	15 %	： 授業内外において、積極的に課題に取り組む姿勢があるかどうかを評価する
試験（実技）	15 %	： PowerPoint（プレゼンテーションを作成）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

情報リテラシー 総合編／FOM出版、その他授業内で適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

※配布プリントを使って操作手順を学び（講義）、実践力を養うためにできるだけ多くの練習課題に取り組む（演習）。受講生のレベルに応じて、検定問題などの個別課題も用意する。授業は毎回課題のステップアップ形式で進めるので、欠席・遅刻をしないこと。
※半期2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
※毎回の授業開始前にパソコンを起動し、ログインしておくこと。
ログインに必要なユーザIDとパスワードを初回授業から必ず持参してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業前後に質問対応します。
その他連絡が必要な場合はEメールで。（吉田：yoshida-s@g.osaka-seikei.ac.jp）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション／コンピュータの活用1** ・学内におけるコンピュータ環境の概要説明と使用方法 ・Windowsの基本操作確認 ・ドライブ、フォルダ、ファイルの説明、課題の保存・提出先について ・タイピングの基本／キーと指の対応 ・タイピング練習ソフトを使った練習法 ・タイピングスキルチェック（10分間入力）	キーと指の対応を復習／タイピング練習	4時間
第2回	**コンピュータの活用2 ～情報化社会に対応するスキル～** ・ローマ字入力スピードアップ術 ・効率のよい入力を行うための変換技 ・ショートカットキーを使いこなす ・情報モラルとセキュリティ ・インターネットを使いこなす ・Eメールのルールとマナー	タイピング練習／Word基本操作の予習	4時間
第3回	**Word1 ～ビジネス文書を作成する（基本編）～** ・入力と編集の基本 ・文字と段落の書式設定 ・ビジネス文書の基本フォーマット	Word課題①（ビジネス文書基本編）の復習	4時間
第4回	**Word2 ～表作成とビジネス文書（応用編）～** ・表の挿入と編集（罫線／網掛け／デザイン編集） ・表を含むビジネス文書作成	Word課題②（ビジネス文書応用編）の復習	4時間
第5回	**Word3 ～Wordを使ってチラシやポスターを作成する～** ・表現力をアップする機能 ・オブジェクトの利用（図形作成／クリップアート／ワードアート） ・オブジェクトを利用した文書作成	Word課題③（チラシ作成）の復習	4時間
第6回	**Word4 ～実践テクニックと地図作成～** ・Word実践テクニック（テンプレートの活用／線種とページ罫線と網掛けの設定／図表と組織図） ・実践テクニックを活用したビジネス文書作成 ・地図作成とPDF変換	Word課題④（地図作成～PDF保存）の復習	4時間
第7回	**Word5 ～実技テストと解説～** ・Word実技テスト ・実技テスト解説 ・ここまで学んだWord課題の復習と提出確認	Word実技テスト復習／Excel基本操作の予習	4時間
第8回	**Excel1 ～Excelの基本操作と表作成～** ・データ入力の基礎と手順 ・シートとセルの操作、書式設定 ・表の作成と編集	Excel課題①（売上表・管理表作成）の復習	4時間
第9回	**Excel2 ～絶対参照／相対参照と関数を理解する～** ・演算処理 ・絶対参照と相対参照の違い ・関数の使い方と活用	Excel課題②（絶対参照と相対参照）の復習	4時間
第10回	**Excel3 ～複雑な関数と実践テクニック～** ・Excel実践テクニック （関数の応用／リスト／条件付き書式など）	Excel課題③（関数の活用課題）の復習	4時間
第11回	**Excel4 ～グラフの作成とデザイン編集～** ・グラフの用途と種類、基本構成について ・各種グラフを作成する ・色々なデザインにアレンジする	Excel課題④（様々なグラフ作成）の復習	4時間
第12回	**Excel5 ～実技テストと解説～** ・Excel実技テスト ・実技テスト解説 ・ここまで学んだExcel課題の復習と提出確認	Excel実技テストの復習／PowerPoint基本操作の予習	4時間
第13回	**PowerPoint1 ～基本操作とプレゼンテーション作成～** ・PowerPointの基本操作 ・基本的なプレゼンテーションの作成 ・オブジェクト（表、グラフ、図形、グラフィック）を活用したプレゼンテーションの作成	PowerPoint課題①（プレゼンテーション作成基本編）の復習	4時間
第14回	**PowerPoint2 ～スライド作成の応用とプレゼンテーション実施のコツ～**	PowerPoint課題②（アニメーションや特殊効果を含むプレゼンテーション作成応用編）の復習	4時間

・様々な特殊効果（アニメーション・画面切り替え効果）をマスターする ・プレゼンテーション実施のコツ ・スライドのカスタマイズ		